

2019

亜細亜大学

テニス部

TEAM GUIDE

チームガイド
&
国際大会開催
報告
REPORT



新1号館



学生生活に関する各事務室や教員の研究室、会議室などがある校舎です。

2号館



ガラス張りの外観がひときわ目立つ校舎。中・大規模教室と、屋上庭園があります。

3号館



演習や語学の授業に使われる小規模教室と、講義用の大教室、講堂があります。

5号館



大小24の教室。授業の合間には多くの学生が行き交い、ベンチで談笑する光景も。

7号館



南門に接した教室メインの校舎。正面にはコミュニティバスの停留所があります。

8号館(国際交流会館)



国際交流センター、附置機関、大学院生用の自習室、留学生別科の教室などがあります。

太田耕造記念館



約68万冊の蔵書と最新設備を備えた図書館、学園史展示室などで構成されています。

ASIA PLAZA



食堂とグループ学習スペースを擁する、多目的施設です。

体育館

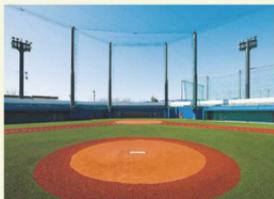


競技用のフロアのほか、柔道場、剣道場、リング、トレーニングセンターなどがあります。

Hinode Campus

日の出キャンパス

グラウンドやテニスコートを擁する総合運動場をはじめ、合宿などで利用する宿泊施設があります。最寄り駅はJR五日市線「武蔵引田」駅。



日の出キャンパス 紹介

ここがテニス部のホームです!

最寄り駅はJR五日市線「武蔵引田」駅です。ここにはテニスコートをはじめ、野球場、サッカー場、陸上トラックなど、スポーツ関係の研究施設があります。屋外競技のクラブは主にここで練習をします。



テニスコート

ハードコート8面と砂入り人工芝コート2面の合計10面のテニスコートがあります。面数が多いので、少人数で効率よく、充実した練習ができます(全面ナイター完備)。



トレーニングセンター

機材が整っており、学生はいつでも自由に利用することができます。夜遅くまで筋トレをしている学生もいます。トレーニングルームに隣接して鏡張りの大きな部屋があり、雨の日でもラダーなどのフィールドトレーニングを室内で行なうことができます。



クラブハウス

2010年に完成しました。男子部室、女子部室、監督・コーチ室のほか、ユーティリティがあります。ユーティリティでは、全体ミーティングを行なうほか、テレビやスライドを使って映像の確認や勉強会を行ないます。

日の出 キャンパス 案内図



セミナーハウス(宿泊施設)

テニス部は、12月の年末合宿、2、3月の強化合宿、国際大会開催期間などに利用します。また、他校の学生が練習に訪れているときに宿泊することも多くあります。施設内には大広間もあり、ミーティングや講義が行なわれます。

※学生2000円、ビジター3000円(朝夕食付)

アクセス

- 武蔵引田駅まで
- ・「新宿駅」から約90分、「東京駅」から約100分(JR中央線、青梅線、五日市線利用)
 - ・「大宮駅」から約120分(JR埼京線、川越線、八高線、五日市線利用)
- 武蔵引田駅から日の出キャンパス「亜細亜大学セミナーハウス」まで
- ・武蔵引田駅の改札口は北口1ヵ所、下車後、踏切まで戻り、北(左)に向かって徒歩7分

所在地

〒190-0182東京都西多摩郡日の出町平井1449-1 TEL042-597-0714



日 本テニスの育成には大きな課題があります。ひとつは18歳以上の強化です。多くのジュニアや高校生は、指導者や親とともに夢と希望をもってテニスに取り組んできています。テニスは決して18歳までに完成することができない、奥の深いスポーツですが、それを18歳以上でどのように磨くかが日本テニス最大のテーマのほずです。ということは、大学の役割は非常に大きく、特に重要になるのが指導力です。選手が転戦するだけでは身につかないもの、または、それ以上のものを大学が提供できなければ意味がありません。

次に重要となるのが環境の強化です。関東の大学では春関（関東学生）、夏関、新進戦、リーグ戦と4つの大会のみです。全国大会はインカレ、インカレ・インドア、大学王座の3つの大会です。これらの大会は同世代だけが参加します。しかし、実は戦う相手はもっと別の世界にもいます。知っている人と戦うことよりも、まったく知らない人と戦うことがどれだけ人をワクワクさせるでしょうか。大学4年間であらゆる世代やレベルや地域を越えたテニスを体験し、挑むことほど、素晴らしいものはありません。自分がいままでつくり上げたテニスを試す“最高ステージ”は、大学テニスの世界以外にもあるのです。

当然、「負け」や「失敗」が付きまとい、自分を見失うこともあることでしょう。しかし、「負け」を嫌い、「失敗」をたくさんしない学生が、いつどうやってそこから這い上がる精神を身につけることができるでしょうか。私は学生こそ

「失敗することが仕事」だと思っています。そこからしか創意工夫や独創性は生まれてきません。

能力があるにもかかわらず、挑戦を恐れ、安全で安定な道にすぎている精神のテニスには、困難を乗り越える力が備わりません。いつかラケットを置いたときに、就職したときに残るのは、テニスの技術や記録だけではなく、未知を乗り越えてきた精神力であってほしいのです。

私はその一環として、アメリカの大学との対抗戦、韓国体育大学との交流合宿を行なってきました。1月のオーストラリアン・オープン観戦では「これが本物」と感じることができます。そして、いまは春に男女の国際テニス大会（1万5千ドル）を学内で開催しています。学生主体のこの大会は、まさに選手しか経験のない学生たちに、テニスへの取り組み方から、技術、体力、精神力、戦術、歴史、経済、経営、哲学にいたるすべてを、外国選手やスポンサー、観客など、テニスにかかわる人々から学ばせてもらっています。国際大会は最高のコーチングになっているのです。

初めは国際大会レベルのパワーやスピードや意識の違いに弾き飛ばされていたものの、徐々にそれに近づくための行動が起こってきました。「機会」が学生を育てていることを実感します。国際大会という環境は学生に大学テニスに明け暮れる＝守りの伝統を、攻める「機会」へと発展させていることは間違いありません。

私は亜細亜大学に奉職して32年になりますが、冒頭の理想には残念ながらもまだまだ到達しません。それでも、これまで理想に向かっていっしょに闘った多くの学生たちや卒業生には感謝しています。永遠にチームは完成できないかもしれませんが、しかし、向上に悩める学生に出会ったときには、自分の未来を信じて戦う意思がある学生と出会ったときには、いっしょに青春時代を闘いたい。私は自らの可能性を信じる本気の選手を歓迎します。

テニスは18歳までには決して完成しません。自らの可能性を信じて未来に向かって挑戦する本気の選手を歓迎します。

堀内昌一

（亜細亜大学教授 / テニス部監督）



私 たち、亜細亜大学硬式庭球部は男女共に毎年10月に行われる全日本大学対抗王座決定試合（王座）で優勝することを目標に日々活動しています。昨年、男女共に関東大学テニスリーグ1部で戦い、男子は6位、女子は2位という成績を取めました。男子は最下位の6位の為2部リーグに所属している大学と入れ替え戦となり、昨年は駒沢大学と対戦。私もレギュラーとして戦い単複通算7対2で勝利し1部残留を決めました。しかし、私たちの目標としている王座優勝を成し遂げるには関東大学テニスリーグ1部で上位2校に入る必要があります。同リーグには早稲田大学や慶應義塾大学、法政大学などの強豪校が所属していますが、私は必ず王座優勝を成し遂げられると信じています。なぜなら、個人戦において、関東学生で優勝やインカレでベスト8など着々と個人の戦績が上がってきています。また、亜細亜大学にはハードコート8面、オムニコート2面全部で10面のテニスコートという好環境と堀内昌一監督をはじめ森稔詞コーチ、宮崎靖雄コーチ、長久保大樹コーチが指導にあたって下さりコーチングの面でも充実しているからです。しかし、亜細亜大学では常に答えを与えられる存在になるのではなく、自らが考え行動していける人間を育てることをモットーにしています。なので、私を含めた4年生が中心となり練習メニューからトレーニングメニューなどを考えており、どのよ

うにすれば部活をより良くしていけるのか試行錯誤しています。答えを与えられず迷うこともあります。その迷いが自分自身をより大きな人間にしてくれていると私は思います。テニスは常に考えるスポーツでそれを一人で行わなければいけないのでこのような環境で過ごしていることはとても良いことだと感じますし、テニス以外の面でも役に立っていると思います。それを学べる亜細亜大学は最高だと思います。

また、毎年3月にはプロテニスプレイヤーの登竜門といえる国際大会を男女共に開催しています。男子は13年目、女子は8年目の大会を終えました。この大会では、「機会」を大切にしています。大会を学生自ら資金を集めたり、様々なイベントを行って盛り上げたりして運営出来ている機会もそうですが、実際に大会に出場して自らを強くする機会や国内や国外からレベルの高い選手が来てくれるといった機会など様々です。そのような数々の機会を学生自ら拾い上げて自分のレベルアップに繋げていくのがこの国際大会です。

亜細亜大学では、テニスを通して人間力や社会性を向上させていくことが出来る環境が整っており、一緒に切磋琢磨していける仲間もいます。まずは、気軽に亜細亜大学硬式庭球部に体験に来てください。是非、私たちと一緒に高みを目指しましょう。



自ら考え、自ら行動する、
そんな亜細亜大学で
私たちと逆転しましょう。

加藤 彰馬

(亜細亜大学硬式庭球部主将/4年)

かとう・しょうま◎1997年10月4日生まれ。神奈川県出身。横浜清風高校卒。13年全日本ジュニアテニス選手権大会/複優勝。13年Australian open junior championship/出場。17年関東学生新進テニス選手権大会/複優勝。18年全日本学生室内テニス選手権大会/単複ベスト8。

入学案内

スポーツ推薦のご案内 (2020年度)

亜 細亜大学のスポーツ推薦入試は「経営学部 経営学科」「経済学部経済学科」「法学部 法律学科」「国際関係学部国際関係学科」「国際関係学部多文化コミュニケーション学科」「都市創造学部都市創造学科」の5学部6学科があります。

テニス部は2020年、「経営学部経営学科」「経済学部経済学科」「法学部法律学科」「国際関係学部国際関係学科」「都市創造学部」の5つから選択す

ることができます。テニス部には「経営学部」「経済学部」「法学部」「国際関係学部」「都市創造学部 都市創造学科」の学生が在籍しています。

私たちの中には、スポーツ推薦入試だけでなく一般入試やAO入試、指定校推薦などで入部した学生もいます。みんなテニスが大好きな学生ばかりです。部員一同、みなさんの入部をお待ちしています。

亜細亜大学が求める学生像
募集するスポーツの技能に優れた将来性のある者

スポーツ推薦の詳細は亜細亜大学HPにてご確認ください



亜細亜大学

〒180-8629 東京都武蔵野市境5-24-10

入試課直通 TEL0422-36-3273

<https://www.asia-u.ac.jp/admissions/sports/>

e-mail:nyushi@asia-u.ac.jp



1 1995年卒業の宮地弘太郎です。私の同期には、昨年引退した本村剛一プロと2つ下に岩渕聡プロがおり、柳川高校時代から良きライバルでした。

彼らはプロの道を選択し、私は大学進学を選択。亜細亜大学入学当初から、「大学テニスに留まらない競技生活を送る」ことをテーマに4年間を過ごしました。

なぜ亜細亜大学に進学したのか——亜大には日本のトップジュニアが多数在籍しており、大学を経由して世界を目指す集団、大学からプロを目指すというイメージが定着していたことに加え、大学テニスのパイオニアでもある堀内先生の「大学はさらなる飛躍に挑戦する場所であり、大学からグランドスラムに挑戦する」という考えに共感したからです。

卒業後、さまざまな企業のサポートを受け、約8年間プロテニス選手として、ATPランキング100位を目指し、世界を転戦しましたが、目標に到達することはできませんでした。

その後、28歳で現役を引退し、指導者の道へ進むことを決意しました。そこでの主たる研究テーマは、硬式テニス（球技/対人/ネットラケット型）のゲーム分析（エリート選手、大学生選手の技術や戦術の様相）や、競技特性に応じた体力組成の分析により効果的な指導方法論を導き出し、大学生選手の技術に関しては縦断的研究を行ない、ドリルの効果も検討していくことを目指しました。

選手から研究者へという転身は、テニス選手では珍しく、テニス漬けで過ごした私とその道に進むことに周りは驚いて

いましたが、当の本人は、これから新たな人生に向けて30歳手前ながら、胸ときめいていました。私の強みは、実体験で得た知見や、経験で培った実技ですが、現在大学テニスを指導する上でのテーマは、主観的コーチング+客観的コーチングです。テニスは日々進化し、トレーニング方法も年々変容してきています。現場+研究からの知見を学生にフィードバックし、大学生からでも世界を目指す環境整備や、大学テニスの醍醐味を学生に伝えていくことが私の使命ではないかと考えています。

近年、残念なことは高校生プレーヤー、大学生プレーヤーに夢がないことです。大学進学のための『テニス』ではなく、夢の実現のための『テニス』でしょう。私の夢は“日本のテニスを自分が変える！”ことでした。日本のテニスを変える＝大学出身者がグランドスラムに出場すること。そのためには、大学や国内一般の試合だけに留まらず、海外へトライシ、さまざまなプレーヤーと対戦し、自分のスタイルを確立することです。いま日本のテニスは世界と拮抗しています。錦織圭選手、添田豪選手、伊藤竜馬選手と世界のトップ選手＝「テニスで飯が食える」時代に突入してきました。これは、先を見据えたJTAの強化活動の成果だと思います。私はいまこそ、大学テニスプレーヤーがそこに食い込んでいく絶好のタイミングと考えています。

亜細亜大学時代に培われたもの——『考える』ことが『人間を成長させる』ことに繋がり、上達に『近道』はなく、強くなるには『人と違うこと』を『人の倍努力する』ということを学びました。高校生のみなさん、大学生活はあっという間です。『夢』を持って『夢』の実現に向けて精進してください。

学生時代の私の夢は“日本のテニスを変える！”ことでした。いまは大学出身者がグランドスラムに出場する——その夢をもって指導しています。

宮地弘太郎

(大阪体育大学専任教授)

みやち・こうたろう◎1974年2月18日生まれ。広島県出身。柳川高校卒。91年インターハイ団体準優勝、単ベスト8、複ベスト4。92年亜細亜大学に入学。93、95年インカレ優勝。94年全日本準優勝。95年ユニバーシアード銅メダル獲得(27年ぶり)。卒業後プロ転向し、ジャパンオープン・ベスト16。99年全豪予選決勝敗退。元デ杯日本代表。ATP最高位は303位(98年7月)、JOP3位。03年に現役を引退し、日本体育大学大学院を経て、07年4月から現職。ユニバーシアード男子監督。S級エリートコーチ



亜 細亜大学国際オープンには2度目の参加でしたが、前は予選1回戦で敗退し、今回は体調管理が上手くいかずプレーすることができませんでした。亜細亜大学には普段の練習でも時々お世話になっており、とても思い出がありますので、来年こそは結果を残せるよう1年で成長して戻ってきます。

さて、今回の大会で特に記憶に残っていることは、運営の明るさです。あまり長くコートに居ることはできませんでしたが、その短い間でも十分に運営の明るさを感じることができました。いつも気持ちよくプレーできているのは大会運営関係者の皆様の入念な準備があってこそだと強く感じており、心より感謝しております。

学生の手で国際大会を運営することは、実際に大会運営に関わったことの無い僕には想像もつかないほど苦労が多いと思いますが、ぜひ来年以降も開催して頂きたいと思っています。

素晴らしい大会を、本当にありがとうございました。



様々な海外ツアーにも回り、グランドスラムに出る事を目標にこれからも頑張っていきます。

西脇 一樹

(SYSテニスクラブ/19年亜細亜大学国際オープン本戦出場)

にしわき・かずき◎1994年10月29日生まれ。明治大学卒業。学生時代16年全日本大学対抗テニス王座決定試合準優勝、16年全日本選手権大会ダブルスベスト4、18年ITFユニ・チャームトロフィー愛媛国際オープンシングルスベスト4、18年全日本選手権大会シングルスベスト32。ランキング自己最高位は、シングルスATPランク763位、JTAランク25位。現在プロとして活動中。SYSテニスクラブ所属。



今年の亜細亜大学国際大会は、昨年の\$1,500大会から\$2,500大会にレベルが上がりました。国内での8週続いている大会の4週目にあたる大会でしたが、年明けからITFのルールが大きく変更されたため、今までの\$2,500大会よりも非常にレベルの高い大会になりました。ルールが大きく変更された中に、ダブルスにおいてもシングルのランキングを使用できるようになったことがあげられます。そのため、ダブルスのドロウのカットも高くなっているのが現状です。

私自身も今大会は、リストが出た時点では4番アウトでした。シングルの主として戦っている選手は連戦の疲れなどもありダブルスを棄権する選手が少なくないことはわ

かっていましたので、諦めずに1回戦が行われる2日間は会場でサインをして待っていました。試合開始20分前にキャンセルするペアが出たため、試合に出場することができ、今回は自分より4つ下の荒川選手と初ペアリングでしたが2人でチャンスを掴み、優勝することができました。

学生が国際大会を1から運営することは簡単なことではありません。私自身も筑波大学在学中4年間フューチャーズ大会を運営しました。学生達は、各々いろいろな気持ちがある中で選手のことを常に第一優先に考えてくれました。学生主体で運営している国際大会があるということがもっとももっと広まっていくことを祈っています。



学生主体で
運営している
国際大会があるという
ことがもっとももっと
広まっていくことを
祈っています。

米原 実令

(明治安田生命/19年亜細亜国際女子オープン複優勝)

よねはら・みのり◎1995年7月13日生まれ。筑波大学卒業後、明治安田生命に就職。17年全日本学生テニス選手権大会ダブルス優勝。17年全日本選手権ダブルス優勝。18年牧之原国際女子ダブルス優勝。19年亜細亜大学国際女子オープンダブルス優勝。現在は、実業団に所属しながらツアーを転戦中。

CONTENTS

大学案内

- 02 武蔵野キャンパス 03 日の出キャンパス 07 2020年度入学案内

PART 1 部活動紹介

- 04 挨拶～堀内昌一(亜細亜大学教授 / テニス部監督)
16 部活の素晴らしさ、信念 18 テニス部主要Topics[年表]
21 過去(1988～)の主な戦績
26 亜細亜の部活 28 1年間の流れ
入学前から卒業までの流れ 30 我々は本物のテニスを追求する。
31 挨拶～森稔詞(亜細亜大学テニス部コーチ)

PART 2 チーム紹介

- 05 挨拶～加藤彰馬(4年/男子主将)
32 大島正克学長挨拶 33 宇田川裕部長、金子国彦部長挨拶
34 指導スタッフ紹介 36 男女部員名簿
41 亜細亜大学テニス部の寮 42 寮生の1日/浅海裕一(1年)
44 「部員からひと言」高校生のみんなへ 43 自宅生の1日/安井愛乃(1年)
46 文武両道 ～学生は部活と授業の両立を目指す。
学部紹介 48 法学部 福室有那(2年)の場合
49 経済学部 目黒志和(2年)の場合
50 国際関係学部 伊達芽依(4年)の場合
51 経営学部 ホスピタリティマネジメント学科 堀匠毅(4年)の場合
52 経営学部 経営学科 高橋遥菜(2年)の場合
53 都市創造学部 浅海裕一(1年)の場合
54 大学に入って、こんなに変わりました!
松田美咲(3年)/清水奎吾(3年)/南文乃(4年)/工藤颯人(3年)

PART 3 卒業後の進路

- 09 挨拶～宮地弘太郎(亜細亜大学テニス部OB)
58 大学から世界へ 亜細亜大学、メルボルンに行く。
「大学に行ったら世界に行けないなんて言わせない」文◎吉松忠弘
記事提供◎テニスマガジン
59 全豪2019観戦レポート 60 タイITF遠征レポート
62 卒業生、それぞれの道 高田充/駒田政史/宮崎靖雄/西岡靖雄/長久保勇太
中村聡利/新谷啓/森嶋修/辻本有佳里/三上英知
69 主な就職先～楚南美波 土居祐太/津布久萌
70 就職ガイダンス

PART 4 国際大会報告

- 11 参加選手を代表して～西脇一樹(SYSテニスクラブ)
13 参加選手を代表して～米原実令(明治安田生命)
72 2019国際大会開催レポート
[男子]亜細亜大学国際オープン [女子]亜細亜大学国際女子オープン
78 歴代優勝者一覧
80 2019男子本戦S結果 81 2019男子本戦D結果
82 2019女子本戦S結果 83 2019女子本戦D結果
84 2019男子予選結果 85 2019女子予選結果
86 男女WC選手権大会結果
87 ご協賛いただきました皆様
88 私たちはこうやって大会を作りました
第1回亜細亜大学国際オープン2007『国際大会開催までの全記録』
92 国際大会出場レポート 93 ASC
94 日の出に世界がやってきた。 文◎武田 薫 記事提供◎テニスマガジン
98 チャリティクリニック
100 亜細亜大学主催 チャリティクリニックのお知らせ/参加者の声
102 亜細亜大学国際オープン2020大会告知

2019 亜細亜大学 テニス部

チームガイド
TEAM GUIDE



国際大会開催報告
REPORT

◎ここに掲載する記事、写真、および図版の無断転載を厳禁します。

STAFF

●Editorial supervisor
堀内昌一 Shoichi Horiuchi
森稔詞 Toshitsugu Mori

●Editor in chief
岡庸輔(4年) Yousuke Oka
志賀隼(4年) Hayato Shiga

●Editor
伊達芽依(4年) Mei Date
塩谷大河(3年) Taiga Shioya
岡悠多(2年) Yuta Oka
安井愛乃(1年) Aino Yasui

●Design / Printing
株式会社 文伸 Bunshin Corporation



Editor's MEMO

●早いもので4年生になりました。今年もアジアン作成に携わり年々良いものが出来ていると思います。楽しんで頂けると嬉しいです。(岡庸輔/写真左下)

●こんにちは。4年の志賀です。アジアン作成に4年間も携われて嬉しく思います!今年は学生ADとして国際大会では貴重な体験をさせて頂きました。国際大会レポートにも挑戦したので是非見て下さい。(志賀/写真中央)

●4年間アジアンを担当させて頂きありがとうございました。来年は塩谷と岡に期待です!(伊達/写真右上)

●今回もアジアンを担当し大変な思いをしながら作成したので是非ご覧になって欲しいです。(塩谷/写真中央)

●今年初めてアジアン作成に携われました。先輩方に教えて頂きながら自分のベストを尽くせたいと思います。是非ご覧ください。(岡悠多/写真右下)

●今回初めてアジアン作成に携わらせて頂きました。分からない事が多く先輩方に助けられながら去年とはまた違ったアジアンを作り上げる事が出来ました。様々な方に見て頂きたいです。(安井/写真左上)





大 学に勤めて28年になります。最近では教え子の結婚式に毎月のように招待されるような歳になりました。ひと回りもふた回りも大きくなった教え子の成長を見るたびに、ただ驚くばかりです。そこには同期たちも集まってきますから、その成長ぶりにも驚かされてしまいます。

あれほどやんちゃだった学生時代からは想像もできないくらい、社会でもまれ、成長した姿を見るにつけ、たった4年の間だったけれど、ともに過ごした時間のありがたさを感じています。同期や同僚たちが披露するエピソードを聞き、スナップ写真を見て、当時を思い出し、私はうなずくばかりです。

入学式に卒業式、そして結婚式と、繰り返される“集合写真”こそ、まさに“部活”の証。それぞれが真剣にテニスに取り組み、いっしょに戦ってきたからこそ迎えられる瞬間だと思います。その当時は、そんな未来を想像することもできなかったでしょうが、大人になり、みんなで再び顔を合わせたときに、“部活”のすばらしさを感じてくれていると私は確信しています。

“部活”は一見ややこしそうですが、実はとてもシンプルなものですよ。

私はいつも学生たちに「できるだけやれ」と指導しています。課題を与えると、すぐにできるヤツ、すぐにできないヤツ、まったくできないヤツに、できるだけやろうとしないヤツと、さまざまですが、いずれに対しても“部活”は容赦しません。ヒントは与えますが、答えは自分で見つけなければならぬのです。私が答えをあげることはありません。答えを見つけるのは自分。見つけるまでにはおそらく相当な時間がかかります。でも、“待つこと”も私の仕事。そうしているうち、失敗してしまうこともしばしばありますが、それでもいいと思っています。失敗が教えてくれるものもある。それがまた、大きな財産となるからです。

コートにはコーチと部員がいますが、最終的

には、部員自身が課題を解決する力を身につけなければ意味がないと思っています。課題や目標を達成するために必要となるのは、自身の力であるとともに、重要なのは仲間の力。そのことに気づき、みんなで結束してこそ、乗り越えられるものがあることにも気づいてほしいのです。そのことに気づき、その力の大きさを知ったときに、喜びを分かち合える関係になります。ひとりでは到底できないことにも、みんなの力を合わせれば必ず近づくことができる、達成できる。私はそれが“部活”だと思います。

部活って、本当にすばらしい！ 高校生諸君、私たちが亜細亜大学でいっしょに部活をやろう！！

文◎堀内昌一

高校生諸君、私たちが亜細亜大学でいっしょに部活をやろう
すばらしい！

亜細亜大学テニス部

過去29年間の
主要Topics

1987年(昭和62年)

- ・衛藤瀧吉学長就任(1987-95年)。一芸入試を導入。(写真①)
- ・堀内昌一が講師およびテニス部監督に就任。

1988年(昭和63年)

- ・男子7部リーグ優勝/6部リーグ昇格 ・女子5部リーグ3回戦敗退

1989年(平成元年)

- ・男子6部リーグ優勝/5部昇格 ・女子5部リーグ優勝/4部昇格
- ・亜大初となる全国タイトル。インカレ・インドアで山崎史子が単優勝。
- ・アメリカプログラム(AUAP/正規単位取得型の留学プログラム)開始。

1990年(平成2年)

- ・男子5部リーグ優勝/4部昇格 ・女子4部リーグ優勝/3部昇格
- ・男子初となる全国タイトル。インカレ単優勝・森稔詞、複優勝・岡田岳二/坂口雄二。
- ・国際関係学部国際関係学科開設。

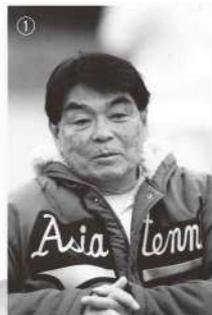
1991年(平成3年)

- ・男子4部リーグ優勝/3部昇格 ・女子3部リーグ優勝/2部昇格
- ・日の出トレーニングセンター完成。
- ・海外のITFサーキットに岡田・森・高田の3名が参戦。約4ヶ月間、オーストラリア・アメリカ・韓国を回る。そこで亜大生初となるATPポイントを獲得(岡田3ポイント、森1ポイント)。
- ・第16回ユニバーシアード(イギリス)日本代表選手に森、伊東新、山崎、赤堀奈緒の4名が選ばれる。また堀内昌一監督も日本代表コーチに就任。

1992年(平成4年)

- ・男子3部リーグ優勝/2部昇格 ・女子2部リーグ優勝/1部昇格
- ・ITFサーキットに単身、宮地弘太郎が遠征(フィリピン)。ATP3ポイント獲得。
- ・女子初となるインカレ・タイトルを獲得。赤堀が単優勝。

93年、女子が大学王座初制覇



衛藤瀧吉学長



93年、UCLAへ。堀内監督の隣りの女性はビート・サンプラス姉

1993年(平成5年)

- ・男子2部リーグ優勝/1部リーグ昇格
- ・女子1部リーグ初優勝/女子王座初優勝(写真②)
- ・全米遠征(93年~97年)で、強豪大学(USC/UCLA/スタンフォード大など)と対抗戦。(写真③)
- ・第17回ユニバーシアード(アメリカ)で赤堀が平木理化(青学)とのペアで銀メダル獲得。
- ・日本経済短期大学と亜細亜大学が統合、亜細亜大学短期大学部開設。

1994年(平成6年)

- ・男子1部リーグ初優勝/大学王座初優勝(写真④)
- ・女子1部リーグ優勝2連覇/大学王座3位
- ・関東1部リーグで初のアベック優勝。
- ・全日本選手権複で、佐藤博康/駒田政史が学生として33年ぶりに優勝。(写真⑤)

1995年(平成7年)

- ・男子1部リーグ優勝2連覇/大学王座2連覇
- ・女子1部リーグ優勝3連覇/大学王座3位
- ・関東1部リーグで2度目のアベック優勝。
- ・全日本選手権男子単で宮地が決勝進出。
- ・第18回ユニバーシアード(福岡)男子単で宮地が27年ぶりに銅メダルを獲得。
- ・ジャパンオープン男子単で宮地が3回戦進出(ベスト16)。

1996年(平成8年)

- ・男子1部リーグ優勝3連覇/大学王座準優勝
- ・女子1部リーグ優勝4連覇/大学王座準優勝
- ・関東1部リーグで3度目のアベック優勝。

1997年(平成9年)

- ・男子1部リーグ優勝4連覇/大学王座準優勝
- ・女子1部リーグ優勝5連覇/大学王座2度目の優勝
- ・関東1部リーグで4度目のアベック優勝。



94年、男子が初の大学王座日本一

・第19回ユニバーシアード(イタリア)女子複で岡本聖子が銅メダル獲得。

1998年(平成10年)

- ・男子1部リーグ優勝5連覇/大学王座4位
- ・女子1部リーグ優勝6連覇/大学王座2連覇達成(3度目の優勝)
- ・関東1部リーグ5度目のアベック優勝。
- ・コーチ帯同で3週間、岡本聖子がアメリカのITFサーキットに参戦。(写真⑥)

1999年(平成11年)

- ・男子1部リーグ準優勝/大学王座準優勝
- ・女子1部リーグ優勝7連覇/大学王座3位
- ・ITFサーキット(アメリカ/メキシコ)参戦。
- ・第20回ユニバーシアード(スペイン)の日本代表監督に堀内昌一が就任。

2000年(平成12年)

- ・男子1部リーグ6度目の優勝/大学王座準優勝
- ・女子1部リーグ8連覇/大学王座準優勝
- ・関東1部リーグは6度目のアベック優勝。

2001年(平成13年)

- ・男子1部リーグ準優勝/大学王座3位
- ・女子1部リーグ4位(関東リーグ9連覇ならず)

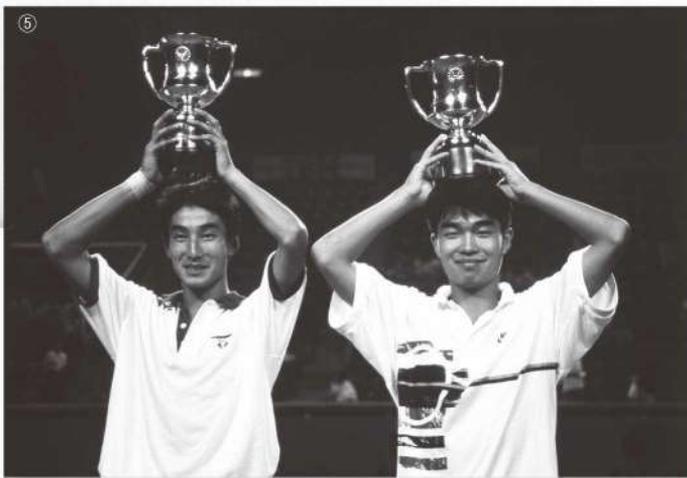
2002年(平成14年)

- ・男子1部リーグ3位
- ・女子1部リーグ9度目の優勝/大学王座3位
- ・テニス部専任コーチにOBの森稔詞就任。

2003年(平成15年)

- ・男子1部リーグ7度目の優勝/大学王座3位
- ・女子1部リーグ10度目の優勝(写真⑦)/大学王座4位
- ・関東1部リーグ7度目のアベック優勝。
- ・四大大会のひとつ、オーストラリアン・オープン観戦遠征を開始。以来、有志を募っての恒例行事に。

94年、全日本男子ダブルス制覇の佐藤博康/駒田政史



・韓国体育大学と合同合宿。韓国と日本を交互に遠征(03年~06年)

2004年(平成16年)

- ・男子1部リーグ5位/1部残留 ・女子1部リーグ準優勝/大学王座4位
- ・関東リーグで5位となった男子は、初の2部との入れ替え戦へ。勝利して1部残留が決定。
- ・デ杯日本代表チームのオーストラリア合宿に宮崎靖雄が参加。

2005年(平成17年)

- ・男子1部リーグ6位/1部残留
- ・女子1部リーグ準優勝/大学王座4位
- ・関東リーグで6位の男子は2度目の2部との入れ替え戦へ。勝利し、1部残留。
- ・デ杯日本代表チームのオーストラリア合宿に、男子は比嘉明人、女子は遠藤真理子と高橋令が参加。ボブ・ブレットコーチの指導を仰ぐ。

2006年(平成18年)

- ・男子1部リーグ5位/1部残留 ・女子1部リーグ準優勝/大学王座準優勝
- ・関東リーグで5位の男子は、3度目の2部との入れ替え戦へ。勝利し、1部残留。
- ・オーストラリアン・オープン観戦遠征。
- ・コーチ帯同で3週間、オーストラリアのITFサーキットに参戦。

2007年(平成19年)

- ・男子1部リーグ4位 ・女子1部リーグ3位
- ・男子フューチャーズ「第1回亜細亜大学国際オープン」(1万ドル)を開催。篠川智大が本戦1回戦に勝利し、ATP1ポイントを獲得。
- ・国際大会開催にあたり、「チャリティーテニスクリック」を始める。収益のすべてを運営費に充て、年間20回を目標に開催。
- ・アメリカプログラム(AUAP)の参加学生数が1万人突破。
- ・ユニバーシアード(バンコク)の日本代表監督に森稔詞が就任。
- ・堀内昌一助教授が教授に昇格。
- ・テニス部強化に尽力を注いだ元学長、衛藤瀧吉先生逝去。享年84才。

98年、インカレを制した岡本聖子





03年、10度目の関東リーグ優勝

2008年(平成20年)

- ・男子1部リーグ4位 ・女子1部リーグ準優勝/大学王座準優勝
- ・第2回男子フューチャーズ開催。
- ・スポーツケア・アローズと年間50日間の専属トレーナー契約を交わす。

2009年(平成21年)

- ・男子1部リーグ4位 ・女子1部リーグ6位/2部降格
- ・関東リーグで6位の女子は、初の2部との入れ替え戦へ。最後はエース宮本紗織が敗れて、2部降格へ。1989年に5部で優勝してから王座優勝、その後は常勝し、1部を死守してきたが、ついに力尽きる。
- ・第3回男子フューチャーズ開催。

2010年(平成22年)

- ・男子1部リーグ5位/1部残留 ・女子2部リーグ優勝/1部昇格
- ・関東リーグで6位の男子は、4度目の2部との入れ替え戦へ。勝利し、1部残留。
- ・関東リーグ2部で優勝の女子は、1部との入れ替え戦で日本大学に勝利し、1部復帰。
- ・全日本選手権・混合複で篠川智大(ノ瀬間詠里花プロ)が初優勝。
- ・第4回男子フューチャーズ開催。
- ・森コーチ帯同で、ホルトガルのITF女子サーキットに3週間遠征。メンバーは宮本紗織・荒木史織・山本翔子。
- ・新しい部室が完成。

2011年(平成23年)

- ・男子1部リーグ6位/1部残留 ・女子1部リーグ準優勝/大学王座準優勝
- ・関東リーグ6位の男子は、5度目の2部との入れ替え戦へ。勝利し、1部残留。
- ・全日本選手権・混合複で篠川智大(ノ田中真梨プロ)が2連覇。
- ・第5回男子フューチャーズ開催も、予選サイン当日に東日本大震災が起きる。予選を消化するも、ITF、JTA、春のフューチャーズシリーズ大会ディレクターらと協議の結果、大会中止を決定。
- ・亜細亜大学建学70周年。
- ・テニス部創部50周年。

明治との入替戦勝利後1部残留



- ・部室前に駐車場が完成。

2012年(平成24年)

- ・男子と並び、女子サーキット「第1回亜細亜大学国際女子オープン」(1万ドル)を開催。伊波佳苗が単ベスト8進出。
- ・第6回男子フューチャーズ開催。
- ・男子1部リーグ6位/1部残留 ・女子1部リーグ4位
- ・関東リーグ6位の男子は、6度目の2部との入れ替え戦へ。勝利し、1部残留。
- ・亜細亜大学文部科学省「グローバル人材育成推進事業」採択

2013年(平成25年)

- ・男子1部リーグ5位/2部降格 ・女子1部リーグ4位
- ・関東リーグ5位の男子は7度目の2部との入れ替え戦へ。敗北し、1994年から続いた1部から降格する。
- ・亜細亜大学新5号館完成
- ・第7回男子フューチャーズ開催。
- ・第2回亜細亜大学国際女子オープン開催。山本翔子が単ベスト8進出。

2014年(平成26年)

- ・第8回フューチャーズ開催。
- ・第3回亜細亜大学国際女子オープン開催。
- ・1年生の田中亮寛がインカレ単ベスト8
- ・男子2部リーグ2位で1部リーグとの入れ替え戦へ。惜しくも敗北し2部残留。/女子1部リーグ5位で2部リーグとの入れ替え戦へ。勝利し1部残留。

2015年(平成27年)

- ・第9回フューチャーズ開催。主将の仲村元希が1回戦勝利し、初のATPポイント獲得。
- ・第4回亜細亜大学国際女子オープン開催。
- ・軽井沢フューチャーズで田中亮寛が初のATP獲得。単ベスト8
- ・亜細亜大学の食堂、アジアプラザ完成。
- ・男子2部リーグ1位で1部リーグとの入れ替え戦へ。勝利し1部昇格。(写真⑨)/女子1部リーグ6位で2部リーグとの入れ替え戦へ。勝利し1部残留(写真⑧)。

日大との入替戦勝利後1部復帰昇格





第6回亜細亜大学国際女子オープン ダブルス表彰式

2016年(平成28年)

- ・亜細亜大学建学75周年。
- ・関東学生新進テニス選手権大会において、山藤彩香がシングルス優勝、田中文彩がベスト4、大塚陽平/伊藤陸組がベスト8になる。
- ・田中文彩、高橋玲奈が堀内監督引率の元、中国ITFに3週間参戦。
- ・第10回フューチャーズ開催。加藤彰馬が1回戦勝利、初のATPポイントを獲得。
- ・第5回亜細亜大学国際女子オープン開催。高橋玲奈が1回戦を勝利し、WTAポイント獲得(通算7ポイント目)。また、本戦WCで出場した越南美波/中澤夏帆組がベスト4進出。山藤彩香/田中文彩組(WC)、高橋玲奈/南文乃組(WC)もベスト8進出。
- ・男子1部リーグ6位で2部リーグとの入れ替え戦へ。勝利し1部残留。
- ・女子1部リーグ4位で1部残留。

2017年(平成29年)

- ・関東学生新進テニス選手権大会において、男子ダブルス橋本大貴/恒松拓未組が準優勝になる。
- ・田中文彩、松田美咲が堀内監督引率の元、中国ITFに2週間参戦。
- ・加藤彰馬が宮崎靖雄コーチ引率の元、インドネシアITFに2週間参戦。ITFからの通達により、今回、男女大会ともに\$10,000から\$15,000へ賞金額増額され開催。
- ・第11回フューチャーズ開催(写真⑪)。
- ・第6回亜細亜大学国際女子オープン開催(写真⑩)。
- ・関東学生テニス選手権大会にて、女子シングルスで1年生の松田美咲が初優勝。
- ・男子1部リーグ6位で2部リーグとの入れ替え戦へ。勝利し1部残留。
- ・女子1部リーグ4位で1部残留。

2018年(平成30年)

- ・加藤彰馬が香港ITFに1週間参戦。
- ・関東学生新進テニス選手権において、男子ダブルス加藤彰馬/吉田慎組が優勝、女子ダブルス中澤夏帆/大西沙依組が準優勝になる。
- ・第12回フューチャーズ開催。熊坂拓哉が1回戦勝利、初のATPポイント獲得。また、加藤彰馬/吉田慎組(WC)ベスト8進出。
- ・第7回亜細亜大学国際女子オープン開催。中澤夏帆が1回戦勝利、WTAポイント獲得。また、高橋玲奈/中澤夏帆組(WC)がベスト8進出。
- ・平成30年度関東学生テニス選手権大会にて、女子シングルスで4年生の高橋玲奈がベスト4、2年生の松田美咲/朝倉菜月ペアが準優勝。
- ・松田美咲が関東オープンテニス選手権大会シングルス優勝。
- ・全日本学生テニス選手権大会にて、女子シングルスで4年生の中澤夏帆がベスト4、2年生の松田美咲が準優勝、女子ダブルスで4年生の高橋玲奈/中澤夏帆が準優勝。
- ・男子1部リーグ6位で2部リーグとの入れ替え戦へ。勝利し1部残留。
- ・女子1部リーグ準優勝で大学王座へ。
- ・大学王座にて決勝戦で早稲田大学に敗れ準優勝。
- ・全日本選手権にて、女子シングルスで2年生の松田美咲がベスト4、女子ダブルスで4年生の高橋玲奈/中澤夏帆がベスト8。
- ・熊坂拓哉、高見澤岳飛がタイITFに1週間参戦。
- ・松田美咲がタイITFにて準優勝。
- ・全日本学生室内テニス選手権大会にて、男子シングルスで3年生の加藤彰馬がベスト8、男子ダブルスで3年生の加藤彰馬(/橋川泰典(日本大学))がベスト8。女子シングルスで2年生の松田美咲が準優勝、女子ダブルスで4年生の高橋玲奈/中澤夏帆が優勝、2年生の松田美咲/朝倉菜月がベスト8。

2019年(平成31年)

- ・熊坂拓哉、高見澤岳飛、松田美咲がトルコITFに2週間参戦。
- ・関東学生新進テニス選手権大会にて、男子ダブルス岡庸輔/工藤颯人がベスト8。

第11回亜細亜大学国際オープン 男子シングルス決勝後



亜細亜大学テニス部 過去(1988年~)の主な戦績

関東大学テニスリーグ&全日本大学対抗テニス王座決定試合

年度	関東大学リーグ		大学王座	
	男子	女子	男子	女子
1988年(昭和63年)	6部昇格	5部		
1989年(平成元年)	5部昇格	4部昇格		
1990年(平成2年)	4部昇格	3部昇格		
1991年(平成3年)	3部昇格	2部昇格		
1992年(平成4年)	2部昇格	1部昇格		
1993年(平成5年)	1部昇格	優勝		優勝
1994年(平成6年)	優勝	優勝	優勝	3位
1995年(平成7年)	優勝	優勝	優勝	3位
1996年(平成8年)	優勝	優勝	準優勝	準優勝
1997年(平成9年)	優勝	優勝	準優勝	優勝
1998年(平成10年)	優勝	優勝	4位	優勝
1999年(平成11年)	準優勝	優勝	準優勝	準優勝
2000年(平成12年)	優勝	優勝	準優勝	準優勝
2001年(平成13年)	準優勝	4位	3位	
2002年(平成14年)	3位	優勝		3位
2003年(平成15年)	優勝	優勝	3位	4位
2004年(平成16年)	5位	準優勝		4位
2005年(平成17年)	6位	準優勝		4位
2006年(平成18年)	5位	準優勝		準優勝
2007年(平成19年)	4位	3位		
2008年(平成20年)	4位	準優勝		準優勝
2009年(平成21年)	4位	2部降格		
2010年(平成22年)	5位	1部昇格		
2011年(平成23年)	6位	準優勝		準優勝
2012年(平成24年)	6位	4位		
2013年(平成25年)	2部降格	4位		
2014年(平成26年)	2部1位	1部5位		
2015年(平成27年)	1部昇格	1部6位		
2016年(平成28年)	1部6位	1部4位		
2017年(平成29年)	1部6位	1部4位		
2018年(平成30年)	1部6位	準優勝		準優勝

全日本学生テニス選手権大会&全日本学生室内テニス選手権大会 出場人数

年度	インカレ				インカレ・インドア			
	男子出場人数		女子出場人数		男子出場人数		女子出場人数	
	S	D	S	D	S	D	S	D
1989年(平成元年)	3人	2組	1人		3人	1組	1人	
1990年(平成2年)	3人	2組	1人	1組	3人	2組	2人	2組
1991年(平成3年)	3人	4組	6人	4組	4人	4組	2人	2組
1992年(平成4年)	5人	4組	2人	4組	1人	1組	3人	4組
1993年(平成5年)	10人	5組	7人	3組	2人	3組	2人	2組
1994年(平成6年)	7人	5組	3人	2組	3人	1組	2人	2組
1995年(平成7年)	6人	3組	8人	3組	1人	1組	2人	1組
1996年(平成8年)	6人	2組	7人	3組	1人	1組	2人	1組
1997年(平成9年)	4人	3組	6人	1組	3人	1組	5人	1組
1998年(平成10年)	5人	2組	6人	4組			2人	2組
1999年(平成11年)	5人	4組	4人	2組	2人	2組	1人	1組
2000年(平成12年)	6人	4組	5人	3組	3人	1組	2人	
2001年(平成13年)	4人	1組	4人	2組	1人	1組	2人	2組
2002年(平成14年)	5人	3組	4人	2組	3人	1組	3人	2組
2003年(平成15年)	4人	2組	4人	2組	1人	1組	2人	1組
2004年(平成16年)	2人	4組	4人	4組	2人		1人	2組
2005年(平成17年)	3人	2組	7人	5組	1人			2組
2006年(平成18年)	5人	2組	7人	3組	1人		1人	2組
2007年(平成19年)	7人	1組	5人	3組	2人		2人	1組
2008年(平成20年)	5人	3組	6人	2組	3人	1組	1人	
2009年(平成21年)	6人	3組	5人	2組	2人	1組	1人	1組
2010年(平成22年)	6人	4組	6人	3組		1組	3人	1組
2011年(平成23年)	2人	1組	7人	4組		1組	2人	1組
2012年(平成24年)	3人		3人	1組		1組	2人	1組
2013年(平成25年)	2人		4人	2組				
2014年(平成26年)	2人	2組	1人	なし	2人	2組	1人	なし
2015年(平成27年)	2人	1組	4人	1組			4人	1組
2016年(平成28年)	1人	2組	3人	1組	1人	1組	1人	1組
2017年(平成29年)	1人	1組	4人	2組				
2018年(平成30年)	3人	1組	4人	4組	3人	1組	3人	2組

個人戦績

年度	出場選手	インカレ		インカレインドア				
		S	D	S	D			
1989年 平成元年	男子	坂口雄二	準優勝	ベスト16	1R			
		森 稔詞	ベスト8	ベスト4	1R			
		岡田岳二	ベスト16		ベスト8	ベスト4		
		高田 充		ベスト4				
		桜井和人		ベスト16		ベスト4		
	女子	山崎史子	ベスト4		優勝			
1990年 平成2年	男子	森 稔詞	優勝		ベスト4			
		岡田岳二	ベスト4	優勝	ベスト16	ベスト8		
		坂口雄二	ベスト8	優勝	ベスト16	ベスト8		
		高田 充				ベスト8		
			女子	山崎史子	準優勝	準優勝	優勝	ベスト8
1991年 平成3年度	男子	三輪陽子		準優勝		1R		
		赤堀奈緒			ベスト8	1R		
		石田恵子				準優勝		
		森 稔詞	優勝	優勝	準優勝	準優勝		
		伊東 新	準優勝	ベスト16	優勝	ベスト4		
		高田 充	ベスト16	ベスト4	ベスト16	ベスト4		
		岡田岳二		優勝		準優勝		
		駒田政史		ベスト4				
		城間和人		ベスト4		準優勝		
		須藤陽史		ベスト4		ベスト8		
		坂口雄二		ベスト16	ベスト8	ベスト8		
		佐藤武文						
		佐藤博康				ベスト16		
			女子	赤堀奈緒	ベスト4	優勝	優勝	ベスト16
				山崎史子	ベスト8	優勝	準優勝	優勝
		三輪陽子	ベスト32			優勝		
		釣 雅美	ベスト32			ベスト4		
		萱高菜穂	ベスト32					
		土方千代	ベスト32	ベスト16				
		北野由美		ベスト8				
		辻麻千香		ベスト8				
		斎藤裕子		ベスト16				
		井上朋子		ベスト16				
		浅見玲子		ベスト16				
		石田恵子						
1992年 平成4年度	男子	伊東 新	準優勝	ベスト16	ベスト8	ベスト4		
		宮地弘太郎	ベスト8					
		佐藤博康	ベスト16	ベスト4				
		駒田政史	ベスト32			ベスト4		
		馬越浩也	ベスト32					
		鈴木 潤		準優勝				
		久田英登		準優勝				
		佐藤武文		ベスト4				
		城間和人		ベスト16		ベスト4		
		須藤陽史		ベスト16				
		紀 有二		ベスト16				
			女子	赤堀奈緒	優勝	準優勝	優勝	
				石田恵子	ベスト4	準優勝	ベスト4	優勝
				浅見玲子				優勝
				土方千代		ベスト4		ベスト4
		三輪陽子		ベスト8	ベスト8	ベスト4		
		石田友子		ベスト8		準優勝		
		廣津文子		ベスト8		準優勝		
		萱高菜穂		ベスト8				
		斎藤裕子						
		釣 雅美				ベスト8		
1993年 平成5年度	男子	宮地弘太郎	優勝	ベスト8		ベスト8		
		伊東 新	準優勝	ベスト8				
		馬越浩也	ベスト4	ベスト16	ベスト4			
		佐藤博康	ベスト4	準優勝		2R		
		土屋哲史	ベスト16	ベスト16	ベスト8	2R		
		酒井俊亮	ベスト16			2R		
		久田英登	ベスト32	ベスト8				
		竹下和史	ベスト32					
		水島 亮	ベスト32					
		紀 有二	ベスト32					
				駒田政史	準優勝	ベスト8		
				須藤陽史	ベスト4		2R	

年度	出場選手	インカレ		インカレインドア				
		S	D	S	D			
	女子	城間和人		ベスト4		本戦		
		鈴木 潤		ベスト8		本戦		
		赤堀奈緒	準優勝					
		吉田亜梨	ベスト8	ベスト8		本戦		
		土方千代	ベスト16	ベスト16				
		釣 雅美	ベスト16			本戦		
		辻麻千香	ベスト32	ベスト16		本戦		
		常盤 安	ベスト32	ベスト16	ベスト8	本戦		
		大竹山埋映	ベスト32	ベスト8				
		浅見玲子		ベスト16				
		1994年 平成6年度	男子	伊東 新	優勝	ベスト4		本戦
				宮地弘太郎	準優勝	ベスト4		
				馬越浩也	ベスト4	ベスト8	ベスト8	
				土屋哲史	ベスト16	ベスト8	ベスト8	
				竹下和史	ベスト16	準優勝		
		酒井俊亮	ベスト32					
		佐藤博康	ベスト32	ベスト4				
		山下大介		準優勝	優勝	準優勝		
		駒田政史						
		久田英登		ベスト16		準優勝		
		杉田光徳		ベスト16				
		須藤陽史						
		城間和人						
	女子	吉田亜梨	準優勝	準優勝	本戦			
		常盤 安	ベスト8	準優勝	2R	準優勝		
		土方千代	ベスト32	ベスト8		準優勝		
		石田玲奈		ベスト8		優勝		
		山岸尚子				優勝		
		高梨清乃						
1995年 平成7年度	男子	宮地弘太郎	優勝	ベスト16				
		竹下和史	ベスト8	優勝				
		馬越浩也	ベスト8	ベスト16				
		山下大介	ベスト16	優勝	2R			
		酒井俊亮	ベスト16	ベスト8				
		紀 有二	ベスト32					
		土屋哲史		ベスト8				
		橋本吉弘						
		越智 巨						
			女子	横井佑未	ベスト4			優勝
				吉田亜梨	ベスト8	ベスト4	2R	
				坂井美紗江	ベスト16			
				小沢 愛	ベスト16	ベスト16	ベスト4	
				中川 彩	ベスト16			優勝
				石田玲奈	ベスト32	ベスト16		
		常盤 安	ベスト32			優勝		
		柴田孝子	ベスト32	ベスト16				
		常盤 安		ベスト4				
		高梨清乃		ベスト16				
1996年 平成8年度	男子	クワテロ 貴雄	ベスト8			本戦		
		竹下和史	ベスト8	ベスト4				
		芳野 猛	ベスト16					
		越智 巨	ベスト32	ベスト16				
		山下大介	ベスト32	ベスト4		準優勝		
		橋本吉弘	ベスト32	ベスト16				
			女子	岡本聖子	準優勝	ベスト4	準優勝	準優勝
				横井佑未	ベスト4			
				常盤 安	ベスト8	優勝		
				中川 彩	ベスト16			
				吉田亜梨	ベスト32	ベスト4		
				小沢 愛	ベスト32	ベスト8	ベスト4	
				石田玲奈	ベスト32	ベスト8		優勝
				片倉 恵		優勝		優勝
		1997年 平成9年度	男子	竹下順二	ベスト16			本戦
クワテロ 貴雄	ベスト16							
吉川真司	ベスト16							
越智巨	ベスト32			準優勝	本戦			
橋本吉弘				準優勝	本戦	ベスト4		
芳野 猛				ベスト16		ベスト4		
白田 学				ベスト16				

年度	出場選手	インカレ		インカレインドア			
		S	D	S	D		
1998年 平成10年度	男子	鈴木広幸		ベスト16			
		堀口元比阿南		ベスト16			
		岡本聖子	準優勝		本戦		
		横井佑未	ベスト8		優勝		
		田口景子	ベスト16	優勝	本戦		
		久保陽子	ベスト16			ベスト4	
		木根測晶子	ベスト16		本戦		
		片倉 恵	ベスト32	優勝	2R		
		吉川真司	ベスト16	ベスト16		ベスト4	
		竹下順二	ベスト16				
	女子	鈴木道広	ベスト32				
		石浦純一	ベスト32	ベスト16			
		相原 玲	ベスト32				
		石神理貴		ベスト8			
		辻 雄馬		ベスト8			
		岡本聖子	優勝	優勝	ベスト8		
		木根測晶子	ベスト4		ベスト4	優勝	
		横井佑未	ベスト16	ベスト16		ベスト4	
		田口景子	ベスト16	優勝	ベスト8	優勝	
		金井奈央子	ベスト16	ベスト8			
1999年 平成11年度	男子	片倉 恵	ベスト32	ベスト8			
		永井圭子		ベスト16			
		森井景子		ベスト16			
		坂井美紗江		ベスト16			
		堀川奈緒子					
		石浦純一	ベスト16	ベスト16		ベスト4	
		石神理貴	ベスト16	ベスト16	優勝	優勝	
		三好 勲	ベスト16		本戦		
		辻 雄馬	ベスト32	ベスト16			
		国吉智規	ベスト32			本戦	
女子	朴 潤九		ベスト16	2R			
	吉川真司		ベスト16	ベスト4	本戦		
	菊池 恒		ベスト16		優勝		
	宮下知朗		ベスト16				
	山下智史		ベスト16				
	岡本聖子						
	田口景子	準優勝	準優勝	本戦	準優勝		
	金井奈央子	ベスト16			準優勝		
	片倉 恵	ベスト32	準優勝				
	飯田京子	ベスト32					
2000年 平成12年度	男子	川野美季		ベスト16			
		中川 麗		ベスト16			
		石神理貴	ベスト4	ベスト8	2R		
		吉川真司	ベスト4		準優勝		
		三好 勲	ベスト16	ベスト32	2R	ベスト4	
		大迫幸輝	ベスト32				
		朴 潤九	ベスト32	ベスト8			
		宮崎靖雄	ベスト32	ベスト8			
		辻 雄馬		ベスト8			
		後藤光弘		ベスト8			
女子	石浦純一						
	田口景子	準優勝	優勝	ベスト4	ベスト4		
	金井奈央子	ベスト16	優勝				
	平田育子	ベスト16	2R				
	水野衣里子	ベスト16	本戦				
	五藤かおり	ベスト32	2R	本戦			
	2001年 平成13年度	男子	宮崎靖雄	ベスト4	準優勝	ベスト8	
			朴 潤九	ベスト8	準優勝		本戦
			国吉智規	ベスト32			本戦
			比嘉明人	ベスト32			
北崎悦子			ベスト4		準優勝		
女子		金井奈央子	ベスト16	ベスト4		本戦	
		平田育子	ベスト16	ベスト4	本戦		
		水野衣里子	ベスト32	ベスト4		準優勝	
		五藤かおり		ベスト4		本戦	
		宮崎靖雄	ベスト4	準優勝	優勝	準優勝	
2002年 平成14年度	男子	比嘉明人	ベスト8	ベスト8	準優勝		
		国吉智規	ベスト16	準優勝	準優勝		
		中川 亮	ベスト32	ベスト16		準優勝	

年度	出場選手	インカレ		インカレインドア				
		S	D	S	D			
2003年 平成15年度	男子	乾祥一郎	ベスト32	ベスト16				
		後藤光弘		ベスト16				
		大山謙一		ベスト16				
		平田育子	準優勝	ベスト16	ベスト4			
		北崎悦子	ベスト8	ベスト4	ベスト8	ベスト4		
		五藤かおり	ベスト16	ベスト16		準優勝		
		水野衣里子	ベスト16	ベスト4	ベスト8	ベスト4		
		宮崎靖雄	準優勝	ベスト8		準優勝		
		比嘉明人	ベスト8		ベスト8			
		中川 亮	ベスト32	ベスト8				
	女子	乾祥一郎	ベスト32			本戦		
		後藤光弘		ベスト8				
		大山謙一		ベスト8				
		水野衣里子	ベスト4	ベスト8	ベスト8	本戦		
		平田育子	ベスト8	ベスト32		優勝		
		北崎悦子	ベスト8	ベスト8	ベスト8			
		五藤かおり	ベスト16	ベスト32		優勝		
		2004年 平成16年度	男子	比嘉明人	ベスト16	ベスト16	ベスト8	
				乾祥一郎	ベスト16	ベスト16	ベスト8	
				大山謙一		ベスト16		
平良和己				ベスト16				
垣内崇寛				ベスト16				
小松優介				ベスト16				
佐地竜介				ベスト32				
古城泰裕				ベスト32				
北崎悦子	ベスト16			ベスト16	ベスト16			
津布久萌	ベスト16			ベスト32		ベスト8		
女子	安田結子	ベスト32	ベスト32		ベスト4			
	川崎光美	ベスト32	ベスト16					
	上條いづみ		ベスト16					
	原由紀代		ベスト32					
	森 美紀		ベスト16		ベスト4			
	高橋 令		ベスト32		ベスト8			
	2005年 平成17年度	男子	富田真吉	ベスト32		ベスト8		
			大塚真之助	ベスト64				
			佐地竜介	ベスト128	ベスト16			
			古城泰裕		ベスト16			
村居誠悟				ベスト32				
新谷 啓				ベスト32				
森 美紀			ベスト16	優勝				
原由紀代			ベスト32	ベスト16	ベスト4			
川崎光美			ベスト32	ベスト64	ベスト8	ベスト8		
津布久萌			ベスト64	ベスト16				
女子	高橋 令	ベスト64	ベスト16		ベスト8			
	宮崎優美	ベスト64						
	坪奈津美	ベスト128	優勝					
	遠藤真理子		ベスト64		ベスト4			
	土屋奈夏		ベスト32					
	角田良美		ベスト8					
	2006年 平成18年度	男子	富田真吉	ベスト16		ベスト16		
			大塚真之助	ベスト32				
			牛田敦之	ベスト32				
			新谷 啓	ベスト64	ベスト32			
小出侑門			ベスト64					
佐地竜介				ベスト8				
古城泰裕				ベスト8				
高橋 令				ベスト32				
森 美紀			ベスト64	ベスト16				
津布久萌			ベスト32	ベスト16	ベスト4			
女子	高橋 令	ベスト32	ベスト16		準優勝			
	坪奈津美		ベスト16					
	土屋奈夏	ベスト16	ベスト16		ベスト4			
	角田良美	準優勝	ベスト8	ベスト16				
	宮崎優美	ベスト16	ベスト8					
	木下ミサ	ベスト32						
	2007年 平成19年度	男子	大塚真之助	ベスト16		ベスト16		
			富田真吉	ベスト16	ベスト32	ベスト16		
			篠川智大	ベスト32				
			小出侑門	ベスト64	ベスト32			

年度	出場選手	インカレ		インカレインドア		
		S	D	S	D	
	牛田敦之	ベスト64				
	古城泰裕	ベスト128				
	青木 翔	ベスト128				
	井上貴博		ベスト32			
	風早一樹		ベスト32			
	女子 宮崎優実	ベスト16	ベスト8	ベスト4		
	角田良美	ベスト16	ベスト8	ベスト16		
	木下ミサ	ベスト16	ベスト16			
	土屋奈夏	ベスト64	ベスト16			
	坪奈津美	ベスト128	ベスト16		準優勝	
2008年	平成20年度	男子 井上貴博	ベスト8	ベスト8	ベスト16	準優勝
		富田真吉	ベスト16			ベスト4
		篠川智大	ベスト16	ベスト8	ベスト8	
		牛田敦之	ベスト32	ベスト32	ベスト16	ベスト4
		大原文平	ベスト64			
		土居諒大		ベスト32		
		高橋 隼		ベスト64		
		風早一樹		ベスト64		
	女子 宮崎優実	ベスト4				準優勝
		木下ミサ	ベスト16	ベスト16		
		角田良美	ベスト16	ベスト8		
		長谷川梨紗	ベスト64	ベスト16		
		荒木史織	ベスト128			
		美濃越彩	ベスト128			
2009年	平成21年度	男子 井上貴博	ベスト8	ベスト8	ベスト16	
		篠川智大	ベスト16	ベスト8	ベスト16	ベスト8
		牛田敦之	ベスト32	ベスト32		ベスト8
		河原 純	ベスト64			
		土居諒大	ベスト64	ベスト32		
		田村和也	ベスト64	ベスト64		
		井原 力		ベスト64		
	女子 木下ミサ	ベスト16	ベスト16	ベスト8		
		荒木史織	ベスト64	ベスト16		準優勝
		美濃越彩	ベスト64			準優勝
		長谷川梨紗	ベスト128			
		宮本紗織	ベスト128	ベスト32		
		下村恵那		ベスト32		
2010年	平成22年度	男子 井上貴博	ベスト16	ベスト8		
		土居諒大	ベスト64	ベスト4		ベスト8
		篠川智大	ベスト64	ベスト4		
		田村和也	ベスト64	ベスト64		ベスト8
		井原 力	ベスト64	ベスト64		
		高橋良平	ベスト128			
		長久保大樹		ベスト64		
		風早一樹		ベスト8		
		岡部慎一郎		ベスト64		
	女子 宮本紗織	ベスト16	ベスト32	ベスト16		
		山本翔子	ベスト16	ベスト32	ベスト16	
		鈴木直子	ベスト64			
		荒木史織	ベスト64	ベスト8		
		伊波佳苗	ベスト64	ベスト32	ベスト16	ベスト8
		長谷川梨紗	ベスト128	ベスト32		
2011年	平成23年度	男子 田村和也	ベスト32	ベスト32		
		林 倫正	ベスト32			ベスト8
		長久保大樹		ベスト32		
	女子 宮本紗織	ベスト8	ベスト16			ベスト8
		長谷川梨紗	ベスト16	ベスト16		
		荒木史織	ベスト16	ベスト32		
		伊波佳苗	ベスト32	ベスト16	ベスト16	ベスト8
		山本翔子	ベスト32	ベスト16	ベスト16	
		鈴木直子	ベスト32	ベスト32		
		伊藤優花	ベスト64			
		境 有紀		ベスト32		
2012年	平成24年度	男子 高橋良平	ベスト64			
		林 倫正	ベスト64			
		仲村元希	ベスト64			
	女子 山本翔子	準優勝	準優勝	ベスト4		
		伊波佳苗	ベスト16	準優勝	ベスト16	優勝
		伊藤優花	ベスト64			優勝

年度	出場選手	インカレ		インカレインドア		
		S	D	S	D	
2013年	平成25年度	男子 白井卓也	ベスト96			
		仲村元希	ベスト32			
	女子 山本翔子	ベスト8	ベスト4			
		伊波佳苗	ベスト32	ベスト4		
		伊藤優花	ベスト32	ベスト16		
		松本千広	ベスト64	ベスト16		ベスト8
2014年	平成26年度	男子 小塚逸馬		ベスト32		
		仲村元希	ベスト96	ベスト32		
		田中亮寛	ベスト8	ベスト48	ベスト16	
		橋本大貴		ベスト48		
	女子 松本千広	ベスト32			ベスト16	
2015年	平成27年度	男子 仲村元希		ベスト48		
		大塚陽平	ベスト96			
		田中亮寛	ベスト16			
		橋本大貴		ベスト48		
	女子 松本千広	ベスト32	ベスト32	ベスト4		
		山藤彩香	ベスト32			
		辻本有佳里	ベスト64			
		田中文彩		ベスト32		
		高橋玲奈	ベスト8			
2016年	平成28年度	男子 橋本大貴		ベスト32		
		恒松拓未		ベスト32		
		加藤彰馬	ベスト64	ベスト32		
		吉田 慎		ベスト32		
	女子 山藤彩香			ベスト32		
		田中文彩	ベスト64	ベスト32		
		高橋玲奈	ベスト32			
		中沢夏帆	ベスト96			
2017年	平成29年度	男子 橋本大貴		ベスト48		
		恒松拓未		ベスト48		
		加藤彰馬	ベスト48			
	女子 田中文彩	ベスト32				
		高橋玲奈	ベスト32	ベスト32		
		中沢夏帆	ベスト48	ベスト32		
		山口真琴	ベスト48			
		楚南美波		ベスト32		
		朝倉菜月		ベスト32		
2018年	平成30年度	男子 加藤彰馬	ベスト16	ベスト32	ベスト8	ベスト8
		吉田慎		ベスト32		
		高見澤岳飛	ベスト64		ベスト32	
		堀内竜輔	ベスト96			
		熊坂拓哉			ベスト16	
		高橋玲奈	ベスト32	準優勝	ベスト16	優勝
		中沢夏帆	ベスト4	準優勝	ベスト32	優勝
		山口真琴	ベスト96	ベスト16		
		楚南美波		ベスト16		
		大西沙依		ベスト32		
		南文乃		ベスト32		
		朝倉菜月		ベスト16		ベスト8
		松田美咲	準優勝	ベスト16	準優勝	ベスト8

亜細亜の部活

入学前から卒業までの流れ

入学前

高校3年 ⇒ 大学1年

大切な時間 大学入学前から部活は始まっている

12月

年末合宿(12月20日～27日)

練習内容

・学生は全国各地から延べ100名を超える参加者(高校生・中学生)とともに練習やトレーニングを行なう。後輩たちとともに行なうことにより、テニスの基礎を確認、時間をかけて徹底的に基礎を磨く。



ときにOB、OGやプロ(スペシャルゲスト)も参加。レクチャーを受ける高校生や部員たち

・その年にやり残した課題、自分の改善点を徹底的に克服する。

・特にサービスは改善の必要がある場合が多く、この時期にグリップをコンチネンタルにして、基本を学ぶ。



全員コンチネンタルグリップへ移行

オリエンテーション

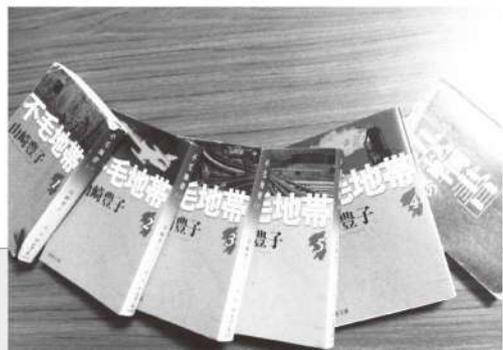
・部員が作成したカレンダーに

基づいて、翌年1年間のスケジュールを説明。

・4月からスタートする大学生活、特に授業に関する説明がある(4年間で必要な124単位に関して)。1年生での単位数取得の方法とその重要性などのレクチャーを受ける。

・「テニス発見ノート」を作成。

・翌年2月から始まる合宿までの宿題となるのが読書。『五輪の書』と『不毛地帯』を読み、後日感想文を提出。



「五輪の書」と「不毛地帯」

1月

・冬休み(故郷へ帰省する学生が多い)

・四大大会のひとつ、オーストラリアン・オープン観戦。有志を募り、学生や監督・コーチとともにメルボルンへ。予選および本戦を観て、肌で“世界のテニス”を感じる(1月10日前後～20日前後まで)。



監督・コーチと同じ部屋で、夜中もテレビを観ながら談笑



オーストラリアン・オープンのセンターコート

2月

・高校を卒業した学生から2月の合宿に参加(12月年末合宿での宿題提出)。

・大学4年間でテニス活動における準備(基礎体力や基礎技術の改善)。

・翌3月に大学で開催する男女の国際大会の準備をする。

・これからの生活拠点、活動の準備をする。

・国際大会参加を想定し、ITFのI-pin(アイ・ピン)登録と春の男子フューチャーズ、女子サーキットへの申し込みを行なう。

3月

・基礎練習から応用練習への移行期。

・体力強化を継続する。

・月末から始まる男子フューチャーズと女子サーキットへの参加を目指すとともに、大会運営に参加する。



スーパーバイザーから審判のレクチャーなどを受ける学生

4年間の目標を考える。 学生は本物を学べ!!

- ・Ever Upward「自らの可能性は、それを信じ続けた者だけが実現できる」(亜細亜大テニス部テーマ)の実行
- ・スポーツマンシップの獲得。人間的成長を目指す。
- ・大学王座・インカレ・全日本選手権など主要大会での優勝を視野に置く。
- ・海外などへ積極的に遠征し、世界ランキングに必要なATP・WTAポイント獲得を目指す。
- ・亜細亜大テニス部が使う重要ワード～意識改革／できるまでやる／適当や雑を一切無くす／時間を大切にす
- ・そして、卒業する!

大学

1年

- ・1年間で40単位取りきれるように努力する。
- ・体力、技術、精神の向上を目指す。
- ・基礎体力、基礎技術の取得。
- ・大学テニス界での自分の位置を確立すること。春／夏の関東学生での予選突破や本戦での活躍。インカレでの活躍。学生ランキングを上げること。
- ・新しい生活に慣れ、部活動とともに大学生活において自分のペースを確立すること。

大学

2年

- ・さらに40単位を取り、3年生で124単位取り切れるように努力する。
- ・勝負の年にする。
- ・体力、技術力のさらなる向上。
- ・積極的に対外試合や国内一般トーナメントに参加する。
- ・目標を忘れず、周りに流されないこと。

大学

3年

- ・3年生終了時に、124単位を取り切れるように努力する。
- ・勝負の年を充実させていく。
- ・海外遠征や国内トーナメントなどに積極的に参戦する。
- ・卒業後のことを見据えて、思いきりチャレンジする。
- ・卒業後に向けて進路を決定していく。部活動をきちんとこなしながら就職活動を行なう。

大学

4年

- ・4年間の集大成として、思いきり勝負する(そうなるように1～3年生をコツコツと精一杯努力しておくことが重要)。
- ・積極的に海外遠征でチャレンジする。
- ・卒業後の準備をする(プロ、実業団、指導者、教員、一般社会人など、それぞれの道へ)。
- ・教職科目を履修している学生は、母校にて教育実習を行なう。

プロジェクト

亜細亜テニス部員が4年間かけて達成することを“プロジェクト”と呼ぶ

・JTA(全日本ランキング)100位以内を目指す。(男子1243位～1位/女子658位～1位)そして、全日本選手権への出場、活躍を目標に努力する。

・年間52週のうち3分の1の休みをうまく活用してオープン大会へ積極的に参加、ランキングを上げる。
・テニスの戦略&戦術を学び、必要な技術に

磨きをかけていく。
・基礎体力の向上を目標に計画性を持ち、目標達成の原動力にする。

戦術の研究 情報・理論の収集・勉強

コーチングスタッフは、ユニバーシアード元日本代表選手、全日本チャンピオン、インカレチャンピオン、グランドスラム出場経験者など。その経験を生かし、年間の練習プラン、メニュー作成から、実戦練習、戦術、ゲーム研究までを学生といっしょに行なう。

・堀内監督によるテニス講義「戦略と戦術」について、それに必要な「9つのボール調整」「ナチュラルスピンスーパース」などが考え方のベースとなる。

・部室には、テニス、トレーニングに関する1000冊を超える書籍やテニス関連の映像教材が設置されていて、自由に利用できる。

・毎年1月に行なわれるオーストラリアン・オープン観戦の遠征や、国内主要大会観戦(デ杯・フェド杯・ジャパンオープン・東レPPO・全日本)に、積極的に出掛けて、理論を勉強する。情報収集の重要性。

・主催する男女国際大会でのゲーム分析(サービス、リターンの確率/エース・ミス)の調査比較など。出場学生のほか、参加選手のデータ収集も可能となり、非常に有効な情報収集、研究の場となる。

・自身の練習や試合を撮影し、部室のテレビなどを使ってチェック、改善に役立てる。

・主要大会のゲーム映像を部室の大型テレビで研究。

・関東大学テニスリーグなどのゲーム分析。

・時間や空間、場所取りなどテニスにおける戦術をゲーム分析含め映像やデータなどから読み取り、実践に役立つように処理し修得する。

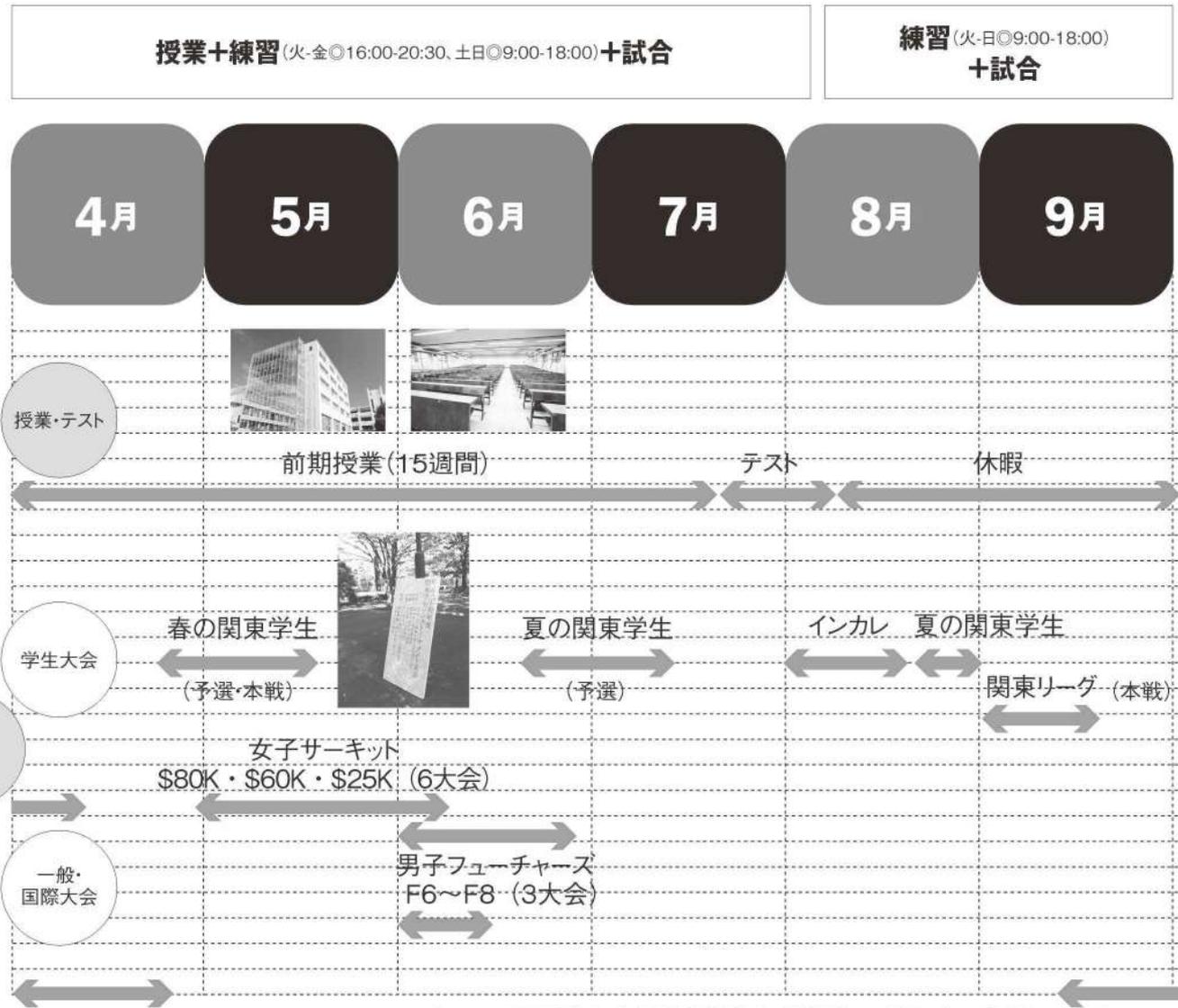
試合後のミーティングが特に重要

トーナメントを終えたあとは、コーチングスタッフとミーティングを行なう。反省をもとに改善点を洗い直し、その反省を生かし、次のプランを作成し実践していく。

卒業生のプロたちも学生を強力サポート

卒業生で選手活動をしている比嘉明人プロ、井上貴博プロ、長谷川梨紗プロ、矢野洋プロなどが、大会の合間に練習に参加し、学生を引っ張っている。心・技・体を学生とともに鍛え、磨き上げていくことができるのも、いまの亜細亜の大きな特徴。卒業生プロたちは、卒業後も大学をホームコートとして活用している。

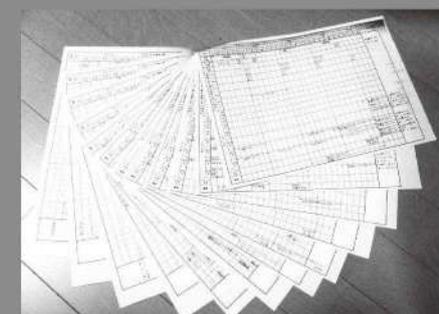
1年間の流れ



(テスト・主要学生大会期間を除き、授業との兼ね合いを考えて自身のレベルを)

年間スケジュール

- ・「国際大会チャリティークリニック」を年間20回を目標に開催
(※写真①)チャリティークリニックの風景
- ・毎年3月後半に男女国際大会を主催。男子F1フューチャーズ(\$1万) / 女子サーキット(\$1万)



12ヵ月のスケジュール。学事、学生大会、国際大会、JTAトーナメントを記載



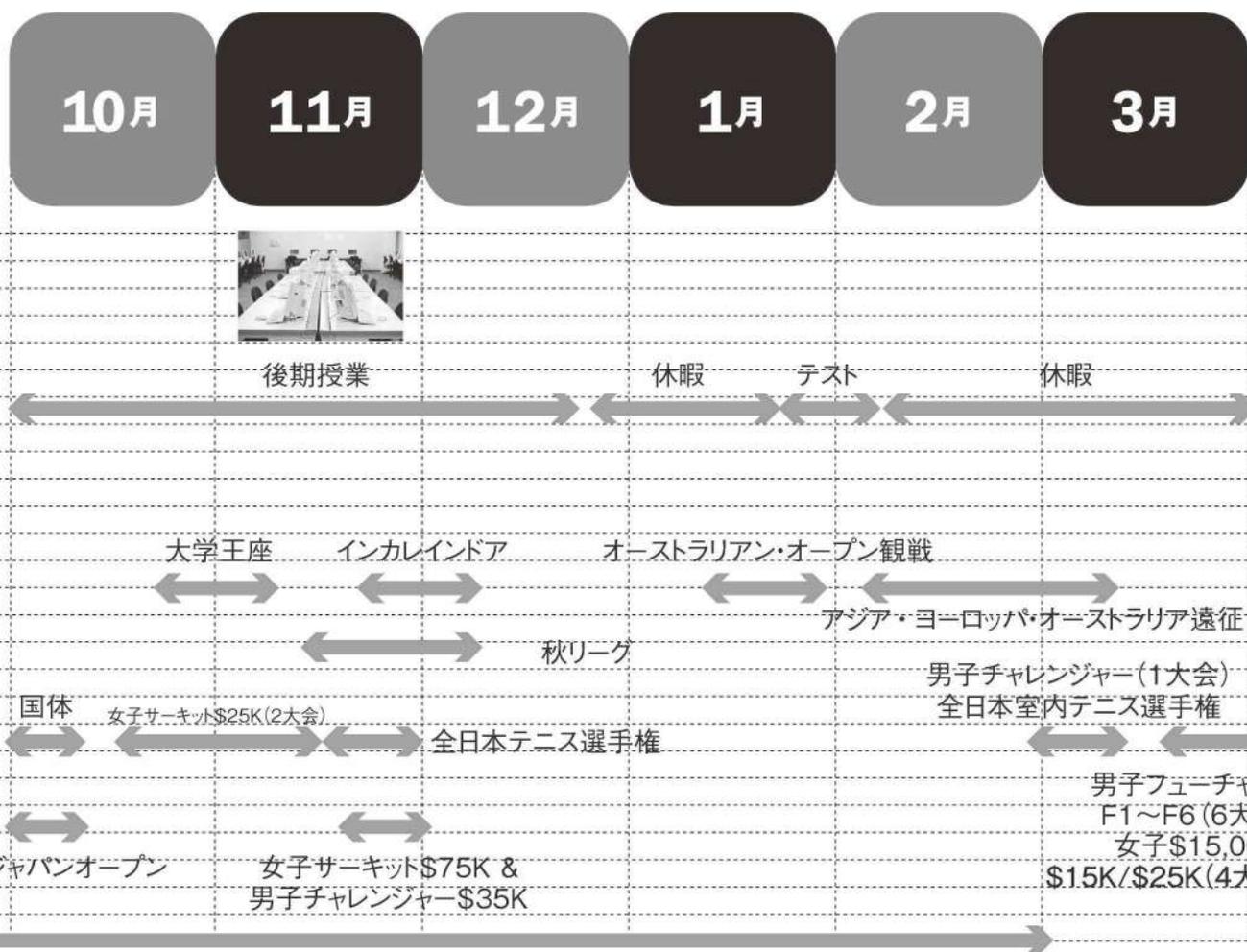
月間スケジュール

- ・対抗戦やトーナメントスケジュールの確認
- ・クリニックや行事の確認
- ・試合、練習計画作成



12ヵ月のスケジュール。学事、学生大会、国際大会、JTAトーナメントを記載

授業+練習 (火-金◎16:00-20:30、土日◎9:00-18:00) +試合	合宿+練習 (火-日◎9:00-18:00)	授業+練習 (火-金◎16:00-20:30、 土日◎9:00-18:00)	練習 (火-日9:00◎18:00) +試合+海外遠征
--	----------------------------------	---	--



週間スケジュール

- ・基本的に毎週月曜日がOFF
- ・外部スクールへアシスタントコーチ派遣 / ①昭和の森TS、②武蔵野ドームTC
- ・毎週水曜日(授業期間中)は、武蔵野キャンパスにてお昼にミーティング
- ・土日には、その週の反省と次週の確認を含めミーティング

日常のオンコートスタッフ陣

- ・堀内昌一監督 / 森稔詞コーチ(週6日)
- ・宮崎靖雄プロ(週5日)
- ・長久保大樹プロ(週2~4日)
- ・佐藤武文プロ(週3日)

1日スケジュール

授業有り (練習時間 / 火-金◎16:00-20:30、土日◎9:00-18:00)

- ・基本的に1限が9:00からスタート。テニス部員はできるだけ3限までに授業を登録受講し、練習時間の確保に努める。
- ・10面のテニスコートを使用する。
- ・オンコート練習(ナイター設備があり、20:30まで練習可能)。
- ・3時間の練習と1.5時間のトレーニング。男子10km、女子8kmのランニング。
- ・400mトラックを使いインターバルやランニング、フットワークトレーニングなど。
- ・トレーニングジムにてウエイトトレーニング。コートではフットワークドリルやプライオメトリクストレーニングなどを行なう。
- ・雨の場合は、昭和の森TSインドアコートへ移動して、練習する場合もある。

契約トレーナーとともにフットワークトレーニングを行なう



我々は本物のテニスを追求する。

心の追求

- ・スポーツマンシップの獲得(グッドルーザー〜潔く負けを認められる人になるためには…)
- ・メンタルトレーニング受講(月1回、部員は高妻容一先生の講義を受講)。メンタルのスキルアップを実践している。
- ・礼儀やモラルを大切に(テニス部というチームで、仲間との協調性を磨き、団体行動において必要とされるモノを取得する)。
- ・PDCA(plan / do / check / action)の徹底。
- ・復習の徹底(試合報告書の作成や本を読み、座学を受けた際の感想文作成など)
- ・個々が毎日精一杯努力し、人間的成長を目指す。



テキスト『スポーツマンシップを考える』

技の追求

なぜ必要なのか?

テニスは対戦競技であり、ネットを挟んで相手と対峙し、1ポイントを奪い合うスポーツ。1ポイントを奪い合い、1ポイントの積み重ねが1ゲームになり、1ゲームの積み重ねが1セットになり、1セットの積み重ねが1試合になる。

そのようなゲーム特性を踏まえると対戦するふたりは、テニスコートの中で、「間」=時間をうまく使い、「場」=スペースを確保し、あるいは埋めることを考えて、実行に移す。テニスはお互いが「時間」と「場所」を奪い合うスポーツである。その手段として必要になるのが「技」。

現在の競技力は劇的に進歩しており、スピードもスピンのリカバリーも戦術も、より速く、より重く、より変化に富み、より高度に、より巧みになっている。スピードがある——すなわち時間がない——限られた時間の中で、プレイヤーの選択は、くいに時間を有効に使うか>という、<戦術に基づいた技術>に進化している。

それは、くいに無駄な時間をなくすか>ということにつながり、さらに、より機能的な運動に近づくとく<再現性の高い運動>をすることでもある。それが、いま我々が目指している「技」である!

体の追求

- ・専属トレーナーによる年間50日間のトレーニング指導。

- ・毎日のランニング(男子10km/女子8km)

- ・火曜日-金曜日(平日)は3時間のオンコート練習と1時間30分のトレーニングで、徹底的に「技」と「体」を追求する。

- ・テニスコート(ナイター完備)、陸上トラック、トレーニングジムともに9:00-20:30まで利用できる。

- ・トレーニング1時間30分の内容は、韓国式(体幹)トレーニング、ジムトレーニング、オンコートフットワークドリル、メディシンボールでのプライオメトリックトレーニングなど。

- ・土・日・休日は6時間のオンコート練習となる。

……なぜ6時間もオンコート練習か

……シングルス3セットマッチを2試合、

ダブルス3セットマッチを1試合と

いう、現行ルールでの最大ゲーム数を

問題なくプレーするための準備。そ

れに耐えられるだけの身体をつくるこ

とを目標にしている。常に「将来」に

目を向けてトレーニングする。



目的意識を常を持ってランニング

すべてに共通、練習はできるまでやる!

どんなことが必要?

「再現性の高い運動」
「戦術に基づいた技術」
「時間をつくる」

- ・時間をつくるとミスが減る。時間をつくと相手を「観る」「探る」「読む」ことができる。時間をつくと場所が確保できる。

- ・我々は、時間をつくるために必要な技術、「戦術的技術」も追求していく。

- ・ただボールを打つだけでなく、技術の効果をどう上げるかを考えながら、技術習得を目指す。

- ・必ずその技術を習得するために、時間で区切った練習はせずに、できるまでやる〜達成型の練習を行なう。

- ・対人練習はもちろんのこと、選手同士のコーチング練習、高校生やジュニア、一般プレイヤーを対象としたクリニックでの指導も、さまざまな角度から「技」を磨くためのものである。

もっとも追求している技術のひとつが「サービス」

試合の中で使う全ショットのうち、3分の1を占めるのがサービスである。ということは、3時間の練習であれば、1時間はサービス練習に費やす必要があると考える。サービスは、テニスの中で唯一のクローズドスキル(相手の影響を受けずに打てるショット)であり、自分自身でコントロールできるショット。サービスを追求することは、テニスの質を高める上で絶対に外せない。だからどんなに時間がかかろうとも、亜細亜では徹底的に追求し、改善し、習得を目指す。

基本的にストロークにおいては、ボール調整(9種類と考える)を行ない、練習に取り組む。各コートにはゴムで高さを設定し、目指すボールの種類をもって、この高さをクリアするまで練習は終わらない



19 88年、亜細亜大学テニス部は大々的な強化をスタートさせました。その舵取りをしたのが、私の恩師のひとりである亜細亜大学元学長、衛藤藩吉先生（故人）です。先生は「テニスは、ラケット1本で世界中どこでもプレーすることができ、半日でいろいろな国の人も親交を深めることのできる素晴らしいスポーツ」とおっしゃっていました。

私はいま、そのテニスを通して、志ある学生たちと日の出のテニスコートで汗を流しています。

関東大学テニスリーグ男子7部／女子5部からスタートし、大学王座優勝まで上り詰め、数々の全日本優勝者やグランドスラムでプレーする選手を輩出してきた亜細亜には、現在、ATP・WTAポイントを取得してグランドスラム出場を夢みる学生や、全日本、インカレ、関東学生に出場し、優勝することを目標に日々練習に励んでいる学生、ケガからの復帰を目標にリハビリしている学生などがいます。

そんな学生たちがいる現場では、目標を達成した学生が、新たな目標に向かいいっそう努力する瞬間、目標に届かずあきらめかけ、もがいている瞬間、再度挑戦している瞬間、目標を失い、迷っている瞬間など、それぞれの一喜一憂を目にします。その中で私の役目は、個々の「夢」を思い起こさせ、目の前で起きていることに左右されず、軸をもち、軸をぶらさず、目の前の小さなことからクリアしていくようにアドバイスし、導くことです。

大学4年間は、大人になっていく過程でもっとも重要な時期です。一見「楽しそう」に思えることが多々出てきて、気持ちがあふれることがあります。でも長い人生、いくらでも時間はあります。いましか打ち込めないものを見定め、自ら何をすべきか優先順位をつけて自分を磨いてほしいと思います。

テニスを長くやっているとうまくいかないことだらけで、あきらめそうになる瞬間もあります。しかし、小さい頃から好きで続けてきた「夢」を簡単にあきらめてはいけません。亜細亜で「夢」を必死に追い続けてみませんか。

私たち、亜細亜大学テニス部の目指す「夢」とは、テニスを通じて人間力を高めることにあります。大学王座やインカレを獲得することに収まらず、全日本選手権優勝やユニバーシアード、グランドスラムへの挑戦——と同時に、社会に出ても大きな力となるスポーツマンシップを修得することです。

「夢」の実現には、まず自分を信じて努力し、学生生活で仲間をつくり、学業で知識を深め、部活動を通して思いやりをもてるように、そして人に感謝できるように、人のためになれるように人間力を磨くことです。

現在、それらを経験してきたコーチングスタッフ、堀内監督をはじめ、卒業生たち——グランドスラム出場経験を持つ岡本聖子、インカレ・チャンピオンの赤堀奈緒、インカレインドア・チャンピオンの宮崎靖雄、そして私——全員学生のオリンピックであるユニバーシアード日本代表経験者が、日々コートに立ち、学生たちを指導しています。

現在の亜細亜大学テニス部のリーグ戦、個人戦の結果を振り返ると、課題は多く、私はもう一度初心に戻って、取り組まなければならないと思っています。自分の学生時代を思い出し、学生たちとコートに立ってボールを打ち合い、うれしいときはともに喜び、つらいときはともに歯を食い縛り、同じ夢を追いかけようと思います。「夢を変えずに自分を変えよう！」——私の好きな言葉です。いっしょに夢を叶えませんか。

夢を簡単にあきらめないで。
「夢」を変えずに
「自分」を変えましょう！
亜細亜で「夢」を必死に
追い続けてみませんか。

森 稔詞

(亜細亜大学テニス部コーチ)



挨拶

学長 大島 正克

(亜細亜大学)



テニスをとおして
一層豊かな
人間になろう!

世界に羽ばたく起点に 亜細亜大学のテニス部があります。

1996年度から2011年度までの16年間、テニス部の部長をし、その後2018年度まで硬式野球部の部長をしました。この二つの競技は同じ球技でありながら、まるで正反対の競技です。テニスは個人主体の競技ですが、野球はチーム主体の競技です。テニスは一旦試合が始まれば、すべて自分で試合を組み立てます。野球は監督の指示のもと、試合をしていきます。テニスはそれだけ、自分というものが確立していなければなりません。

野球の世界はまだまだ男の世界ですが、テニスは、もはや女子が優位と感ぜられるほど、男女の差はありません。亜細亜大学のテニス部も男子の硬式庭球部と女子ローンテニス部があり、男女が

共に力を合わせ切磋琢磨しています。亜細亜大学の建学の精神は「自助協力」です。まず、自分がしっかりと自立し、そして自立したもの同士がお互いに協力しようという精神ですが、テニス部で活動することで、大いに「自助協力」の精神が養われます。

男子も女子も激戦といわれる関東大学リーグ1部で頑張っています。特に女子ローンテニス部は、2018年度全日本大学対抗テニス王座決定試合において準優勝という素晴らしい成績をあげています。日本全国の大学のテニス界で第2位ということになります。一人ひとりの力の集大成です。大学でもこの榮譽を祝して亜細亜大学では最高の榮譽とされる五島賞を授与しています。

亜細亜大学のテニス部の大きな特色はテニスの国際大会を開催しているということです。2019年の亜細亜大学での国際大会は、男子が13回目、女子は8回目となります。全世界から選手が集まります。この大会で勝ち進めば世界大会のポイントも獲得できます。亜細亜大学のテニス部員は大会を運営するだけでなく、大会にも参加し勝ち進んで頂きたい。亜細亜大学は世界に羽ばたくスタート地点そのものです。私が部長をしていた頃に、大坂なおみ選手のコーチをしたという吉川真司さんも部員として活躍していました。皆さまも自分が目指す栄光をしっかりと掴んで頂きたい。亜細亜大学は、皆さまの活躍を全力で応援いたします。



部長 宇田川 裕

(国際交流センター部長)

社会に有為な人材の輩出、社会貢献に取り組み、“世界に開かれたテニスチーム”を目指します。

亜細亜大学テニス部は、50年を超える歴史と伝統、輝かしい戦績や、多方面で活躍される卒業生の存在だけではなく、他には実現できない画期的な練習プログラムや教育システムをもって運営され、常に前進し続けています。

テニスプレーヤーの誰もが、満足できる成果を上げたいと思っています。ただ、練習によって技術を磨き、単に大会に出場するだけでは、その目的は達成できません。プレーするのは人間ですから、全般を鍛えていくことが必要なのです。また、今般の激変する社会環境にあって、大学卒業後に社会人として逞しく生き抜くには、スポーツの技術や理論を通して、思考力、実践力を身につけ、友人との協働とさまざまな社会体験によりコミュニケーション能力を養って、人間力を高めることが重要となります。

これを実践するために、私たちはさまざまな実践プログラムを用意しています。まさに、心・技・体を鍛え上げる、人間力の高いバランスのとれた学生育成を行なうのです。

そして、海外遠征や国際テニス大会の運営によって、国際感覚をも磨いてゆくのですね。

私たちは、社会に有為な人材の輩出やテニス競技普及等の社会貢献に取り組み、皆さんとともに“世界に開かれたテニスチーム”となることを目指していきたいと思っています。



部長 金子 国彦

(学生生活課長)

明るく、爽やかで、個性豊かなバランスのとれた人間に成長してほしい。国際社会に貢献できる人材育成が目標です。

亜細亜大学テニス部は、スポーツ新興の一環として大学の強化クラブに指定されており、大学テニス界においてトップクラスの戦績を挙げています。これも堀内昌一監督、森稔詞コーチ等の熱心な指導による、部員ひとりひとりの日頃の努力と、チームとしてのまとまりがこのような良い結果につながったと思います。

本学は、単にテニスが強い大学を目指してはおりません。部員ひとりひとりが社会で活躍できるよう育成すべく、大学生活においてもいい指導を心がけております。特に授業のサポート体制は他大学にないものであります。同時に生活指導も行い人格形成においても、明るく、爽やかで個性豊かでバランスのとれた人間に成長していくことを目標としています。

また、大学という教育機関が、世界レベルへの登竜門となる国際テニス大会を主催することにより、本学の使命でありアジア地域を中心とした国際化の取り組みを実践する場となり、国際社会で貢献できる有為な人材の育成を図っております。

人柄がよく、やる気のある者、自分の可能性を信じぜひとも、亜細亜大学のテニス部にチャレンジしてください。クラブ一同、歓迎いたします。

衛藤 藩吉先生を偲んで

この出会いですべては始まった

文◎堀内昌一

「亜細亜大学学長の衛藤です。帰国したら大学で会おう！」——昭和62年7月、私がジュニア日本代表チームのコーチとしてロンドン（ウインブルドン）に遠征していたときにいただいた電話です。

帰国して学長室を訪ねると、衛藤先生はランニングシャツに下駄履きという出で立ちで私を迎え、大学改革についての思いをぶつけてきました。そこで私も、生意気にも自分の思いをぶつけました。日本テニス界は18歳以上の強化が課題であること、大学での指導の必要性、そして世界挑戦——当時の私は26歳です。

衛藤先生は、私の話をにこにこしながら聞いてくださり、こう言いました。「テニスはどこへ行っても誰とでも友達になれるスポーツ」「誠実な人柄のテニス選手は、どんな仕事もひとりでやり抜くことができるよ」と。衛藤先生はテニスが好きで、自ら体験されて、それを知っていたからこそその言葉でした。

スポーツを強化する目的が、宣伝や経済効果を考へての手段となることが少なくない世の中で、衛藤先生の純粋な考え方に私は惹かれ、亜細亜大学を選ぶのにもう時間はありませんでした。あれから25年が経ち、あのときがなかつたら……いまの私もテニス部もありません。だから衛藤先生、心からありがとうございます。いつも見守っていてください。

亜細亜大学テニス部 指導スタッフ紹介

ディレクター兼テクニカルコーチ

教え子のコーチ陣に囲まれて、指導体制はとても充実しています。その指導に甘えることなく、自立した学生、選手、部活を目指しています。



堀内昌一監督

(亜細亜大学教授／テニス部監督)

全体を統括し、学生がテニスに集中して競技力を向上できる環境を整えている。これまで育ててきたOB、OG複数名をコーチとして迎え、指導者が常駐するほか、遠征に帯同できる準備もある。そのほか、トレーニングコーチ、メンタルコーチ、メディカルスタッフも揃え、あらゆる角度から学生をサポートする。

ほりうち・しょういち◎1960年に東京都世田谷区に生まれる。1972年に中央大学付属高校に入学、戦績はH都予選ベスト64だった。日本体育大学に入学し2年生のときアメリカのニック・ポロテリーに留学、その後New Mexico Military Institute 大学に留学。1982年には全米短期大学テニス選手権でベスト8に入った。帰国直後のインカレでベスト8に入り、翌年の関東学生では優勝。その後、ユニバーシアードに選ばれた。日本体育大学大学院修了後、1987年に亜細亜大学の衛藤瀧吉学長と出会い、テニス部の監督を引き受ける。しかしそのときの亜細亜大学は男子7部女子5部、共に最下位であった。1988年、監督の指導力に惹かれ、前年のIHチャンピオンの岡田岳二さんや山崎史子さんをはじめ、高田充さんの高校トップクラスの選手が亜細亜に入学し、亜細亜大学の快進撃が始まった。ATP S 571位/D 713位 JOP S 17位/D 13位

テクニカルコーチ



森 稔詞

(亜細亜大学学生生活課所属)

大学強化第一期生が母校に戻り、学生に“テニスの精神”を叩き込む全力指導をしている。週6日男女部員を指導。

もり・しづく◎1969年12月22日大阪府で、父(故)顕郎と母孝子の間に生まれ、弟大明の2人兄弟。父の仕事の都合で東京へ上京。小学校在学中、地元多摩ローンテニスクラブで毎日壁打ちし週末は野球。中学校在学中、平日は多摩ローン、週末は朝日生命テニス教室(スクール)へ通う。のち、大阪にある名門清風高校へ進学。3年次インターハイでは団体・単・複すべて準優勝。全日本ジュニア18歳以下優勝。その後、亜細亜大学へ進学し3・4年次インカレ単2連覇とアジア学生選手権単複2連覇。90年ユニバーシアード日本代表(イギリス)複ベスト8。卒業後プロ転向プリンスホテルと契約。92年全日本テニス選手権複優勝、94年全日本室内選手権単優勝。97年引退。現在、亜細亜大学堀内監督の下、後進の指導にあたる。07年ユニバーシアード日本代表監督。日本ランキング単5位・複4位 / ATPランキング単579位・複473位が最高。大学1年生から8年間ナショナルチームメンバー。S級エリートコーチ。



宮崎靖雄

アカデミックな思想を持ち合わせ、学生との打ち合いで与える影響は大きい。

みやざき・やすお◎1981年8月29日熊本県出身。小学4年からテニスを始め、中学3年初めて全国大会に出場(全国中学生テニス選手権)。熊本マリスト学園高校に入学。高校2年次、全国選抜室内ジュニア選手権優勝。3年次ウィンブルドンジュニア出場、全日本ジュニア複優勝。亜細亜大学に入学。全日本学生室内テニス選手権単優勝、複準優勝。03,05年ユニバーシアード代表。ユニバーシアード(トルコ)複ベスト8。日本ランキング単17位、複16位 / 世界ランキング単790位、複829位。現在は筑波大学院を修了。ASC理事・国立電通大・慶大にて非常勤講師を務めながら、後進のコーチをしている。



長久保大樹

現役プロのツアーコーチにも帯同し、その経験を活かした指導から学生が厚い信頼を置いている。また、トレーニングの指導も行う。

ながくぼ・たいき◎1989年7月19日生まれ。学生時代は春関複ベスト4、新進複優勝、インカレ複ベスト8、インカレインドア複ベスト8、全日本学生テニス選手権複出場、ニック全日本テニス選手権複ベスト16に入る。現在はASC(アジアスポーツクラブ)でコーチをしながら学生のコーチング&トレーニングを指導している。

テクニカルコーチ



赤堀奈緒

週1日女子部員を指導。5部だった亜細亜を1部の常連にした立役者は、そのハングリー精神と職人気質な身体の使い方を指導してくれる。

あかほり・なお◎1971年生まれ。1987年東海大学附属相模高等学校に入学し2年次に全日本選手権ベスト8に入る。1990年亜細亜大学に入学し2年次にアジア学生テニス選手権(台湾)S優勝。全日本学生選手権Sベスト4、D優勝。全日本学生室内選手権S、D優勝。3年次には関東学生選手権S優勝。全日本学生選手権S優勝、D準優勝。全日本選手権Sベスト16Dベスト4になる。最高学年のときは、ユニバーシアード準優勝。1994年大東銀行入行。1995年テニスプロ転向。1997年に全日本選手権Sベスト16、D優勝。1998年腰椎椎間板ヘルニアで引退。1999年～現在、民間クラブのテニスコーチ。2001年～2004年東京医療専門学校(鍼灸)、2004年～亜細亜大学コーチをしながら鍼灸マッサージの仕事をする。2011年～現在、祖師ヶ谷大蔵で治療院を開業中。

フィジオセラピスト



今泉智仁

選手の治療・コンディショニングを担当。豊富な経験から選手に寄り添った的確なアドバイスを送る。

いまいずみ・ともひと◎1972年10月1日生まれ。愛知県出身。北京中医薬大学医学部を卒業後、国内で鍼灸師の資格を取得。2007年よりテニスのツアートレーナーとしてプロに帯同し、体のケアとコンディショニングを整える。選手を一番良い状態でコートに立たせることに尽力することをモットーにしている。

トレーニング担当



林忠右

月に数回、日の出にてトレーニング・ケア・リハビリ全般を担当。また、治療院にて選手の治療、トレーニングも行う。リーグ時にはチームに帯同し、テーピングやコンディショニングを行う。

はやし・ただすけ◎1982年神奈川県鎌倉市生まれ。湘南医療福祉専門学校にて、鍼灸あん摩マッサージ指圧師、日本体育協会公認アスレティックトレーナーの資格を取得。(有)トレーナー・アローズに入社後、社会人アメリカンフットボールチームやヤマハスノーモービルチーム、J2栃木サッカークラブ、大学硬式野球部などでアスレティックトレーナーとして活動。2013年よりアローズ武蔵境院長。2017年から亜細亜大学テニス部にアスレティックトレーナーとして参加。

メンタル担当



高妻容一

月に1回、メンタルトレーニングを指導。学生自らがトレーニングできるように、チューデントトレーニングという役割を作って、トレーニングが継続できるように努力している。

こうづま・よういち◎1955年、宮崎県生まれ。福岡大学(体育学部体育学科)卒。中京大学大学院(体育学研究科体育心理学)修了後、フロリダ州立大学へ留学(スポーツ心理学など)、博士課程中退。1993年、州立フロリダ大学へ1年間の研究留学。近畿大学教養部助教授を経て、現在、東海大学体育学部教授。1985～2001年、日本オリンピック委員会のメンタルマネジメント研究班員。1994年からメンタルトレーニング・応用スポーツ心理学研究会をスタート。所属学会は「国際メンタルトレーニング学会」など10を数える。

コンディショニング担当



平石貴久

亜細亜大学テニス部の心強いチームドクター。血液検査を定期的に行うなどして、身体に関する基礎知識を指導する勉強会を行うなどして、学生の体調を管理している。

ひらいし・たかひさ◎1950年鹿児島県生まれ。東京慈恵会医科大学卒業。専門は内科、循環器科、スポーツ医学、放射線診断、東洋医学。鍼灸あん摩マッサージ指圧師。介護予防運動指導員。日本体育協会公認アスレティックトレーナー。駒澤大学卒業後、小守スポーツマッサージで修業し、1977年からフジタ工業サッカー部のトレーナーに就任。81年に独立し、日本トレーナー協会所属、三宅スポーツマッサージを設立。医療法人社団貴生会理事長。東京ミッドタウンメディカルセンター平石貴久特別外来ドクター。

学内スタッフ



宇田川 裕 (国際交流センター部長)

亜細亜大学テニス部OBで、男子部部长である。現在は亜細亜大学職員として、学校の仕事もしながらテニス部の運営や就職の手伝いをしている。亜細亜大学国際大会事務局局長。



金子国彦 (学生生活課課長)

亜細亜大学テニス部OBで女子部部长である。現在は亜細亜大学職員として年度始めに履修カリキュラムのミーティングをしたり、部活との兼ね合いで履修ができない授業がある学生の、時間割変更などのサポートをしている。

部員名簿

①役職②出身地③出身高校④生年月日⑤テニス歴⑥尊敬する人
⑦趣味⑧好きな言葉⑨主な戦績⑩目標⑪自己PR男子
硬式庭球部

加藤彰馬

(主将)4年

①主将②神奈川県③横浜清風高校④1997年10月4日⑤15年⑥両親⑦スポーツ観戦⑧継続は力なり⑨全日本学生室内テニス選手権 単複ベスト8、新進複優勝⑩インカレ優勝⑪人生で初めて主将ですが、みんなをうまくまとめられるように頑張ります。



高山裕哉

4年

①涉外②埼玉県③浦和学院高校④1997年6月1日⑤13年⑥中村聡利⑦散歩⑧置かれた場所で咲きなさい⑨春関複1次SF⑩最高の1年間にする⑪最高学年としての自覚を持ち、チームの為に最後まで頑張りたいと思います。



堀 匡毅

4年

①イベント②神奈川県③神奈川県立鶴嶺高校④1996年9月19日⑤6年⑥両親、志賀隼⑦服、スポーツ⑧努力は信頼を勝ち取る⑨新進複2次SF、春関単2次SF⑩結果を残してリーグメンバーになる⑪亜細亜大学テニス部に入って心技体を高めることができました。辛いことから逃げずに最後の年は今まで以上の結果を残せるように頑張ります。



志賀 隼

(主務)4年

①主務・マネージャー②東京都③安田学園高校④1997年11月16日⑤10年⑥両親、堀内昌一監督⑦日記を書くこと⑧天真爛漫⑨春関複1次SF⑩最高のマネージャーになる⑪学生幹部となり、マネージャーになりました。この素晴らしい部活動を裏方から支えていけるように、ラスト1年頑張ります。



村西開斗

4年

①管財②兵庫県③芦屋学園高校④1998年2月18日⑤12年⑥クリスティアーノロナウド⑦カフェ巡り⑧WINWIN⑨春関複2次SF⑩関東学生⑪最上級生の自覚を持ちラスト1年間部で必要とされる存在になれるように頑張っていきます!!



清水奎吾

3年

①副将・競技力向上②滋賀県③光泉高校④1999年2月2日⑤15年⑥両親⑦映画観賞⑧努力に勝る天才なし⑨関東学生⑩インカレで1つでも多く勝つ⑪今年こそチームに貢献出来るように勝利を挙げ続けます!個人戦でも結果を求めて日々精進していきます!



岡 庸輔

4年

①副将、財務②埼玉県③浦和学院高校④1997年9月20日⑤11年⑥中村聡利⑦読書⑧備えあれば憂いなし⑨新進複ベスト8⑩インカレ出場⑪学生テニス最期の年で悔いなく終わるために何事にも全力で取り組み最高の一年にしたいと思います。



倉持侑希

4年

①広報②東京都③堀越高校④1998年1月27日⑤12年⑥堀江貴文⑦料理・ラーメン屋巡り⑧死ぬこと以外かすり傷⑨夏関本戦⑩インカレ⑪何事にも挑戦していくスタンスでいきたいと思っています。



島亮太郎

3年

①副務②東京都③杉並学院高校④1998年6月3日⑤7年⑥両親⑦食べ歩き・映画鑑賞⑧試行錯誤⑨春関単複1次2R⑩関東学生になること⑪副務として、主務を全力でサポートできるように努めます。また、テニスの面でもいい成績を残せるように頑張ります!



吉田 慎

4年

①競技力向上②岐阜県③麗澤瑞浪高校④1997年12月16日⑤17年⑥両親⑦料理、読書、買い物⑧人事を尽くして天命を待つ⑨春関複ベスト8、新進複優勝⑩今までで一番良い成績を出す!⑪早いものでラスト1年となりました。4年間で一番充実した年に出来るように全力を尽くします。



嶋田瑛介

4年

①スカウト②千葉県③秀明英光高校④1997年9月4日⑤16年⑥マザーテレサ⑦人間観察⑧色々な人に会うこと⑨春関単2次F⑩何事も楽しく生きる!⑪人生まだまだこれから、大学生活ラスト1年、笑って終われるように頑張ります!



熊坂拓哉

3年

①競技力向上②山形県③日本大学山形高校④1998年10月12日⑤15年⑥国府方雅晴⑦スポーツ⑧人事を尽くして天命を待つ⑨夏関単準優勝、インカレインドア単ベスト16、亜細亜国際オープンテニス単ベスト16⑩インカレ優勝、全日本テニス選手権大会ベスト8、ITF700位以内⑪最後までボール追いかけて頑張ります。東北魂!



工藤颯人

3年

①渉外②宮城県③日出高校④1998年9月19日⑤15年⑥リオス⑦美味しいものを食べる、ショッピング⑧平常心⑨インカレ出場⑩インカレ優勝、王座優勝⑪今年は勝負の年。目標達成を目指して勝ちに行くことはもちろん、誰よりもテニスを楽しみます。



須田圭亮

3年

①学連②大阪府③西武台高校④1999年1月22日⑤15年⑥両親⑦音楽鑑賞⑧水滴石を穿つ⑨新進単1次F⑩ベンチプレスMax120kg⑪豊満ボディから放たれる一撃は必見です。



濱口昌孝

2年

①管財②大阪府③清風高校④1999年11月15日⑤8年⑥重家コーチ⑦釣り⑧人間万事塞翁が馬⑨春関複本戦出場⑩インカレ優勝、王座優勝⑪今年も挑戦することを忘れず清風魂を発揮して頑張っていきます。



堀内竜輔

3年

①競技力向上②東京都③サレジオ学院高校④1998年9月21日⑤14年⑥イチロー⑦動画鑑賞⑧初志貫徹⑨インカレ出場⑩全国タイトルをとり、ユニバーシアードになること。⑪試行錯誤して多くのことに挑戦していきます。左利きと長身を生かして、成長していきます。



呉岡拓弥

3年

①管財②岐阜県③麗澤瑞浪高校④1998年7月31日⑤10年⑥両親⑦料理⑧千日の稽古を鍛とし万日の稽古を練とす。⑨新進単本戦出場⑩インカレ優勝⑪去年は納得いく結果が出せなかったのですが今年には勝ちにこだわり勝ちをもぎ取ります。



粕谷朋希

2年

①副務補佐②東京都③秀明高校④1999年12月24日⑤8年⑥自分の人生で会う全ての人⑦ギター演奏⑧初志貫徹⑨夏関1次2R⑩関東学生になる⑪得意のバックハンドで全てのボールを打ち抜きます。



大野一真

3年

①スカウト②東京都③大成高校④1998年5月11日⑤10年⑥両親、堀内昌一監督⑦漫画⑧大器晩成⑨春関複2次SF⑩インカレ出場⑪残りの学生生活も2年になり、時間が無くなってきました。限られた時間の中で最大限の努力をして目標を達成してみます。



塩谷大河

3年

①広報②埼玉県③浦和学院高校④1998年6月23日⑤14年⑥中村聡利⑦お稽古⑧雨を感じられる人間もいるし、ただ濡れるだけの奴らもいる。⑨新進単ベスト32⑩インカレベスト16⑪最近階段登るのが大変です。頑張ります。



目黒志和

2年

①スカウト②東京都③湘南工科大学附属高校④1999年4月3日⑤10年⑥ラファエルナダル⑦映画鑑賞⑧一心不乱⑨新進単2次F⑩インカレ出場⑪全てのこと全力で取り組んで結果出せるように頑張ります。



高見澤岳飛

3年

①広報②東京都③横浜清風高校④1998年5月18日⑤8年⑥アンディ・マレー⑦音楽⑧塵も積もれば山となる⑨インカレインドア出場⑩インカレ優勝⑪今年もコツコツと重ねて行けるように頑張ります。



吉満優希

3年

①学生AD②愛知県③名経大市邨高校④1998年12月29日⑤12年⑥ジャック・マー⑦深夜ラジオ、読書⑧「報われない努力は、努力と呼べない」⑨新進2次SF⑩関東学生⑪今年こそは関東学生になれるように努力していきたいです。



柘富一

2年

①イベント②徳島県③学芸館高校④1999年1月9日⑤12年⑥ロジャー・フェデラー⑦髪セット⑧気合い⑨新進単2次SF⑩メンバーに入る。⑪体が握るまで走り回ってボールにくらいつきます。



部員名簿

①役職②出身地③出身高校④生年月日⑤テニス歴⑥尊敬する人
⑦趣味⑧好きな言葉⑨主な戦績⑩目標⑪自己PR

石井智也

2年

①競技力向上②秋田県③秋田商業高校④1999年9月16日⑤11年⑥両親⑦音楽⑧七転び八起き⑨夏関単2次SF⑩インカレ出場⑪日々努力しインカレで勝てる選手になれるように頑張ります。



平塚太一

2年

①広報②埼玉県③開智未来高校④1999年12月13日⑤4年⑥両親⑦音楽鑑賞⑧不撓不屈⑨夏関単1次SF⑩関東学生⑪勉強とテニスを両立して、日々努力していきたいです。



権藤卓巳

2年

①イベント②神奈川県③横浜清風高校④1999年12月8日⑤9年⑥ファブリス・サントロ⑦映画鑑賞⑧臥薪嘗胆⑨夏関単2次F⑩インカレに出る。⑪魔法をかけながらコート中を頑張って駆け回ります。



浅海裕一

1年

①スカウト②埼玉県③柳川高校④2001年3月12日⑤7年⑥柳川高校OBOGの方々⑦音楽を聴く⑧この1球は絶対に無二の1球なり。⑨九州ハードコートテニス選手権ダブルスベスト4⑩大学4年間でインカレ好成绩をだす。そして大学の勝利に貢献できる選手になる。⑪何事も全力で取り組みチームの勝利に貢献できる選手になります。



岡 悠多

2年

①広報②埼玉県③浦和学院高校④1999年10月5日⑤11年⑥両親⑦音楽鑑賞⑧明日死ぬかのように生きよ、永遠に生きるかのように学べ。⑨新進単2次F⑩インカレ出場⑪1年生の時よりもっと成長できるよう全力で取り組みます。



小笠原洋

1年

①涉外②東京都③都立松が谷高校④2000年5月3日⑤5年⑥両親⑦音楽⑧最後には勝つ⑨高体連新人戦本戦出場⑩テニス選手としても人間としても成長⑪新1年として競技力だけでなく自分の仕事を1つ1つこなしていきたいです。



古藤嵩大

2年

①財務②神奈川県③湘南工科大学附属高校④2000年1月29日⑤15年⑥両親⑦音楽を聴くこと⑧遠回りが一番の近道だ⑨夏関2次SF⑩単複インカレ出場⑪柔軟なテニスは出来ません。コート上で、忍びます。



南文乃

(主将)4年

①主将②埼玉県③浦和学院高校④1997年12月6日⑤15年⑥両親⑦旅行と読書⑧ご縁⑨インカレ複ベスト32⑩単複インカレ出場⑪日々感謝を忘れずに、テニスを通して人としても大きく成長出来るよう頑張ります。



境春菜

4年

①涉外、学連②東京都③城西高校④1997年4月25日⑤4年⑥両親⑦映画鑑賞⑧感謝⑨春関単1次F、複1次SF⑩一つでも多く勝つこと⑪周りの支えてもらっている人に感謝の気持ちを忘れず、頑張ります。



佐藤葵

3年

①スカウト・学生AD②埼玉県③山村学園高校④1998年8月18日⑤10年⑥両親⑦参考書を読む⑧がんばる⑨新進複本戦出場⑩関東学生⑪自分越えます。日々情熱で頑張ります。



高橋もも

(主務)4年

①主務②山梨県③宮崎商業高校④1997年7月1日⑤11年⑥両親⑦音楽⑧緑⑨夏関複2次F⑩人間的成長⑪夏生まれですが夏に弱い高橋です。ラスト1年目標達成に向けて頑張ります!



朝倉菜月

3年

①副将②静岡県③松商学園高校④1998年5月24日⑤12年⑥両親⑦好きなものを好きだけ食べる⑧努力が実を結ぶ⑨春関単ベスト64、複準優勝、インカレ複ベスト16、インカレインドア複ベスト16⑩インカレ単複優勝⑪全てにおいて1番目指します。スクワット記録更新します!



李淑玲

3年

①イベント②東京都③堀越高校④1998年10月10日⑤10年⑥土屋哲史⑦食べ物巡り⑧千里の道も一歩から⑨新進単ベスト32⑩インカレ、王座優勝⑪フィジカル強くなります。



八幡まちこ

4年

①財務②青森県③聖愛高校④1997年6月26日⑤10年⑥両親⑦映画鑑賞⑧親切⑨春関単2次F⑩人として成長する⑪ラスト1年はより一層協力し合い良いチームになれる様頑張ります。



川村周子

3年

①副務・競技力向上②宮城県③聖和学園高校④1998年10月16日⑤15年⑥長久保大樹⑦料理⑧情熱⑨仙台市代表⑩東日本代表⑪美味しい牛タンを食べて育ちました。明るく元気にいつでもエネルギーに頑張ります!



崎村彩加

3年

①広報②兵庫県③慶風高校④1998年5月14日⑤10年⑥両親⑦映画鑑賞⑧人生一度きり⑨夏関2次F⑩テニスを楽しむ⑪兵庫県から来ました!関西人です!一緒に頑張らしましょう!



伊達芽依

4年

①広報・学生AD②愛知県③愛知啓成高校④1997年8月20日⑤15年⑥坂本真一さん、オードリー・ヘップバーン⑦洋画を観ること⑧置かれた場所で咲く⑨夏関複2次F⑩インカレ出場⑪忘れ物が多い最上級生です。破天荒さを武器に暴れたいと思います。お願いします。



松田美咲

3年

①競技力向上(オンコート)②埼玉県③浦和学院高校④1998年8月21日⑤15年⑥両親⑦ドラマ鑑賞⑧努力は必ず報われる⑨全日本選手権単ベスト4⑩世界ランキング500位に入る⑪たくさん食べてたくさん寝てパワフルに頑張ります!!



部員名簿

①役職②出身地③出身高校④生年月日⑤テニス歴⑥尊敬する人
⑦趣味⑧好きな言葉⑨主な戦績⑩目標⑪自己PR

高橋遥菜

2年

①管財・イベント②東京都③浦和学院高校④1999年10月16日⑤10年⑥両親⑦買い物をする事⑧万里一空⑨全国選抜高校団体3位、インハイ複ベスト16⑩インカレに出場する事⑪何事にも全力で取り組みます。笑顔で頑張ります!



中山麗未

1年

①スカウト②千葉県③東京学館浦安高校④2000年12月18日⑤13年⑥家族⑦好きな動画を見る⑧継続は力なり⑨全日本ジュニア複ベスト16、インハイ複ベスト16⑩インカレ出場⑪努力を惜しまず、ポジティブに頑張ります。



福室有那

2年

①スカウト②埼玉県③秀明英光高校④1999年12月23日⑤10年⑥鈴木貴男⑦食べ放題に行くこと⑧進取果敢⑨春関東2次F⑩関東学生になる。インカレに出る。⑪今年はポジティブに突っ走ります。



白谷美佳

1年

①競技力向上②宮崎県③折尾愛真高校④2000年6月15日⑤10年⑥大阪なおみ、松岡修造⑦絵を描く事⑧日々進化⑨インハイ出場⑩関東学生、インカレ出場⑪何事もポジティブに全力で取り組んで行きます。



伊藤さつき

1年

①涉外②愛知県③相生学院高校④2000年5月17日⑤13年⑥両親⑦音楽を聞くこと⑧自由⑨全日本ジュニア複優勝、インハイ単ベスト4⑩JTAランキング単複100位以内⑪自分に負けず、怪我無くこれから4年間頑張ります。



中島美夢

1年

①スカウト②大阪府③相生学院高校④2001年1月5日⑤9年⑥両親⑦音楽を聴くこと、お笑いを見ること⑧不動心⑨JOCジュニアオリンピック準優勝、全日本ジュニア複優勝⑩グランドスラムに出場すること⑪よく笑う関西人です!どんな時も最後まで諦めません!!



安井愛乃

1年

①広報②愛知県③愛知啓成高校④2000年10月29日⑤12年⑥両親⑦料理をする事⑧自分ならできる⑨インターハイ団体戦ベスト4⑩インカレ出場⑪明るく元気な性格です。どんな時でも笑顔忘れずに毎日一生懸命練習頑張ります。



矢崎梓紗

1年

①管財②埼玉県③山村学園高校④2000年11月21日⑤10年⑥両親⑦音楽聴くこと⑧努力は必ず報われる⑨全日本ジュニア単ベスト32、インハイ複3位⑩インカレで勝つこと⑪どんな事があっても、仲間と一緒に笑顔で元気に頑張ります。



亜細亜大学テニス部の寮 (男女別)

立川北(男子寮)

JR中央線 立川駅 徒歩約10分、自転車約5分

- キッチンコーナー IHコンロあり
- ランドリー 乾燥機あり
- 駐輪場あり
- 大浴場 18:30～翌日8:30
- プライベートシャワー 24時間利用可能
- トレーニングルーム

●門限 24:00

●食事

朝 6:30～8:30(土曜日は6:30～10:30)

夜 18:30～23:30(土曜日は18:30～22:00)

※朝夜共に、日曜日、祝祭日、第5土曜日は食事が出ない



高尾(女子寮)

JR中央線 高尾駅 徒歩約3分

- キッチンコーナー IHコンロあり
- ランドリー 乾燥機あり
- 駐輪場あり
- 大浴場 18:30～翌日9:30
- トレーニングルーム
- 学習室

●門限 24:00

●食事

朝 6:30～8:30(土曜日は6:30～10:30)

夜 18:30～23:30(土曜日は18:30～22:00)

※朝夜共に、日曜日、祝祭日、第5土曜日は食事が出ない



亜細亜大学テニス部・男子

都市創造学部
1年生

浅海裕一の1日(寮生)



6:00 起床

毎朝眠いですがおいしい寮のご飯が待っている所以目が覚めます。

9:00 学校到着&授業開始

フレッシュマンイングリッシュは先生と生徒のコミュニケーションアクティビティがあるためとても楽しいです。

10:40~12:10 授業(2限)

1時間30分という長い授業で終盤のこの時間では空腹と戦っています。

12:10~12:50 昼休み&昼食

やっと食べられる昼食は安くておいしいので沢山食べて午後の授業に備えます。

12:50~14:20 授業(3限)

昼食後なので眠気が襲ってきますが気持ちで耐え1時間30分の授業を自分のために頑張ります。

15:30 日の出キャンパス到着&練習準備

到着次第コートへの準備に取り掛かります。部室などの掃除もみんなで協力して行います。

16:15 部活動開始

毎日課題を持ち一つ一つの意味を考え試合で勝つために自分を追い込みます。

19:00 トレーニング

練習終盤になると体力的な面で追い込まれてきますが「まだまだ行ける!!」と自分に言い聞かせて最後まで頑張ります。

20:30 部活動終了

コートの後片付け、ボールの見回り。感謝の気持ちを込めて片付けます。

22:30 夕食

寮のおいしいご飯が1日の疲れを和らげてくれます。沢山食べて体を大きくします。

23:30 就寝

1日の全てが終わりその日の反省をしベッドに吸い込まれていくように就寝します。



亜細亜大学はコート面数が多く
スタッフにも恵まれており
テニスをするには最高の環境です。
四年間テニスに打ち込みたい人は
是非亜細亜大学テニス部へ。

経済学部
1年生

安井愛乃の1日



6:30 起床

朝眠いですが学校があるので準備をします。

9:30 学校到着&授業開始

フレッシュマンイングリッシュは週に五回あり外国人の先生の方と発音・会話の練習をします。とても楽しいです。

10:40~12:10 授業(2限)

経済学の授業は少し難しいですがしっかり先生の話を受けます。

12:10~12:50 昼休み&昼食

友達とご飯を食べて楽しい時間を過ごします。

12:50~14:20 授業(3限)

ご飯を食べた後なので少し眠くなりますが中国語の発音練習を沢山して眠気を覚めます。

15:30 日の出キャンパス到着&練習準備

コートでの準備をします。部員が気持ちよく使うためにも部室やユーティリティなどを掃除します。

16:10 部活動開始

試合で勝てるように一つ一つのメニューを集中して練習します。

19:00 トレーニング

最後までどのトレーニングも諦めず自分を追い込みます。

20:30 部活動終了

コートでの片付け、ミスの無いように同期たちと助け合って取り組みます。

22:00 夕食

自分でご飯を作り沢山食べます。

23:30 就寝

ベッドの上でストレッチをしいい夢を見るために布団に入り眠りにつきます。



亜細亜大学はコート面数も多くスタッフの人たちも様々なことを自分たちに熱心に教えてくれます。テニスだけでなく人間的にも大きく成長できる場であると思っています。是非亜細亜大学へ。

高校生のみんなへ

いっしょに テニス しようよ!

部員から
ひと言

ぜひ
亜細亜へ!!



ハイ、
チーズ!

いえーい!





目指すは「王座優勝」



最高のライバルと最高の仲間たち!!



学生は、 部活と授業の 両立を目指す。

面 白いもので、テニスの本当に強かった卒業生を顧みると、学業優秀とまではいかなくとも、単位をいつのまにか取っていた選手ばかりでした。岡田岳二、森稔詞、山崎史子、赤堀奈緒、宮地弘太郎、岡本聖子、駒田政史、佐藤博康、宮崎靖雄、宮崎優実など、多くの卒業生の中でも特にレギュラーでタイトルを獲った選手ほどその傾向は強く、目標が明確であり、そのため好き嫌いにかかわらず、何事においても判断と行動は積極的でした。

競技成績だけではなく、プロとして活躍できた選手以外にも、企業で活躍できる卒業生も含め、明確なことは「部活」と「授業」との両立ができることが、すべての成長に繋がっているということです。

成長する選手とそうでない選手の違いは、「必要なこと」と「好きなこと」の区別ができるかできないかです。「将来」に必要なことと「いま」に必要なことを明確に理解して行動できる選手こそ、成長する選手です。

部活ではまず、新1年生に対して、11月の入試後にオリエンテーションをし、12月までに「4年間」と「今年」の目標を16ページにわたる「自己発見ノート」に書かせることにしています。自分のテニスや将来を確認させ、自分を気づかせる第一歩です。次に年末の合宿に参加し、そこで「今の自分」と「今後の自分」に必要な体力、技術、精神力の確認を、私たちといっしょに行ないます。

そして2月～3月の2ヵ月合宿を通じて、1年間の準備を徹底的に行なうこととしています。肝心なのは“自己の選択”ですから、練習環境や指導者がどんなに指導しても、最終的に判断し、実行するのは学生本人です。流されず自分の将来を見据えて選択できたものが勝利をつかみます。

そのときに必ずといっていいほど“教養”が大切になります。テニスはミスのゲームであって、自分本位の試合は、レベルが上がれば上がるほど、相手との駆け引きの中で“無理”や“無駄”が通用しなくなります。効率性や確率が大きな勝利のウエイトを占めてきます。そこでミスをどのように修正するかの能力が試されるわけです。

部活と授業の両立ができない選手はバランスを失い、「相手を知ること」も「自分も知ること」も「テニスやゲーム状況を知ること」も、そしてそれらを「説明すること」もできず、修正を失い自滅していくことになります。

テニスは実に正直で、バランス感覚をもたない選手には勝利をプレゼントすることはありません。ですからテニスの競技力に、まさしく部活と教養はプラスに働くのです。文◎堀内昌一





文武両道



法学部 Law

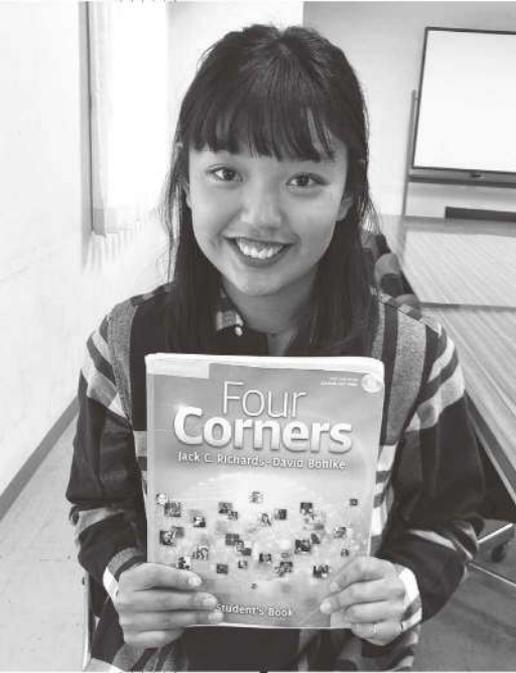
全学部生 ● 1,588人 男女比 ● 男1,217人(76.6%):女371人(23.3%)

福室有那(2年)の場合

「法学部での学び」

私は法学部では、2つの魅力的な事があると思います。1つ目は「多彩な選択肢の中から自分で選択することが出来る」です。法学部には、法律専門職、公務員、企業、現代法文科の4つのコースがあります。どのコースでも法律を学ぶ事ができ、その中で自分の興味があるものを専攻し、より深く学ぶことが出来ます。2つ目は「物事を論理的に考える力を育む」です。社会の基本的なルールとして日常生活に密接に関係するさまざまな法律について学び法解釈に求められる論理的思考力を養うこ

とが出来ます。法学部では1、2年で法学の基礎を学び、3年では基礎を活かして少人数でのゼミ形式で学ぶ事が出来ます。また、多種多様な問題の法的な解決手段を学びながら、幅広く法律の要素を身に付けることで問題解決能力を備えることも出来ます。法学部で学んだ法律の知識と物事を論理的に考える力は、将来どの様な職業に就いたとしても必ず役に立つと思います。



週間スケジュール

	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN
1限目	英語II	心とからだの健康学	憲法II	英語II	基礎演習	練習& トレーニング	練習& トレーニング
2限目	民法IV	英語II	英語II	民法IV	英語II		
3限目	憲法II	中国語初級II	法学	中国語初級IV	刑法I		
4限目	刑法I	練習& トレーニング	練習& トレーニング	練習& トレーニング	練習& トレーニング		
5限目							
16:00 ~ 20:20	オフ					フリー	フリー
20:30		解散	解散	解散	解散		

基礎学力が高まるカリキュラム

法学部では、全学生がキャリア開発教育を受けています。全学共通科目の「基礎数理」を必修科目とするほか、専門選択科目として「公務員教養」を配置し、各種就職試験に対応しています。

公務員試験にも対応した充実の科目群

各種資格取得のほか、公務員を目指す学生を重点的にサポートします。国家・地方公務員試験に対応する科目を配置するとともに、課外講座「公務員試験講座」との連携も図っています。

ゼミを中心とした少人数教育の展開

法律学・政治学の学び方を身につける1年次の「オリエンテーションゼミ」「基礎演習」、卒業研修を通じて学生が自立して専門的調査・分析を行う能力を育成する「演習」(専門ゼミ)など、少人数教育を展開します。「演習」では、卒業論文やプレゼンテーションなどの形式で、4年間の学習成果を形に残します。

公務員コース

行政事務、警察、消防士など、国家・地方の公務員試験を受験する学生のためのコースです。公務員試験科目を中心としながら、法的要素のある優れた公務員の養成をめざした科目編成になっています。

企業コース

企業に就職する学生を想定し、法律の基本科目に加え、企業の組織や企業に取引に関する専門科目を中心に、ビジネスに直結する法律科目を配置しています。

法律専門職コース

裁判官、検察官、弁護士、司法書士、行政書士などの専門家や法律関連の資格所得をめざす学生のためのコースです。実定法科目をしっかり学習します。

現代法文化法コース

現代社会の多種多様な問題に対して、法的なものの見方、考え方からアプローチできる能力の修得をめざします。亜細亜大学アメリカプログラム(AUAP)や中国の留学機構を活かすなど、より柔軟に履修科目を選択できます。

主な勤務先

積水ハウス/大日本塗料/LIXIL/中国電力/全日本空輸/東日本旅客鉄道(JR東日本)/ニトリ/みずほ銀行/ゆうちょ銀行/明治安田生命保険/大和証券/京王プラザホテル/東京地方検察庁/新宿区役所/警視庁/入国警備官

カリキュラム紹介

経済学部 Economics

全学部生 ● 1,181人 男女比 ● 男子929人(78.6%):女子252人(21.3%)

目黒志和(2年)の場合

「経済を学ぶ」

私の在籍している経済学部は、身近な家計の調査から世界的な経済問題の研究まで幅広く世の中の仕組みを学ぶことができる学部です。経済学部では、会計・税務・金融の専門家、国家・地方公務員、グローバル社会で活躍する人材など、将来の志望に合わせた理想的な履修を選択することができます。

人々の生活に必要なものを生産して流通させている経済活動を研究対象とし、その歴史や仕組み、法則性についての知識を深めることができます。1年次には経済学の基礎となる「入門経

済学」や「マクロ経済学」、「微观経済学」を主に学びます。マクロ経済学では国レベルでの景気動向や経済成長について研究し、微观経済学では個人消費や企業活動の分析をすることができます。2年次からは自分の関心に沿った専門科目や応用科目を学びます。また、3年次からは希望制でゼミナールに入ることができ、より特定の分野を少人数で教授と研究することができます。

経済学部は、日本の経済を学ぶだけでなく、世界の経済を学ぶことができ、グローバルな人間に成長することができる学部です。



週間スケジュール

	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN
1限目		公共経済学	英語Ⅶ	経済法			
2限目	日本経済論	英語Ⅵ	財政学	生理学Ⅱ	民法		
3限目	経済統計論	基礎会計学	日本思想史Ⅱ	経済学基礎英語	アジア経済史	練習&トレーニング	練習&トレーニング
4限目				英語Ⅳ			
5限目	練習&トレーニング	オフ	練習&トレーニング	練習&トレーニング	練習&トレーニング		
16:00 ~ 20:20						フリー	フリー
20:30	解散		解散	解散	解散		

特徴

基礎から応用まで体系的に学ぶ新カリキュラム

1年次から2年次前期まで「入門経済学」「微观経済学」「マクロ経済学」などで経済学の基礎をしっかりと身につけ、2年次後期からは自分の関心に沿った選択科目で発展的に学習。経済の深く広い知識を基礎から応用まで系統的に学びます。

将来の志望に合わせて豊富な専門科目から選択

会計・税務・金融の専門家、国家・地方公務員、グローバル社会で活躍する人材など、将来の志望に合わせた理想的な履修モデルを設定し、それに必要な専門科目を開講。進路に合わせた科目選択ができます。

少人数クラスで問題解決型人材へ成長

1・2年次には経済データに親しみながら分析ツールを学び、3・4年次には充実した演習や文献購読で深い専門性と多角的な見方を修得。少人数クラスより、現実社会への応用力のある、問題解決能力の高い人材を育成します。

現代経済コース

経済を深く理解できる社会人を目指します。経済学の基礎から応用まで幅広く学べます。

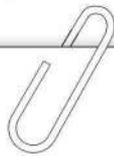
税務・会計インテンシブコース

経済と会計ができるビジネスパーソンを目指します。1年次からコースの基礎科目を学びます。

カリキュラム紹介

主な勤務先

みずほ銀行 / 三井住友銀行 / 住友信託銀行 / 積水ハウス / 住友林業 / 飛鳥建設 / TKC / ソフトバンク / ソニー・ミュージックエンタテインメント / 帝国ホテル / 富士通 / ワコール / ブルボン / 全業工業 / 国分 / セブン-イレブン・ジャパン / 東急ストア / ユニアドックス / みずほインターベース証券 / ワタベウェディング / 日本郵便



国際関係学部 International Relations

全学部生 ● 1,307人 男女比 ● 男445人(34.0%):女862人(65.9%)

伊達芽依(4年)の場合

「国際関係学部の魅力」

国際関係学部には2つの学科があります。1つは国際政治、国際法、国際経済などを中心に学ぶ、国際関係学科です。また、国際関係学科は、5ヶ月間の留学プログラムをもっており、実際に世界を体験することができます。2つ目は多文化コミュニケーション学科です。この学科では異文化交流、言語学、観光学、文化人類学を主に学びます。また、学部名にもあるように英語に加え韓国語、中国語、インドネシア語、ヒン

ディー語、アラビア語、スペイン語の中から1つを必修で学ぶことができます。また、国際関係学部では週に4回のフレッシュマンイングリッシュに加え、週に1日パソコンでイーラーニングの授業を行い英語の基礎から学び、一人一人のレベルに合った授業を受けることができます。国際関係学部は、他学部にはない経験がたくさん出来る学部です。英語や留学、異文化に興味がある方は国際関係学部をお勧めします。



週間スケジュール

	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN
1限目	スポーツの文化	社会思想史Ⅱ		地理学Ⅱ	英語Ⅱ		
2限目	日本思想史Ⅱ	基礎会計学	テーマ研究	英語Ⅱ	基礎ゼミ		
3限目	数学入門Ⅱ	中国文学Ⅱ	ヨーロッパの芸術と文化Ⅱ	国際関係法入門		練習&トレーニング	練習&トレーニング
4限目		中国語初級Ⅱ		国際英語入門Ⅱ	中国語初級Ⅳ		
5限目	練習&トレーニング		練習&トレーニング	練習&トレーニング	経済学概論		
16:00 ~ 20:20		オフ			練習&トレーニング	フリー	フリー
20:30	解散		解散	解散	解散		

外国語によるコミュニケーション能力の習得

英語の学習を基礎としつつ(TOEIC600点以上を目標)、韓国語、中国語、インドネシア語、ヒンディー語、アラビア語、スペイン語の中から1言語を地域言語として選択し、1年次から本格的に学びます。

フィールドワークによる現地体験型学習

国内外での現地調査(フィールドワーク)を通して、自分の感性で多文化に触れ、課題を葉発見する力を鍛えます。調査後の発表でプレゼンテーション能力の修得にも注力します。

社会人類学、社会学を柱とする多文化理解

アジア、アフリカ、中南米の文化から観光、宗教、多文化インターシップなど多彩なテーマの科目を用意。文化人類学、社会学を軸に、国際社会に役立つ幅広い教養が身につきます。

経済ビジネスコース

幅広い視野と判断力を身につけ、国際企業人や国際公務員など、世界で活躍できる人材になるために必要な知識を学びます。

平和政策コース

本コースでは、紛争解決や平和構築の問題を政治と法の側面から学ぶことで、海外で活躍するために必要な広い視野と深い洞察力をもった人材を育成します。

国際協力コース

開発途上国の経済発展や貧困、格差、感染症など開発問題と開発援助について、さまざまな角度から学びます。問題解決に必要な知識と、知識を現場で活用するための実践力を同時に養います。

カリキュラム紹介

主な勤務先

積水ハウス/ワコール/花王/資生堂/東芝/NHK/JR東日本/全日本空輸/ユニクロ/三井住友カード/ヒルトン東京/第一生命保険/セコム/外務省/警視庁/防衛省/ディスコ/ツツミ/明治安田生命保険/近畿日本ツーリスト/トランス・コスモス/日本郵便

経営学部 ホスピタリティ・マネジメント学科

全学部生 ● 570人 男女比 ● 男子132人(23.1%):女子438人(76.8%)

堀 匡毅^(4年)の場合

「経営学部とは」

経営学部には、私が所属する「経営学科」と「ホスピタリティマネジメント学科」の2つの学科があります。ホスピタリティマネジメント学科では、2016年4月より従来のクラブ領域を整備拡大しスポーツとホスピタリティを融合した「スポーツ・ホスピタリティ」コースを開設しました。ここでは「ホテル&プライダル」「フードサービス」「パッセンジャーサービス」「トラベル」「スポーツ・ホスピタリティ」という5つのコースについて、「理論実務融合型教育」

をベースに少人数によるゼミナール形式の演習を行います。マネジメントスキルとホスピタリティマインドを涵養し、未来のホスピタリティ業界、スポーツ業界をリードし得るような実践的職業人を養成していきます。

経営学部では、社会に出たときに活躍できるような人材と、海外でも活躍できるようなグローバル人材の育成を目指しています。ぜひ経営学部に入ってみてはいかがでしょうか。



週間スケジュール

	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN
1限目	総合英語Ⅶ		テーマ研究(テニス)	生理学Ⅱ			
2限目		表現とメディアⅡ	ホスピタリティ基礎演習	スポーツマネジメント論	ビジネスリテラシー		
3限目	数学入門Ⅱ	日本史Ⅱ	英書購読		総合英語Ⅵ	練習&トレーニング	練習&トレーニング
4限目				スポーツボランティア	西洋文学Ⅱ		
5限目	練習&トレーニング	オフ	練習&トレーニング	練習&トレーニング	練習&トレーニング		
16:00 ? 20:20						フリー	フリー
20:30	解散		解散	解散	解散		

ホスピタリティ・マネジメント学科の学び

平成28年4月、従来の「クラブ領域」をスポーツとホスピタリティを融合した「スポーツ・ホスピタリティ」として設備を拡充します。「ホテルビジネス&プライダルビジネス」「フードサービスビジネス」「パッセンジャーサービスビジネス」「トラベルビジネス」とともに、5つの分野について「理論実務融合型教育」を展開します。

少人数制によるゼミナール形式の授業を2年次から4年次まで継続して実施することで基本的なマネジメントスキルとホスピタリティマインドを涵養し、未来のホスピタリティ業界そしてスポーツ業界をリードし得るような人材を養成します。

特徴

ホスピタリティ・マネジメント学科

平成28年4月、従来の「クラブ領域」を、スポーツとホスピタリティを融合した「スポーツ・ホスピタリティ」として整備拡充しています。基本的なマネジメントスキルとホスピタリティマインドを学び、未来のホスピタリティ業界、そしてスポーツ業界をリードし得る人材を養成していきます。

カリキュラム紹介

主な勤務先

東急建設/東芝/パナソニック/タニタ/JR西日本/ユニクロ/みずほ銀行/三井住友銀行/日本郵便/警視庁/ワコール
みずほフィナンシャルグループ/三井住友銀行

経営学部 経営学科 Business

全学部生 ● 1,656人 男女比 ● 男子1,006人(60.7%):女子650人(39.2%)



高橋遥菜(2年)の場合

「将来の目標のために」

私が在籍している経営学部経営学科は1年次には経営学や簿記原理など基礎になることを学ぶことに加えて、レポートの作成に必要な技術を学んだりします。また、「インタビュー実践」という活動があり、自分が興味のある職業や企業などの話を聞いて、行動する力、聴く力、文章を書く力に加え、社会人としての基礎力も養うことができます。また、「基礎ゼミナール」では、企業や施設等の見学や実地調査などを行う「アクティブ・ラーニング」という活動もあります。このような活動を行うことによって、学生が

将来、役に立つためになにが必要でなにをしなければいけないかが明確になっていき、自分自身の役に立つと思います。2、3年次には、専門的な学問に入っていく、「ヒト」「モノ」「カネ」「情報」という4つの経営資源を管理するノウハウを学んでいきます。経営学部経営学科は企業の第一線で活躍する経営者から経営学を学ぶ「トップマネジメント特別講義」があります。実際、日本のトップの企業がどのような思考で政策を練っているのかなど直接聴くことができます。皆さんも是非、一緒に学びませんか。

週間スケジュール

	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN
1限目	英語Ⅱ	会計学	英語Ⅱ	英語Ⅱ	経営財務論	練習&トレーニング	練習&トレーニング
2限目	工業簿記	英語Ⅱ	会計学	経営組織論	英語Ⅱ		
3限目	基礎ゼミナール	中国語初級Ⅱ		中国語初級Ⅱ			
4限目	オフ	練習&トレーニング	企業と市場	練習&トレーニング	練習&トレーニング	フリー	フリー
5限目			練習&トレーニング				
16:00 ~ 20:20							
20:30		解散	解散	解散	解散		

特徴 ▶ 聴く力を養う「インタビュー実践!」

オリエンテーション・ゼミナールでは、産業界で活躍する企業人への「インタビュー実践!」を導入。就職意識を高めるとともに、大学でなにを学ぶべきかについて先人の知恵を学びます。1クラス約15人の小人数制のゼミナールです。

特徴 ▶ 行動力と主体性を養うアクティブ・ラーニング

基礎ゼミナールでは、約30のテーマの中から学生自身が興味あるテーマを選択し、自ら設定した課題について、実際に現場を訪れたり調査・分析を実施します。成果をプレゼンテーション形式で発表し、能動的に学ぶ姿勢が身につきます。

特徴 ▶ 就業力を養う実践プログラム

経営学科では企業経営に関する多様な理論を学習しますが、修得した知識を現実に活かすことを目的にトップマネジメント特別講義、インターンシップ、ビジネス体験プログラムといった体験型授業が設置されています。

カリキュラム紹介 ▶ 経営学科

「ヒト」「モノ」「カネ」「情報」という4つの経営資源を管理する。ノウハウを学ぶ。コミュニケーション能力や情報処理能力、数量的分析力といった幅広い教養と、企業経営に関わる専門的で実践的なマーケティング、経営戦略、会計、人材管理の知識を修得します。

主な勤務先

東急建設/東芝/パナソニック/タニタ/JR西日本/ユニクロ/みずほ銀行/三井住友銀行/日本郵便/警視庁/ワコール/みずほフィナンシャルグループ/三井住友銀行

全学部生 ● 471人 男女比 ● 男子288人(61.1%):女子183人(38.8%)

浅海裕一(1年)の場合

「都市創造学部とは」

私が在籍している都市創造学部とは、人々と企業・行政・地域をつないで、豊かな都市を創造するための学問を学ぶ学部です。

都市創造学部が目指しているのは、都市に活気と心地良さをもたらす未来の都市を計画し、実践できる人材の育成です。その為に、特徴的な学習をしています。

まず教職員の多くが、元々は企業で働いていました。その為、教科書だけでは学ぶことが出来ない、働く現場における実践的な知識を

教えてくれます。

また、IoTやビックデータの勉強など、これからの未来に必要な勉強をします。これらの知識を身につけることによって、未来都市のあるべき姿を考えるきっかけにもなります。さらには、これらの勉強を深めるために、フィールドワークによる都市の実態調査や留学とインターンシップもあります。

都市や社会のことを詳しく勉強したい方はすごく良い学部だと思います。



週間スケジュール

	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN
1限目		英語(F・E)II	都市ソリューション論	地理学I	英語(F・E)II		練習&トレーニング
2限目	英語(F・E)II	ベトナム語 初級	英語(F・E)II	英語(F・E)II	社会調査概論	都市プロデュース論	
3限目	都市社会学I	英語コミュニケーション		総合英語I	日本文学(近現代)		
4限目	オリエンテーションゼミ	オフ	日本史I	体育(テニス)	練習&トレーニング	練習&トレーニング	
5限目	練習&トレーニング		ベトナム語I			練習&トレーニング	フリー
16:00 ? 20:20				練習&トレーニング		練習&トレーニング	
20:30	解散		解散	解散	解散		

都市の未来を産業と社会から考える

都市創造学科では、産業と社会の観点で都市を考察し、都市の産業とそこに住む生活者の視点で社会のあり方を考えます。めざすのは、都市に活気と心地よさをもたらす未来都市のビジョンを打ち立て、実施する「都市創造人材」を育成。自治体などが公表するデータや都市に関するSNSの膨大な情報を活用し、最先端の知見を社会の全体像の中で理解するとともに、都市のニーズに合わせて活用する視点も養います。

特徴

フィールドワークを重視した双方向型学習

1年次のオリエンテーション・ゼミナールから4年次の卒業プロジェクト、卒業研究や社会調査実習まで双方向型学習を重視したアクティブ・ラーニング科目群が計画的に配置されています。必修科目の「フィールドワーク」では、渋谷や横浜などの街に出て、人々とコミュニケーションをしながら都市の実態を調査し、調査結果の発表も行います。

必修の海外&国内外でのインターンシップ

都市創造学科の留学は、単なる語学研修ではありません。アジア、アメリカなどの世界各国で英語+留学先の言語を学ぶと同時に、海外インターンシップで留学先の産業社会を体験するチャンスがあります。言語・文化の壁を自らの力で乗り越え、現地社会に飛び込むことで、留学先での異文化理解が深まります。

カリキュラム紹介

都市創造学科では、「シティ・サイエンス」を理解するために必要な経営学及び都市社会学領域を中心の科目を設置しています。

【学びのガイドライン】

■都市コンテンツ履修コース

文化、芸術、スポーツなどの多様なイベントから映像、音楽の制作、さらに店舗開発や商品企画まで都市の多彩なコンテンツづくりとその情報発信を担うプランナー、プロデューサーになるための実践的な知識を養います。ビックデータを活用した分析で都市の状況を把握し、企画や制作の現場を知り、人をまとめ、ビジネスとして成立させる「シティ・サイエンス」の新たな領域を開拓します。

■都市デザイン履修コース

優れた都市計画が街の競争力を高め、美しい都市景観が街の魅力を生み出し、都市デザインと一体化したビジネスが都市問題を解決します。このコースでは、そうした「都市を総合的にデザインする」ための多様な知識を学びます。特に「ビックデータの活用力」「スマートシティの構想力」など「シティ・サイエンス」の最先端の知識を実践的に学び、都市問題を解決していく人材に必要なスキルを養成します。

大学に入って、変わりました! こんなに変わりました!

CASE 1 松田美咲(3年)の場合

私が亜細亜大学に入学したのは、自分の夢を叶える為にととても良い環境だと思ったからです。テニスの技術はもちろんの事、試合で勝つ為に必要な事がたくさん学べると思いました。高校生までの私はテニスに対しての波が激しく、調子の良い悪いで考えてしまい、中々思う様に行きませんでした。このまま上を目指すのは難しい。大学に入って基礎からしっかりやり直したいと強く思い、環境が最適な亜細亜大学を選びました。

テニスコート、サッカーグラウンド、陸上トラック、トレーニングセンターがあり施設の整った環境の中練習やトレーニングが出来ます。又、スタッフの人数も多く、jop大会を始め海外でのITFの試合などの引率をして下さり、一人一人に的確なアドバイスをして頂けます。試合数を増やす事で試合が勝てる様にもなり、試合での反省を明確にする事で練習に生かす事が出来ます。整った施設、スタッフの多さ、試合数が増やせる。この点が亜細亜大学の良い所であり、技術力向上を目指すには最適だと感じます。

私は1年生の時に体調が悪く約半年間テニスが出来ませんでした。しかし、復帰してからは部員の仲間達に色々な場面で助けてもらったり、自主練習をしてもらったりして2年生の夏から少しずつ結果が出せました。大学に入るまでは誰にでも接戦になってしまったり、打ち過ぎてプレーも雑になる事が多かったのですが大学で考える事や、試合の戦い方を学んでいる事によって良かったと思える試合が増えました。個人としては満足出来る結果ではなかったのですが、団体戦では部員からたくさんのパワーをもらい部員みんなと戦え7年ぶりに王座に行く事が出来ました。チーム目標の王座優勝には後一步届かなかったのですが、王座の決勝の舞台で戦ったからこそ、来年は優勝するとチームみんなが改めて気持ちを引き締められました。今も全員が高い意識を持ち練習に取り組んでいます。

亜細亜大学ではきっと今出来なくて悩んでる事を出来る様にしてくれます。皆さんもこのチームと一緒に高め合い強くなりましょう! 亜細亜大学で待っています!!



長久保大樹
コーチ



から見た 松田美咲

2019年は復活の年となりました。約1年のブランクを経て、全日本選手権ベスト4・全日本学生及び全日本室内において準優勝という結果を残しました。この結果まさに彼女の努力のたまものだと思います。振り返れば素晴らしい1年となりました。

その反面、勝負所で勝ち切ることが出来ず悔しい思いをした1年でもあったと思います。「勝ち切る為には何が必要なのか…」その答えは簡単です。まだまだやらなくてはならない事が沢山あるという事です。しかし、その課題を1つひとつクリアして行く事により、彼女には明るい未来が待っていると確信しています。後ろを振り返る事なく、自分の目指すステージへ向かい2019年も勝負をし続けていく事を期待しています。立ち止まっている時間は無い。今年も戦います!

CASE 2 清水奎吾(3年)の場合

私が亜細亜大学に入学した理由は、高校時代は全国準優勝が多く全国で勝つことは出来ましたが、大学で全国の舞台に立ち勝つ喜びをもう一度味わい、数少なかった優勝を成し遂げたいと思ったからです。また、スタッフの方々のテニスに対する思いに魅了され、関東の亜細亜大学でやりたいと思いました。

亜細亜大学は、テニスコート10面、器具が充実しているトレーニングセンター、400mトラックが備わっています。自分自身の目標を達成出来るための環境が整っています。また、部員1人1人が強くなるためにどうすれば良いのか、ということを追求して日々の練習に取り組んでいます。練習で理解出来ないことがあれば仲間同士で指摘し合い、聞いたりもします。試合の後は練習をするなど良い習慣を作っていると思います。そして、常にスタッフの方々がテニスコートにいて練習を見られます。しかし、学生達はそのことを当たり前とは思わず考えることを疎かにしていません。まずは、自分自身で考えることを大切にそしてその上でスタッフの方々に助言してもらっています。

私は、1・2年生の春までは学生大会で3回本戦に上がったものの本戦で勝利を挙げる事が出来ませんでした。また、インカレにも出場することが出来ませんでした。リーグ戦でも1年次には勝利を挙げる事が出来ずに苦しい時期が続きました。その中で、持病を発症してしまい、テニスが出来ない時期がありました。そのような時期に、こんなに没頭してやっていることがあってもっと無我夢中にテニスのことを考えてやりたいと思いました。自分のテニスを変えていくべきであると思いました。もっと戦術の幅を広げて、粘り強いプレーをするということをやっけていかなければいけないと思うようになりました。2年次のリーグでは、体力が戻らない中でもダブルスでチームに少し貢献出来ました。

これから私は、やりたいテニスではなく勝てるテニス



をやっけていけるように日々の練習の中でスタッフの方々のアドバイスを受ける中でもしっかりと私自身の考えを持って取り組むことで勝てるテニスを作れると思うので頑張っていきたいです。

亜細亜大学硬式庭球部は、日々の練習のなかで仲間と高め合い、目標を目指すための環境が整っています。強くなることに長けている学校であると思います。強い亜細亜大学にするため、王座優勝を目指して私達とともに高め合えましょう。



宮崎靖雄
コーチ



から見た 清水奎吾

彼は勢いに乗ったら大学でもトップレベルの球威と攻撃の展開を持っているポテンシャルの高い選手です。大学テニスは、高校テニスよりも自分の強みに対応され、展開力も数段レベルが高いので、自分の弱みの底上げをする必要がありました。その課題に1年みっちり取り組み、テニスの強みと弱みのバランスが良くなってきました。これからはもっと努力をして、更に自分の長所の磨き込みを徹底し、大事な局面でも強みで勝負できるようになると学生テニスでも上位に入ってくるでしょう。

CASE 3 南文乃(4年)の場合

私が亜細亜大学を選んだ理由はテニスが上手くなるための環境が揃っているからです。私は高校3年生の時に初めて亜細亜大学の練習に参加させていただきました。亜細亜大学の練習は、1人1人練習メニューを出し合い、常に自分に何が足りないかということを考えながら進めていくものでした。

高校生の頃の私は、先生やコーチに言われたことだけを一生懸命に取り組むだけで自分のテニスに向き合ったり、今自分に足りないことを自分で考えそこから練習メニューを考えていくなど全くしたことがありませんでした。そのため、初めて練習に参加させてもらった時はとても新鮮でした。また、亜細亜大学には他の大学と比べて、ナイター設備のある10面のコートをはじめ、トレーニングセンター、陸上用のトラックまで設備されています。それに毎日熱心に指導してくれるスタッフがたくさんいます。大学に入ってからたくさんのスタッフの方々に自分のテニスに対しての意見をいただきました。その際、当然いろいろな意見が出てきました。はじめは、たくさんの意見を整理できずに戸惑うこともありましたが、その中で自分に必要なことを考え、理解したうえで吸収していくことがとても大切で、その区別が自分でできるようになった最近ではスタッフの意見に基づいたなかで自分のテニスの幅を広げていくことができてきたと思います。どこの大学よりも自分自身のテニスを追及するには、素晴らしい環境が整っていると思います。

他にも亜細亜大学では3月に亜細亜フューチャーズという国際大会を男女ともに開催しています。私は今年WC枠でシングルスは予選からダブルスは本戦から出場させていただきました。国際大会とは、ポイントを持っていないと出場することができず、日本で上位のプロや外国人選手も出場するとレベルの高い大会です。また、世界に踏み出すための一歩となる大会なのです。私は、そこで良い結果を残すことはできませんでしたが、実際に自分よりも上手い選手と試合をすることでたくさん得るものがありました。また、亜細亜フュー



チャーズでは運営を学生が行っているため、大会期間中はずっと近くで選手を見ることができます。試合以外での選手の行動からも学ぶべきことはたくさんあります。自分たちで運営をするということはとても大変なことですが、亜細亜大学だから経験できるとても貴重なものだと思います。

このように亜細亜大学では、自分のテニスと真正面から向き合い、今よりももっと高みを目指して頑張れる環境が揃っています。皆さんも亜細亜大学と一緒にテニスを突き詰めてみませんか?

長久保大樹
コーチ

南文乃

高校時代は主にダブルスで結果を残してきた選手です。2年連続で全日本選手権にも出場しました。

女子選手の中でも決して大きな選手ではありませんが、試合の流れをよむ力や相手が何をしようとしているかを察知する力があり、多くの試合を勝ち抜いてきました。大学での1年目は本人も納得するまでの結果を残す事は残念ながらできませんでした。彼女の最大の強みであるネット側での動きに磨きかける事で、これから間違いなく活躍をしてくれると思っています。今まで以上に向上心を持ち、何事にもトライして行ってくれることを期待しています。

CASE 4 工藤颯人(3年)の場合

私が亜細亜大学に入学し、硬式庭球部に入学した理由は、高校時代に掲げた全国大会優勝という目標を達成できず、その目標を大学で達成するには亜細亜大学しかないと思ったからです。

亜細亜大学硬式庭球部では、ナイター完備のテニスコート10面に加え、すぐ横には400mの陸上トラック、様々な筋肉を鍛えられる最新のマシンが揃ったトレーニングセンターなど、テニスが強くなる為に必要な設備が整っています。スタッフの方々も常に練習を見てください、自分達だけでは気付かないような細かい部分まで指導して頂くことができます。

個人でjopの大会に出場した際にもスタッフの方が会場まで足を運んでくださり、個々に合った細かいアドバイスを頂いたり、今後に向けてどのような練習をしていけばよいかなどを指導して頂けます。海外遠征に行く

際も帯同してくださり、私生活から練習、試合までサポートをしていただけます。学生大会だけでなく、jopや国際大会に挑戦していきたい人にとっても最高の環境です。亜細亜大学では、これだけ恵まれた環境が揃っていながらも、部員の各個人が課題を克服する為に部員同士で意見を出し合ったり、アドバイスをし合いながら練習しています。

私は1年次では、学生大会で一度も本戦に上がることができず、同期や先輩が本戦やインカレで活躍しているのを見ていただけでした。とても悔しかったです。これまで以上に努力をし、2年次の春関、夏関では本戦に上がることができました。インカレの予選にも出場することができましたが、全ての大会で1回戦を突破することができませんでした。しかし、また新たな課題が見つかり、その課題を克服し次の学生大会では上位に食い込めるよう、毎日練習やトレーニングに励んでいます。

亜細亜大学硬式庭球部は、自分の可能性に最大限チャレンジできる環境が揃っています。テニスはもちろん、人間力も成長し4年間で大きな飛躍ができます。私達と一緒に日本一、更に世界を目指して頑張りましょう。



森 稔詞
コーチ

▶▶▶
から見た



工藤颯人

入学当初からフォアハンドのコントロールが素晴らしく経験値もある選手。しかし、勝負処での積極性に欠けることで勝ちゲームを取りこぼすことがありました。しかし、ここ最近では自分自身を追い込み「心」を鍛えることで着実に自信をつけ、積極性も身につけつつあります。テニスに真摯に向き合うことで、人間性も変わりつつあり、今後がとても楽しみな選手です。

2003 Australian Open Review

亜細亜大学、メルボルンへ行く。

「大学に行ったら
世界に行けないなんて
言わせない」

2003年1月、賑わうオーストラリアン・オープンの会場内をウロウロする日本人学生のグループがいた。全国でもトップクラスを誇る亜細亜大学テニス部のメンバー6人。彼らは世界最高峰グランドスラムを「観る」という「意味」を持ってそこにいた。

文◎吉松忠弘 写真◎高野 徹
記事提供◎テニスマガジン(2003年5月号)

学校教育とクラブスポーツ、
大学テニスの共存

学校教育とスポーツは、それほど切り離さなくてはいけないものだろうか。昨今の論調は「地域に根ざすクラブスポーツ」を題目に、学校体育を批判し、「学校など」という形容詞で、短絡的にスポーツ強化のためには学校(日本的な記憶・暗記教育のことではあろう)は「害」として指摘する。

しかし、現実主義者から見ると、そう簡単にことは運ばない。落伍者は「失格」という価値観を共有したい大多数が、あと戻りできない社会を形成している以上、その中で「安定」や「慎重」を求めることは決して責められない(好き嫌いは別として)。

国際通とか海外志向の高い指導者や関係者はその現実を無視し、「もっと海外に」やら「学校なんか」と言う。ならば世界でも高水準にある約97%の高校進学率、約50%の大学進学率(平成15年度文部科学省の教育指標の国際比較から)は無意味なのだろうか。その率が減り、学校体育がなくなり、義務教育が終了すれば、スポーツにける人が増えることが得意の「文化の創造」ということだろうか。そして日本国民は本当にそれを望んでいるのだろうか。

壮大なテーマになり、それを解説することがこの本道ではないので割愛する

が、現時点で中等教育以上(義務教育以降をこう呼ぶ)の学校を無視はできない。クラブスポーツも裾野を広げることが重要であり、つまり共存するしか日本の将来は見えてこないだろう。

その中であってテニスも同じ悩みを抱える。特に究極の個人スポーツであるテニスは、若年層からの強化が重要視されており、それは学校教育となかなか相容れない。高校までなら18歳以下というジュニア枠に入り、まだ救いはあるだろう。しかし大学のテニスは、日本でもっとも忘れ去られた存在である。日本のテニスには、ジュニア、社会人、プロという構図しかないようにも思える。

ただ、この先、クラブスポーツや学校体育の共存を考えるなら、大学テニスは無視するわけにはいかない。そして大学テニス自身も、自ら動き出す必要がある。今年のオーストラリアン・オープンで、亜細亜大学テニス部がとった「観戦」という行動は、文字にしてみると他愛のないことだ。しかし、少なくとも共存への小さな一歩だったことだけは確かである。

選手とコーチに必要な
目標に対する逆算の理論

音頭取りは、OBで昨年(2002年)の4月からコーチに就任した森稔詞だった。森はグランドスラム本戦出場を経験して

いないが、予選には数回チャレンジしている。その自分より才能がありそうないまの大学生が、手をこまねているのが歯がゆかった。

「本気でチャレンジすればできないことはない。できないと決める方がおかしい。だったら行ってみよう。僕自身もいまのグランドスラムを見ていなかったから、学生全員にメールを出して、自費だけで行こうと誘った」

自費の有志なので遠征ではない。集まったのは、男子で昨年インカレ・ベスト4の宮崎靖雄、同ベスト8の比嘉明人、01年関東学生新進戦ベスト4の平良和己、女子で01年インカレ・ベスト4の北崎悦子の4人である。

しかし、この4人に森、堀内昌一総監督を加えた6人がオーストラリアン・オープンに来て、観戦して帰ったというだけなら、残ることは稀薄に違いない。

「驚き」や「感嘆」が彼らを揺さぶるに違いないが、それだけだ。時間が経てば、少なからずとも消滅する。まして20歳代は、精神よりも実体験だ。物理的な接触に優るモノはない。森は、その体験を学生たちにさせた。宮崎、北崎を予選出場に挑戦させ、宮崎は予選のサインアップまでたどり着いた。

「運営の人たちが、何でおまえなんて来ているんだって、冷たい視線なんですよ。このランキングでよくここまで来たなんて。あー、ここは実力世界なんだと、ランクを上げないとダメなんだと思いましたね」

宮崎の世界ランキングは11116位。もちろん出場には、通例なら箸にも棒にもかからない。しかし今年の予選は欠場者が続出し、出場者の最低ランキングは904位にまで下がった。チャンスは本当に目の前に転がっていたのである。しかし、そこに選手がいなければ出場できないのは自明の理だ。

北崎はエントリーをしていなかったため、予選のサインアップはできなかったが、予選初日にラッキールーザーのサインアップができた。

「初めは自分なんかサインアップしていいかって思ったんです。引き気味でした。でも、試合を見ていたら、何倍も努力しないとダメだけど、私でも何とかかなと。それに、ここに自分が立っていたらと思いつつ、試合を見ることができたのは大きかったです」

Melbourne



比嘉と平良は、先のふたりのような体験はできなかったが、会場で練習を決定する。もちろん厳密に言えば、選手でもない人間がコートを使用するのは違反だ。予選の最終日に、朝7時半から空いているコートを見つけて4人で練習をした。そのぐらいの厚かましさがなければ、世界のテニス界ではやっていけない。

「心構えからして、ここで戦っている選手は違う。勝つ意識や執念がすごい。技術とかいう以前の問題で、気持ちから入れ替えないと」

比嘉は話す。平良も同様だ。「僕と同じくらいの身長選手もいて、できないことはない。でも、彼らは勝たなきゃ食えないんだという意識がすごい。日本ではありえないですから」

彼らは帰国する前の日、念願だったセンターコートに初めて入り観戦した。「ここに立てるようにならないとダメなんです」

北崎は、こうつぶやいた。堀内監督はもっと早くこれを見ていたら、と少し悔やんだ。堀内監督は世界を知らないわけではない。テニスでアメリカの大学に留学し、また日本のジュニアの監督としてもウインブルドンに遠征したりしている。しかし大学の教員、監督という枠は多くのしがらみを生み、実質的に世界から遠ざかっていたことも確かだ。

「実際にそこにいないと逆算できないんです。カレッジに行ったら世界に行けないなんて言わせたくない。そのためには選手もコーチも逆算じゃないとダメなんです。関東学生取ったらインカレ。インカレ取ったら全日本というプラスじゃなくて、グランドスラムがあって、そこに行くにはインカレや全日本があるという逆算じゃないと。そのためには、グランドスラムを実感していないと言えないし、選手も実感できないんですよ」

わずか10日ほどの滞豪だった。しかし6人が感じ、肌で触った日々は誰にも教えられないことである。そして問題はここからなのだ。この10日間が実を結ばなければ何も意味はない。

杉山愛は、27歳にしてテニス人生最高の瞬間を、ティアⅡのステートファーム女子クラシックの単複優勝で飾った。遅いということはない。そして、それはステップを踏み出さなければ、いつまで経ってもやってこない。



堀内昌一 総監督

「僕が監督になったのは大学王座やインカレを最終目標にするためじゃない。大学は自分の力を伸ばすことが目標。そのためにはもう一回、自分がいろいろなことを見てみないとダメになる。原点に戻ってみるとそこには夢があったはず。だから選手にはカレッジに夢を持って来てほしい。その夢を与えるのが僕ら自身の挑戦でもある」

北崎悦子 (2年)

「雑誌とか見ている夢の舞台だったのが、実際に観て気持ちの面では変わりがなかった。グランドスラムは日本とテニスを盛り上げる環境が全然違う」

森 稔詞 コーチ

「大学3年のときにJOP大会で貯めたお金でオーストラリアとアメリカのサテライトに初めて行った。そのときに感じたことを同じいまの大学生に味わってもらいたいと思っている。頂点を見ていれば、この先リアルに映像として残るはずだから」

宮崎靖雄 (3年)

「(オーストラリアに来て)テニスに対する考え方が変わった。特に本村(剛一)さんに勝ったエスケデは、ショットは同じなのに体力や展開が違う。すごく印象的だった。みんな宿舎ではラケットに鉛を貼ったりして、“これで外国選手の重い球に負けないかな”などと言ったりしていた」

比嘉明人 (2年)

「ジャパンオープンくらいしか見たことがなくて、そのジャパンオープンでもすごいと思ったのに、こっちはそれ以上だった。もっと体とか強くないと戦えない」

平良和己 (2年)

「周りの雰囲気違って、観客もすごいし、圧倒された。選手たちのボールを打つタイミングも全然違うし、ミスで決まらない」



2018 Thailand ITF Expedition Report

タイITF 遠征レポート

Nonthaburi

- 遠征期間：一週目／男子 2018年11月 3日(土)～11月 5日(月)予選／2018年11月 5日(月)～11月10日(土)本戦
二週目／男子 2018年11月10日(土)～11月12日(月)予選／2018年11月12日(月)～11月17日(土)本戦
女子 2018年11月10日(土)～11月12日(月)予選／2018年11月12日(月)～11月17日(土)本戦
- 遠征先：タイ／Nonthaburi
- 出場大会：男子ITFフューチャーズ 賞金総額 \$15,000／女子ITFサーキット 賞金総額 \$15,000
- 参加学生：熊坂拓哉(法3)、高見澤岳飛(法3)、松田美咲(法3)
- 引率：森稔詞

今年、本大学の学生3名が森コーチの引率のもと、タイ遠征に行きました。参加したのはグランドスラムへの登竜門である、賞金総額\$15,000大会に出場し熊坂選手は2週間、松田選手は1週間滞在しました。これは我々が開催している国際大会と同じグレードのものです。海外遠征は何度か行っている松田選手と今回のタイ遠征が初めての海外遠征となる熊坂選手。高見澤選手は残念ながら試合に出場する事ができませんでした。遠征を通じて得たもの、感じたものを聞いてみました。

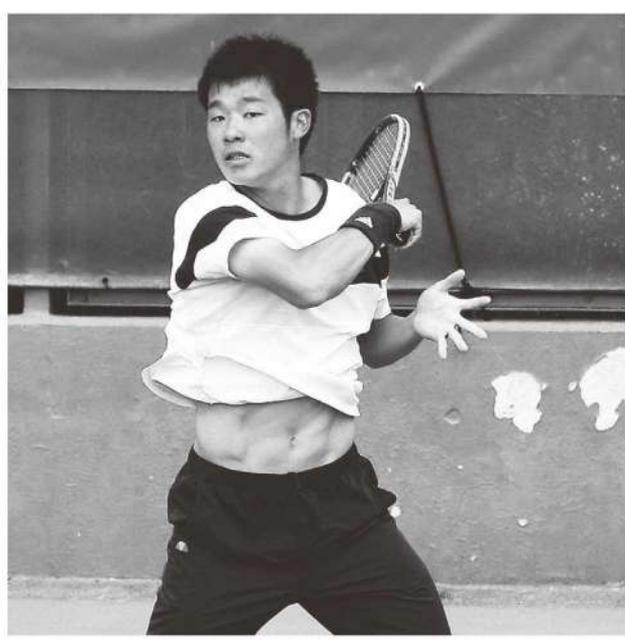
戦績

- 〈1週目〉熊坂拓哉選手 日程:男子予選11/3-5 本戦11/5-10
予選1R ○ 6-2.6-1 S.RYAN ZIEGANN(AUS)／SF ● 3-6.6-3.4-6 A.S.SHANMUGAM(IND)
熊坂拓哉選手 日程:男子予選11/10-12 本戦11/12-17
- 〈2週目〉予選1R ○ 6-1.6-1 N.NOIKOR(THA)／SF ● 4-6.6-2.6-7(5) W-D.LIN(TPE)
松田美咲選手 日程:女子予選11/10-12 本戦11/12-17
予選SF ○ 6-1.6-2 S.NIYOMSUB(THA)／F ○ 6-0.6-1 N.PIWBANGRUK(THA)
本戦1R ○ 6-2.7-5 R.UEDA(JPN)／2R ○ 4-6.6-0.7-5 C.JUNDAKATE(THA)
QF ○ 6-4.6-2 Z.KULAMBAYEVA(KAZ)／SF ○ 6-3.3-6.7-5 W.SAWATDEE(THA)
F ● 6-7(3).6-2.2-6 N.LUANGNAM(THA)





Report 1 熊坂拓哉 3年



私は亜細亜大学主催の亜細亜国際オープンテニス2018でATPポイントを獲得し、それを生かして海外の試合に挑戦しポイントを取ろうと思い、この大会に挑戦する事を決めました。

タイは30℃を超えていてボールもよく跳ねるコートだったので慣れない環境で対応するまで時間がかかりました。試合は1週目、2週目ともに予選SFでフルセットで負けてしまいました。

外国人選手との大きな差はなんといってもサーブでスピードや回転量など質は勿論ですが、大事な場面に入る精度が自分との大きな違いだと思いました。これから外国人選手に勝っていくためにサーブをもっと磨いていこうと思いました。また、戦術やその場面での気持ちの持ち方もこの遠征を通して学ぶことができました。

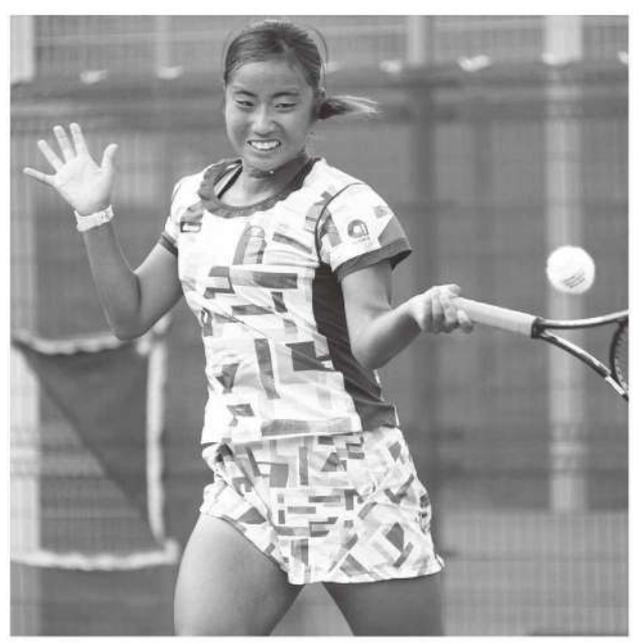
テニス面以外で学んだ事は英語を話せるようにならなければいけない事です。練習に外国人選手を誘う時や練習でやりたい事を伝える時にとても苦労したので英語を身につけしっかりとコミュニケーションをとっていきたいです。

引率して下さった森コーチを始めとした多くの方の支えがあり、日本では経験出来ない沢山の事を学ぶことができました。

今回の遠征で出た課題は明確にあるので感謝の気持ちを忘れずに一つずつクリアしていけるように日々の練習でベスト尽くして頑張っていきたいです。

10月の全日本選手権でベスト4に入る事が出来、自分の調子がとても良かった為、エントリーをしていなかったこの大会に出場する事を決めました。エントリーしていた選手が少なく、当日サインで予選に出場出来ました。高校2年生の時に一度行った事がある会場だった為、会場までは1人で行く事が出来ました。この大会の目標は優勝する事でした。全日本選手権ではハードコートで日本のトッププロの方々と対戦させて頂き戦い方を学べたので、今回のハードコートでの試合は自信を持って臨む事が出来ました。予選を順調に勝ち上がり、本戦ではつまづく場面も多くなりましたが、冷静さを保ちなんとか決勝まで行く事が出来ました。しかし決勝ではベテラン選手を相手に、自分のプレーを封じられ悔しい準優勝と言う結果になりました。今回引率して下さった森コーチと試合後の反省会を得て、自分には考えてプレーをする事や正しい選択をする事が出来ていないと指摘を受けました。ただアドバイスを頂いただけでなく、今後に繋げる為のヒントを沢山出して下さり、自分で考えると言う事を少しずつ理解出来ました。もっと上のレベルで戦って行く為には技術向上はもちろんの事、頭を使ってプレー出来る様に行きます。今回、いつもと違う負け方をする事で、新しい事が発見出来たのは引率して下さった森コーチを始めとする沢山のサポートがあってこそだと思います。二度と同じ敗戦をしない様に、感謝の気持ちを忘れずにこれからも夢に向かってこの亜細亜大学で日々向上していける様に頑張ります。

Report 2 松田美咲 3年



卒業生、それぞれの道

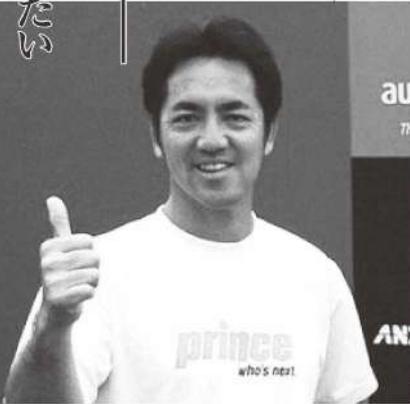
--- 指導者へ --- To a Leader

「自分を信じ続けること」
選手たちに伝えながら、
世界にチャレンジしていきたい

高田 充

(JTAナショナルチームナショナルコーチ)

監督に言われてきた



平成3年度卒業の我々は堀内監督が亜細亜大学に入り、強化を始めた最初の学生です。私は他の大学の推薦もいただいていたが、夢をもった監督のもと、そして同期の素晴らしい選手と亜細亜でいっしょに活動がしたいという強い思いで、堀内監督をお願いして受験させていただきました。

大学生活では、学業、テニス、部活動と充実した時間を過ごし、社会に出る前の準備をすることもできました。当時の衛藤学長からもテニスが強だけでなく、人間力を高めるという考えのもと、大学4年間教育を受けられたことは、現在の私にとって大きな財産となっています。

沖縄出身の私にとっては2、3月のセミナー春合宿はかなり寒く、たいへん厳しいものでした。夕方からの10kmランニングなどは、正直逃げ出したくなることもありましたが、それを乗り越えることにより自信をもつことができたのも事実です。

大学リーグの団体戦では7部で（ひとりだけ）敗戦するという屈辱も、そしてチーム全員で成し遂げる喜びも味わうこともできました。自分の夢、目標に「チャレンジ」することを常に掲げて活動し、高校時代に戦績のほとんど

ない私が、全日本選手権で優勝し、グランドスラムも経験できたことは、亜細亜大学で経験した4年間、そして堀内監督から言われてきた「自分を信じ続けること」ができたからだと確信しています。

高校生の皆さんには、自分の可能性を信じ、目標をもって努力を継続する——言葉でいうのは簡単ですが、それに向かって「チャレンジ」する4年間であってほしいと願っています。それを実現できる環境はここにあります。

私は現在、ナショナルコーチとして活動しています。ナショナル選手のツアーに帯同して、常に強化を図り、レベルアップすることを心がけています。

デビスカップでは29年ぶりにワールドグループ入りを果たし、世界ランキング100位以内に3名が入るという目標も達成しました。今後も堀内監督に言われてきた、「自分を信じ続けること」を選手たちに伝え、世界に「チャレンジ」していきたいと思っています。

たかだ・みつる◎1969年9月26日、沖縄県生まれ、亜細亜大学出身。朝日生命退社後、2000、02年全日本選手権複優勝。03年岩瀬聡プロのツアー同行、03～06年杉山愛プロのツアーに同行。03、04、07、08年とフエド杯日本代表チームのコーチ。11年からデビスカップコーチ、男子ナショナルチームの指導にあたる。(公財)JOCアシスタントナショナルコーチ、(公財)JTAナショナルチーム、ナショナルコーチ(男子担当)、S級エリートコーチ

私が亜細亜大学進学を決めたのは、堀内監督からの1本の電話でした。高校2年生の夏に父親を亡くした私は、その後、糸の切れた凧のように、自分がどこに向かっているのかさえ理解しておらず、正直、自分の将来について真剣に考えていませんでした。

ただ、「なんとなくテニスが好きだからテニス活動がしたい」と漠然な思いをもっていた私に対して、堀内監督の「テニスが強くなりたかったら亜細亜大学に来い」という電話越しからの情熱的な言葉。私に亜細亜大学入りを決意させるのに時間はかかりませんでした。

実際、大学に入学すると、同じ学年にいた多くのライバルたちといっしょに過ごす刺激は、私に大きなモチベーションを与えてくれました。今でもよく憶えているのが、合宿での朝から夕方まで練習をして疲れきったはずなのに、夕食後にナイターのフリー練習を欠かさず行っていたことや、部活が休みの日に学校の近くのコートをみんなで借りてお金を出してまで練習していたことです。

また、いま考えると当時嫌だった、先輩後輩の上下関係を経験したことは、その後の活動において、コミュニケーション能力や忍耐力とい

った、社会に出てからの重要な能力をつける修行期間であり、大きな財産となっています。

私は運よく大学4年のときに全日本選手権で複優勝（佐藤博康）という結果を出し、ミキプルーンに就職できました。ミキプルーンではプロのような活動を8年間送ることができました。その後はナショナルコーチとして日本代表選手の強化に携わり、10年目になります。

人生は“自分の決断”でどんなことでもできるとしています。しかし、多くの選択肢を自分だけでは探し出すことができません。もし、この文章を読んでくれた高校生、ならびに両親、コーチがおりましたら、亜細亜大学を選択肢のひとつに入れて、真剣に自分の人生を考えていただければと思います。

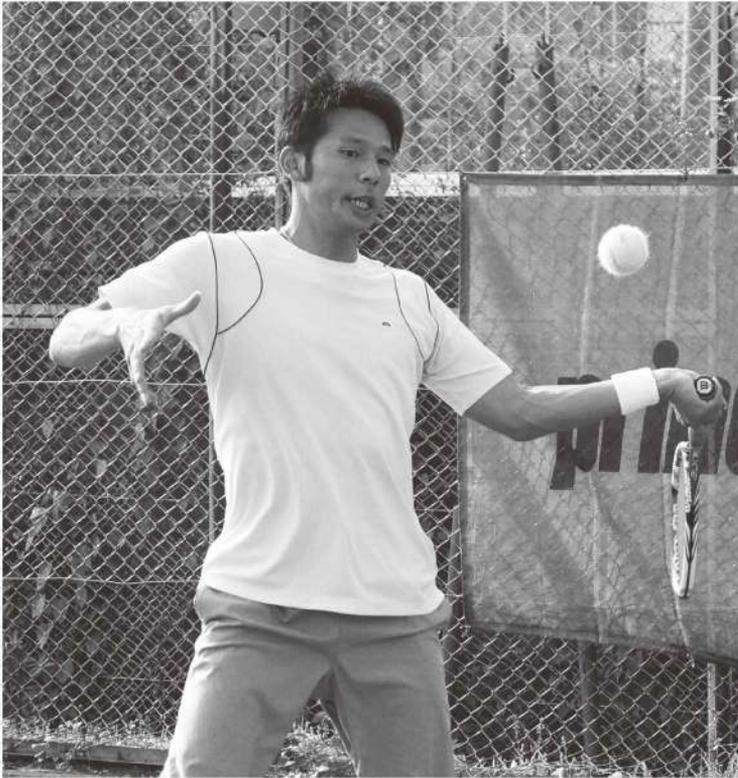
こまだ・まさふみ◎1973年3月30日生まれ。愛知県出身。名古屋卒。90年U18全日本ジュニア複優勝。91年亜細亜大学入学。94年大学王座優勝。全日本選手権複優勝。95年ミキプルーン就職。ミキプルーンで選手活動を8年間行ない、JOP(現JTA)最高単9位。その後はコーチへ転身。現在は竹内庭球研究所をベースに指導者の道を歩む。日本テニス協会ナショナルコーチ、16歳以下女子日本代表監督。S級エリートコーチ

駒田政史

(竹内庭球研究所)

自らの決断で選んだ亜細亜大学、
間違っていないませんでした





▶▶ 指導者&大学院へ

To a Leader & Graduate school

は監督の指導に救われていましてあります。指導者の言葉はときに人生を変える力をもちます。私は堀内監督の言葉をいまでも憶えています。

「どんなときでもさらに上のステージを目指せ」「自分に限界をつくるな」「何事にもチャレンジしろ」「テニスが強いだけでは意味がない」——これらの言葉は私の人間形成に大きく影響し、もはやそれは私の一部となりました。世間では『教育』に関するさまざまな問題がもちあがっています。私が考える教育問題において一番大事なことは、“尊敬できる教育者”に出会うことだと思います。私は、堀内監督は間違いなくそれに値する人だと思いますし、心から尊敬しています。

私は亜細亜大を卒業したあと、プロテニスプレーヤーとして活動し、世界を目指してきました。海外転戦する生活の中で、あるときプレーヤーとしての自分ではなく、別の自分がこんなことを考え始めたのです。「海外と日本のスポーツ観の違い」「スポーツ生活者のスポーツを享受する能力の違い」「スポーツの価値に対する認識の違い」「なぜ日本のスポーツは多くの国民にとって身近な存在となり得ていないのか」「スポーツをさらに多くの人に余暇のひとつとして気軽に、平等に行なわれるものとするにはどのような経営がなされるべきか」などです。そのような疑問がやがて好奇心へと変わり、研究することを始めました。いまは、これまでとは違う形でテニス界に貢献していきたい——そう思うようになり、『体育経営学研究』の道を歩んでいます。

現在は筑波大学大学院を卒業し、亜細亜大のコーチをしています。学生たちに対する技術指導はもちろんのこと、私がこれまで経験してきたことを彼らに伝え、活かしてもらえるように、それによってたくさんの可能性を秘めた社会人になってもらえるように日々指導にあたっています。

大学という場所は、社会人になる前の最後の教育の場です。現在、私が周りを見渡す限り、勉強とテニスの両面で、本気で取り組んでいる組織は数少ないと思っています。亜細亜大は、学生が本気でチャレンジできる場所です。この素晴らしい環境を活用して、有意義な学生時代を歩んでみたいと考えている高校生の入部を待っています。

みやざきやすお◎1981年8月29日生まれ。熊本県出身。熊本マリスト学園高校卒。98年全国選抜室内ジュニア選手権優勝。99年ウィンブルドンジュニア出場。全日本ジュニア複優勝。00年亜細亜大学に入学。02年全国学生室内単優勝、複準優勝。03、05年ユニバーシアード代表(05年トルコで複ベスト8)。JTA最高位単17位、複16位、ATP最高位単790位(05年)、複829位(05年)。04年に大学を卒業、プロ転向し選手活動を続ける。現在は特定非営利活動法人アジアスポーツクラブ理事兼社員・国立大学法人電気通信大学非常勤講師・慶應義塾大学環境情報学部非常勤講師を務めながら、亜細亜大で後進の指導にあたっている

宮崎靖雄
 「自分に限界をつくるな」
 監督の言葉は、いまでも私の一部となっています

（筑波大学大学院人間総合科学研究科博士前期課程体育学修了／
 特定非営利活動法人アジアスポーツクラブ理事兼社員／
 国立大学法人電気通信大学非常勤講師
 慶應義塾大学環境情報学部非常勤講師／
 亜細亜大学テニス部コーチ

私の亜細亜大との出会いは中学3年のとき。堀内監督が私の出身地である熊本に、テニスの指導に来てくれたことがきっかけでした。当時、熊本県テニス協会は私が高校3年のときに行なわれる予定だった『熊本国体』に向けて、強化を図っていました。その中で協会が亜細亜大に少年少女の競技力向上の要請をし、協力していただくこととなったのです。

当時の熊本県のテニスは“全国レベル”とは言い難く、当然、私自身のテニスも全国レベルではありませんでした。全国大会に出場するためのエントリー方法さえ知らないという状況です。そんな環境の中で育ってきて、堀内監督の指導を受けたのですから、見るもの聞くものすべてが新しく、「亜細亜大へ練習に行きたい」「堀内監督の指導を受けてうまくになりたい」と思うのに時間はかかりませんでした。

中学3年の冬に東京に行き、亜細亜大の合宿に参加。およそ2ヶ月弱、大学生と同じ練習をさせていただきました。当時の亜細亜大は男女とも全国1位でしたから、先輩方にとっては私の存在は迷惑だったと思います。しかし私にとっては毎日が刺激的で楽しく、そのときの光景は昨日のことのように思い出されます。

高校生になると、休みのたびに練習に参加させていただくようになり、一方で堀内監督が熊本に出向いてくださり、指導していただくこともありました。そのような状況が続く中で、堀内監督の熱意が私の視野を世界へと向けさせてくれました。

熊本国体が終わっても、私の心の中では「世界を目指したい。そのためには日本一の指導力を誇る亜細亜大に行きたい」という想いが募っていき、進学を決めたのです。

振り返れば、私の学生時代はテニスに没頭した日々でした。さまざまな成功もありましたが、たくさんの失敗もありました。そのようなとき



西岡靖雄

（ツアーコーチ）

出会いは必然
大事なものはそれに気づくこと

私は、亜細亜大学を卒業後、弟の西岡良仁をはじめ、様々なプロ選手のコーチング、ヒitting、サポートをしています。ですが、私もプロを目標にして生きてきました。現実には厳しく、結局、結果を出すことができずに私は夢を諦めました。今までは明確な目標があった人生でしたが、急にそれがなくなったことで、自分のことが全くわからなくなりました。自分は何がしたいのか、何ができるのか、何のために生きたいのかわからなくなっていたのです。そんな時、良仁が「一緒にツアーを戦わないか」と言ってくれました。そこで初めてツアーコーチとしての経験をすることとなったのです。私にとっての第一歩でした。そこで感じたことは、「自分から求めることが当たり前の世界」ということです。ツアーの現場では誰も与えてはくれませんが、だからこそ、自己アピールがMustな世界です。自分から行動しなければ、何も得ることができないということを知りました。同時に、とてつもないやりがいも感じました。プロ選手のコーチは、元プロ選手や有名な選手にしかできないといったイメージがあると思います。実際ツアーコーチとして、この年齢で活動している人はいないと思います。でも、私は敢えてそれにChallengeすることを決めました。そのきっかけとなった言葉が、There is no time like the

presentです。直訳すると、思い立ったが吉日という意味になります。今やろうとしていることは、私にしかできないことかもしれないと思い、気づいた時には走り出していました。それから、私はあらゆる現場を経験させてもらいました。必死に何かを成したい、学びたいといった姿勢は必ず誰かが見てくれています。私はたくさんの方々に手を差し伸べていただきました。格好悪くても、周りから批判されても、自分自身を信じることに誠実であることが、きっと誰かの心に響くと私は思っています。出会いは必然です。必要な時に必要な人と出会うようにできています。きっと それに気づくことが大事であり、難しいことだと思います。だからこそ、選んだ道を信じていくしかないのです。そしていつか、やってよかったと思える人生でありたいと思います。「今」を、そして「出会い」を大切にしてください。

にしおかやすお◎1993年10月8日生まれ。三重県出身。四日市工業高卒。12年亜細亜大学入学。16年に本大学を卒業後、ツアーコーチとして活動中。西岡良仁、澤柳瑠子のサポートをはじめ、プロ選手、ジュニアの強化、育成に関わる。グランドスラム、ツアー大会の帯同経験あり。17年4月より、スペインのバルセロナにあるテニスクラブ「Club Mollet」を拠点に、ヨーロッパ、クレールコートでのテニスを学ぶ。

長久保勇太

（浦和パークテニスクラブ）

亜細亜での4年間は
有意義な通過点となるでしょう

高校最後の年に初めてインターハイに出場し、それまで雲の上の存在と思っていた全国区の選手と互角に戦えた事が自分の自信になって、大学でもっと強くなりたい、もっと勝ち進みたいと思い亜細亜大学進学を決めました。

4年間を振り返ってみると、納得できるような戦績は出せず、自分が目標にしていたステージまで辿りつくことは出来ませんでした。結果を出せなかった事は今でも悔しく思います。卒業した今でもそう思えるのは、本気にさせて下さった環境がそこにあり、同じ目標や夢に向かって戦っていた同期や先輩後輩がいたからだと思います。

「全ては通過点だ。」という言葉は堀内監督の言葉です。最大の目標はグランドスラムで、そこまでの通過点にインカレがあり、大学王座があり、全日本選手権がある。途方もなく大き

な目標に聞こえますが、通過点をいくつも作る事で、それは夢から目標に変わっていく事を学ばせてもらえました。そして、なんと失敗しても諦めずに、これは通過点だから。と前を向く勇気をもらえました。時に自分の判断は正しいかと不安になる事があります。そんな時に思い出す事は「全ては通過点。」です。

大学進学を真剣に考えている皆さんも同じではないでしょうか。大学進学はあくまでも通過点で、その先の未来の為のプロセスです。もしテニスが好きなら、強くなりたいなら亜細亜大学での4年間は有意義で貴重な通過点になることは、間違いありません。

私は現在出身クラブに戻り、小・中学生を指導しています。目の前の結果で一喜一憂する選手たちに伝える事は、亜細亜大学で学ばせてもらった精神です。

最終目標が達成される日まで、選手と共に通過点を経由して大きな夢をかなえたいと思っています。

ながくぼ・ゆうた◎1987年11月5日生まれ。埼玉県出身。浦和学院高等学校卒。05年インターハイ出場。06年亜細亜大学入学。副将を務め10年に卒業。卒業後は出身クラブである浦和パークテニスクラブの育成ジュニアコーチとして06年から現在も活動中。08年からTPPTトレーニングスタジオのフィジカルトレーナーとしても活動している。





中村聡利
 (浦和学院高等学校)
 偏差値よりも個性値を
 大切にす大学で、
 「個」を磨くことができました

10歳でラケットを初めて握ってから現在までの26年間で、テニスを通じてさまざまなことを学んできました。「感謝をすること」「あきらめないこと」「勝つために最善を尽くすこと」「相手を尊重すること」「チームの一員として役割を果たすこと」など。そして何よりもかけがえのないことは、「テニスを通じて多くの人と出会い、国内に限らず海外の友人もでき自分の視野が広がったこと」です。そんな経験をする事ができた場所のひとつに、亜細亜大学があります。

当時は同世代のトップたちとともに、学生時代の大半をテニスコートで過ごしました。好きなテニスに夢中になり、その楽しさを感じ、ときに勝てない自分に悩み苦しんだりもしましたが、そんな日々と向き合いながら過ごせたのも「テニスが大好き」という思いと、堀内監督をはじめとした仲間が亜細亜という環境にいたからだと思います。

印象深いのは、日本一を決める大学王座決定試合に、4年次で挑んだ「王座奪回」。結果、優勝することはできませんでしたが、部員が同じ

方向を向き、本気で戦い抜いた準優勝には清々しいものを感じました。

現在は高校教師として教壇に立つと同時に、亜細亜で培った経験を生かし、テニス部顧問として務めています。私の指導の心得の中には、孔子の言葉「水は方円の器にしたがう」があります。これは「人は環境や交友関係によって善くも悪くも変わる」という意味です。お互いが信頼し、尊重し合える仲間をつくり上げることが、私たちにとっての「師」であり「テニス」なのだと思います。だから、指導者は自らを高め、その環境づくりにエネルギーを注がなければいけないと感じています。

最後に、これからの社会を生き抜くためには「個」が問われることでしょう。偏差値よりも個性値を大切にす大学で、自身も「個」を磨くことのできた亜細亜は、誇りのもてる私の母校です。亜細亜の門を突き破り、挑戦し続ける高校生の入学を期待します。私も生徒とともに、挑戦を続けています。

なかむら・あきとし◎1975年12月13日生まれ。山形県出身。日本大学山形高等学校卒。93年全日本Jr.18歳以下単ベスト32。94年亜細亜大学入学。97年インカレ複ベスト32。98年に卒業し、98～04年までJAMプランニングにテニスコーチとして務め、ジュニア育成に携わる。04年4月から学校法人明星学園浦和学院高等学校に教師として就任し、現在に至る

私が亜細亜大学に進学した理由は、テニスに本気で打ち込みたいと思ったことと、自分を大きく変えることのできる環境があると思ったからです。

学生時代は1、2年となかなか思うような結果が出せず苦しい思いをしましたが、3、4年になると試合経験と練習量が増加し、海外遠征(ポルトガル)によって自信が付き、インカレに出場して勝つことができました。なおかつレギュラーとしてリーグ戦に出場することもできました。また4年次には主将となり、同期の皆に支えられて乗り越えることができました。「責任」という大きなものを背負いながら日々を過ごせたことが、自分を成長させてくれたように思います。

私自身は高校まで、テニスクラブで練習をしていたので、大学からの部活生活は本当に新鮮でした。今までは自分でうまくなるとか強くなると思っていたのですが、部活でやることによってチームで強くなると思えるようになり、「協調する」ことの大切さを知りました。

現在、私は教師として、またテニス部顧問として活動しています。最初から教師を目指していたわけではありませんでしたが、教育実習を経験し、教師のたいへんさを知るとともに、人を変えることのできる仕事というところに非常



に魅力を感じました。自分が指導している子供たちが日々成長している姿を見たり、自分の伝えたことを実践して変わろうと努力している姿を見るとき、まさにやりがいを感じます。

高校生のみなさん、亜細亜には本気になれる環境があります。いつかは現役を退き、本気でコートを走り回ることもなくなります。しかし、そうなる前に大好きなテニスと納得いくまで本気で向き合い、本気で生きることを感じてください。最高の人生を送るためには最高のプロセスを送ること。そのためには日々何事にも全力で取り組むこと。頑張れ高校生!!

しんや・あきら◎1985年3月7日生まれ。大阪府出身。大阪産業大学附属高等学校卒。03年亜細亜大学入学。06年春季関東学生単&複ベスト32、インカレ単ベスト64、複ベスト32。07年に卒業し、現在は母校である大阪産業大学附属高等学校に社会科教員として務めるかわら、テニス部顧問としても活動している

新谷啓
 (大阪産業大学附属高等学校教師)
 本気になれる環境で、
 本気で生きることを感じてください

「得ることできない
チャンスがありません。」
（平成国際大学専任講師／テニス部監督）
森嶋修

こんにちは。2012年卒業の森嶋修です。私は大学卒業後、日本体育大学大学院へ進学しました。大学院ではコーチング学を専攻し研究を行い、大学院修了後は日体大にて研究員を2年間勤めさせていただきました。今年度(2017年度)からは埼玉県にある平成国際大学の講師として勤務させていただいています。平成国際大学では今年度から新たにテニス部が新設され、テニス部の監督として活動も始まったところです。



私の大学時代を振り返ると、1年生ではボーラー、2年生では審判、3,4年生ではベンチコーチとノンレギュラー街道を突っ走った私でしたが、それでも同じ志を持った仲間と毎日全力でテニスコートを走り回った日々は何にも替えがたい大切な時間です。

私は大学4年間でテニスが大好きになりました。テニスを学び、探究することの面白さはこの部活で学びましたし、テニスを通じて多くの仲間ができることをこの部活で知りました。大学卒業後もテニスに携わっていきたくらいのも部活での経験があったからだと思います。偶然にもご縁をいただき大学の指導者として活動していますが、テニスの魅力を伝え、テニスが大好きな学生を一人でも増やすことが私の務めであると感じています。

亜細亜大学テニス部には部員全員にチャンスがあり、取り組み方次第でいくらかでもチャンスをつかみ取ることができるのが特徴だと思います。テニスコートの面数やスタッフ陣、豊富な資料など充実した環境が整っており、部員全員の練習時間が平等に確保されています。向上心を忘れず、自分のなれる最高の自分を目指してテニス部での活動に励んで欲しいと思います。

もりしま・おさむ◎1989年4月29日生まれ。長野県出身。長野日本大学高校卒。08年亜細亜大学入学。2010,2011年亜細亜大学国際オープンテニスのメディアチーフを担当。2011年は副将を務める。12年に大学を卒業し、日本体育大学大学院へ進学。日本体育大学研究員を経て、17年4月から現職。

▶▶▶ 審判員へ — To an Umpire

毎年3月に行われる国際大会を、私は毎回楽しみにしていました。自分たちが普段ホームコートとして使っている場所にプロや外国人選手が集まり、静かな日の出の町で熱戦を繰り広げてくれます。緊張感のある雰囲気を選手として過ごすだけでなく、運営スタッフとして携われることに誇りを感じていました。

大学1年生のある日、大会の準備中に学生ADを務める先輩に呼ばれ、大会の主審をしてほしいと頼まれました。もちろん審判の経験と言っても大学や中体連、高体連の大会での人並みの経験しかありませんでしたが、面白そう!という興味本位でやってみることにしました。これが私の転機となりました。

大会当日はとても緊張し、プロ選手の打球を追うことに必死でした。それでも何試合かするうちに自分のジャッジやアナウンスで試合をコントロールできることに楽しくなり、試合を終えたときには達成感がありました。大会終了後にスーパーバイザーの方から、他の大会での勤務を誘っていただいたところから私の審判員としての活動が始まりました。それから勉強と部活動の両立に審判も加わりました。最後の国際大会運営では、今度は自分が学生ADをすることになりました。決して簡単ではありませんでしたが、選手目線で物を考え、運営側として

人や物を動かし、審判員目線で大会を見ることでより良い大会を作ることにも貢献できたことは、大会だけでなく私自身の成長にも繋がりました。

卒業後の進路を考える上で私がやりたいことは何かと考えたときに、審判員として得た知識や経験はやはり大きく、自分の可能性に挑戦したいと思えたのはこの仕事でした。これらは全て亜細亜でなければ得られなかったことだと思います。新しい自分に出逢わせていただいた亜細亜にはとても感謝しています。今後は2020年の東京オリンピックでの活躍を目標に頑張ります。また、審判員として母校に戻ることを楽しみにしています。

つじもと・ゆかり◎1994年11月27日生まれ。大阪府出身。園田学園中学校・高等学校卒。13年亜細亜大学入学。15年インカレ単64。在学中にJTA公認審判員資格を取得。現在は国際テニス連盟公認審判員として、ジュニアから一般、ベテラン、車イステニス、ビーチテニスなどの幅広い大会で活動中。



「テニス審判員（ITFホワイトバッジ資格）」
辻本有佳里
亜細亜のおかげで
今の自分があります

あきらめずに頑張れば
報われるというのを、
身をもって経験できました

(伊藤忠商事株式会社)

三上英知

私は一般入試で亜細亜大学に入ったので、入部当初は、自分のレベルが周りの同期、先輩とかけ離れており、やっていけるのか不安に感じたのを憶えています。それでも自分を信じ、とにかく、毎日必死にボールを追いかけていました。途中、ケガなどもありましたが、堀内監督を信じ、あきらめずに4年間頑張った結果、入学当初は想像もしなかった成績を取められ、本当に良い経験となりました。ありきたりですが、あきらめずに頑張れば報われるということをも身をもって経験できたことと、主将をやらせても

らい、人をまとめることの難しさを勉強させていただきました。両方の経験がいまの人生に生きています。

楽しかったことと言えば、何と言っても素晴らしい同期と出会え、いっしょに時間を共有できたことです。ほとんど兄弟のように365日いっしょにいました。反対につらかったことは、毎日でしたが(笑)、それくらい必死に練習していたと思います。やはり4年のときに部の運営をしていて、なかなか全員が同じ方向を向いてくれなかったときはつらかったです。でもそれもいまとなっては良い思い出です。

亜細亜大学テニス部は、素晴らしい練習環境の下、テニスの大幅なスキルアップが図れることは間違いなし、同時に人間力を磨ける本当に素晴らしいチームだと自負しています。ぜひ入部して自分を試してください。

みかみ・えいち◎1970年9月18日生まれ。静岡県出身。静岡聖光学院高校卒。89年亜細亜大学入学。91、92年春季関東学生複ベスト8、インカレ複ベスト32、91年全国日本学生選手権複出場、92年全国日本学生室内複出場。93年大学卒業後、伊藤忠商事株式会社、建設部門に配属。その後、食品流通部門へ異動しファミリーマート事業に携わる。06年より5年間中国広州市へ海外駐在。駐在中もテニスを通し日中交流を楽しむ。帰国後は、駐在の経験を生かし中国を担当



私は、中学生の頃テニスを始め、少しずつ技術が伸びていくことを実感できたことや、自分の考えた戦略が試合で上手くいった時がとて嬉しく、どんどんテニスの魅力に引き込まれていきました。そして、ここならもっと強くなれる！という気持ちから亜細亜大学に入学しました。

これは卒業生全員口を揃えると思いますが、亜細亜大学の良さは、10面のテニスコートやトレーニングセンター等、テニスを練習する環境が整っていることはもちろんですが、それだけでなく、社会人に必要なスキルを学ぶ機会が多いところにあります。

私は、テニスでは満足のいくような結果を出すことはできませんでしたが、4年次には主将と亜細亜大学主催のテニスの国際大会のアシスタントディレクターという大きな役職を務めさせて頂きました。主将として、自分が結果を出して後輩を引っ張っていきたいという気持ちは叶いませんでしたが、しっかりとその気持ちを受け止めながらサポート側の仕事に回り、無事に役職を終えた時にはネガティブな気持ちよりも、とても大きな達成感と充

実感の方が上回り、今ではやって良かった、チャレンジして良かったと胸を張って言うことができます。そして、この経験が社会人となった今でも大きく役立っています。

最後に、高校生の皆さんには、亜細亜大学で様々なことにチャレンジして貰いたいと思います。たとえ失敗したとしても監督やコーチ、先輩達が必ず手を差し伸べてくれますし、その経験が後の人生で苦しいことがあっても乗り切れるタフな精神力を生むので、是非充実した濃い4年間を過ごしてみてください！

どい・ゆうた◎1994年9月20日生まれ。東京都出身。獨協埼玉高等学校卒。13年亜細亜大学入学。主将、亜細亜フューチャーズ学生ADを務め17年に卒業。卒業後は、(株)三越伊勢丹に就職。

三越伊勢丹
土居祐太
チャレンジして
よかったです！



津布久萌

（株式会社リコー）

亜細亜大学での4年間のおかげで、
何の違和感もなく会社で働くことができました

ただただ、テニスに夢中でした。夢中というより『必死』という言葉の方が適切かもしれません。ナイター付きのコートに、トレーニングセンター、広い芝生が揃ったところやれる環境の中で、先輩の背中を見ながら、先生の知識を盗みながら、とにかくひたすらテニスに打ち込みました。

苦手だったサービスとフォアハンドは、フォームの改善から取り組み、走れる体をつくって、団体戦の醍醐味も味わうことができ、非常に充実した4年間だったと思います。しかし社会人6年目になったいま、「私にとっての4年間は何だったか」と自問自答したとき、やはり「社会に出るための準備期間」だったと即答すると思います。

学生時代は正直、やっていることに意味があるかないかなんて考えてもいませんでした。何か終える毎に書かされる報告書やレポート、電話をかける際のはじめの挨拶、メール作成の際の定型冒頭文、クリニックや国際大会の運営…社会人になって初めて、これらが全て組織の中で活動していくうえでの義務やマナーに繋がると知りました。

例えば営業職に就いた場合、活動日報の入力や、商談進捗の報告や共有は当たり前のことで、お客様への対応ひとつにしても、学生時代に身につけた習慣がそのまま現場で生かされました。

学生時代、「報・連・相」は必ずひとつ上の先輩にしなくてはならず、年次を飛ばしてはいけないことに疑問をもったりもしていましたが、企業の組織の中でリーダー→部長→事業部長と順を追っての「報・連・相」は基本です。また社内外問わず必要なコミュニケーション能力も



向上しました。

このように、亜細亜大学での4年間のおかげで、何の違和感もなく会社で働くことができました。ここにはテニスをする上での素晴らしい環境が整っています。それだけではなく、社会に出ていく準備ができる環境でもあるということをお伝えしたいと思い、筆をとらせていただきました。みなさんのこれからのご活躍を心よりお祈りしています。

つぶくもえ◎1985年1月24日生まれ。山口県出身。共栄学園高校卒。朝日生命久我山SC出身。01年全国ジュニア16歳以下単優勝。03年亜細亜大入学。06年大学王座準優勝、全日本学生室内複準優勝。大学卒業後、07年株式会社リコーに入社。10年全国実業リーグ3位。現在は引退し、社業に専念



03年、関東リーグで7度目のアベック優勝

卒業生の主な就職先

■就職状況

近年、学歴よりも人物重視の選考を多くの企業が取り入れてきています。

そこで就職状況を紹介するとともに亜細亜大学テニス部での活動がどのように就職に生きてくるかをお伝えしたいと思います。

★学歴重視よりも人物重視の採用

学歴＝大企業と思われる方も多いと思いますが、近年多くの企業が人物重視の採用を行っています。

これは本人が今までどのような学生生活を過ごしてきたが重要になるということです。

ではテニス部での活動がどう生きてくるのかをお伝えします。

POINT

- 国際テニス大会の運営(男女同開催)により実務力が向上
- クリニック(3時間受講生の方に監督、コーチ、学生でテニス指導)で接客能力向上
- 国際テニス大会の運営費(クリニック、スポンサー)の呼びかけ、集金など交渉力向上
- 派遣コーチで実践的なコーチスキルアップ(亜細亜大学と提携しているテニスクラブにアシスタントコーチとしてレッスンに加わる)
- 週6日の部活動(日々の活動の中で多くの体験をする事が出来る)による生活力向上
- その他、社会人として必要な幅広い能力が身につく

亜細亜大学テニス部◎主な就職先一覧

大正製薬／パイオニア／松下電工／NEC／パナソニック／豊田自動織機／朝日生命保険／大沢商会／セコム／伊藤忠商事／ゼネラル石油／ヤナセ／ワールド／東芝／島津製作所／NTT東京／日本舗道NIPPO／北日本物産／NTT北海道／福岡銀行／日本生命／平和堂貿易／東急百貨店／松下通信工業／大東銀行／アイシン精機／山陽新聞／ディスコ／野村証券／ヨネックス／みずほ銀行／レオパレス21／常磐薬品／ANA／プリンスホテル／警視庁／神奈川県警察／JR北海道／トヨタ自動車／ブリヂストンスポーツ／アメアスポーツジャパン／イカイ／KONAMI／JA山梨／明治安田生命保険／三井住友海上火災保険／アドヴァン／エムサービス／ウェスティンホテル／株式会社三越伊勢丹／ウインザーテニスショップ／九州電力／福島工業株式会社／株式会社リコー／東急住宅リース／留学(イギリス・ドイツ)／学校教員

OGインタビュー(株式会社シールズ関東)

「就職活動で役立った点」

楚南 美波

(平成30年度卒業 経済学部経済学科)

私が亜細亜大学テニス部の活動の中で就職活動に役立った事は、沢山ありますがその中から4つ厳選してお伝え致します。

一つ目は、考える力を身につける環境が整っているところです。高校時代までは監督の指示に従うことばかりで自分で考える事はあまりありませんでした。しかし、亜細亜大学テニス部のスタッフの方々は簡単に答えを教えてくれません。ヒントを与えて学生自身が考えて答えを出すように指導してくれます。そのおかげで、何事もまず自分なりに考えるという事から始まり、それを様々な視点から分析して答えを出すことで自己の確立に繋がり、就職活動の自己分析では分析の方法を知っていたのでスムーズに考える事ができました。

二つ目は、テニス界だけでなく一般の地域の人々との関わりも多々あります。亜細亜大学テニス部では月1～2回、テニス教室を開催しています。そこでは老若男女問わず、様々な方々とテニスを通して接することができます。この活動のおかげで観察力や対応力、コミュニケーション能力が高まりました。

三つ目は、他大学よりも役職が細かくあり、1年生から4年生まで一人一人に役割があることです。各個人に役割があることで組織の中の一員であり、その仕事を全うしなければならないという自覚と責任感が必要な環境があります。各部署から全体でのミーティングを重ね、全員で部を作り上げて行くことで、発言力、思考力、協調

性などが養われました。

四つ目は、読解力、文章力を身に付けられる環境が常にあるところです。近年、スマホがメインになりつつある為、紙に書くという事が少なくなってきました。しかし、亜細亜大学テニス部では試合の結果報告書の提出

や、読書をしてレポートを提出したりと、紙に書くというのが当たり前です。最初は大変ですが何度も繰り返す事で次第に慣れて行き、自然と読解力、文章力が身に付きました。

このように、分析力、対応力、発言力、思考力、コミュニケーション能力など他にも様々なワードが出てきましたが、このワードは就活をする上で大事なキーワードになってきます。今は自分の強みが無くても、分からなくても大丈夫です!亜細亜大学に入学すると様々な事を経験する機会があり、その中で沢山学び成長できます。是非、テニスは勿論、人間的にも成長できる亜細亜大学テニス部へ。



就職ガイダンス

卒業・就職までのスケジュール

1年 働く意味を知り、
なりたい自分を見つける

2年 自分の強み、興味、
関心を仕事に向ける

キャリアガイダンス

キャリア形成の取り組みをサポートする説明会で、ワークシートなどを用いてキャリアに関するレクチャーを実施します。

● キャリアフィールドワーク

「働くこと」をリアルに捉え、職業観をより明確にすることを目的としている。大学生版「社会見学」のようなもので、就職をより強く意識する絶好のチャンスです。

● 就職準備講座

夏季集中講座。就職活動の3大要素、「自己分析」「企業訪問」「模擬面接」を学びます。

● キャリア講演会

社会で活躍する著名人や卒業生を招いての講演会を行ない、学生時代に「何をすべきか」を知り、その後の「生き方」を考えていきます。

● 職業興味検査

進路の方向性を客観的に理解するための機会。「職業と自分」を考えていきます。

キャリア・就職支援プログラム

● 個人面談

「学生一人と徹底的に向き合い、同じ目線で将来を見つける」キャリアセンターは常に学生とひとつになり、各自の興味・関心や個性を見据え「進路」を模索します。

● グッドカンパニーフェア

2月、3月、5月に企業の人事担当者の方に来ていただき「学内企業説明会」が行われます。約200社を招き、業務内容などを細かく説明してもらえます。

● キャリアデザイン

なりたい自分への道を描くスキルを身につける。

● 卒業生との語り

亜細亜大学の卒業生をキャンパスに招き、就職活動体験や業界・企業に関する情報を教えもらうことができ、年齢が近く適切なアドバイスをもらうことができる。

● 業界研究セミナー

「業界」の概念を学び、志望企業をイメージする。日本を代表する企業約20社の人事担当者を招き、企業の動向や採用情報、求める人材像などを詳しく解説してもらいます。このセミナーをきっかけに進路を決定する学生も多数います。

資格取得支援および各種講座も多数あり

- ✓ 公務員試験講座 [1講座6コース]
- ✓ 民間企業就職試験講座 [1講座2コース]
- ✓ 資格取得講座 [10講座15コース]
- ✓ TOEICテスト対策講座 [1講座16コース]
- ✓ 語学会話講座 [3講座15コース]
- ✓ 福祉関係講座 [3講座6コース]

専門課程

① 教職課程 【社会科、英語科(国際関係学部のみ)】

中学校、高校の一種教員免許状の取得を目指します。取得できる教科は、高等学校の公民・商業・英語高等学校の商業は、経営学部経営学科のみ。中学校の社会・英語中学校・高等学校の英語は国際関係学部のみ。学校図書館に配置される司書教諭の資格も取得できます。幅広いプログラムで実力のある教員を養成しています。

② 図書館学課程

図書館法によって定められている図書館司書の資格を取得できます。同時に、情報システムを駆使できる専門職を育成します。

③ 社会教育主事課程

生涯学習の企画・立案を行なう専門職を目指します。本課程修了で社会主事の講習を履修したことになります。

亜細亜大学では、入学時から多彩なキャリア・就活支援プログラムを展開。
自分に合った職業に就けるように全学年を通し、個別面談を中心に細かなサポートを行なっています。

3年

自分の適正を見極め、
目指す業界、
職種を絞り込む

4年

就職活動本番!
自信を持って選考へ

就職支援ガイダンス

キャリア・就職支援に関するセミナーや目的別講座を実施します。3年次には介護体験、4年次には教育実習が行われます。

● 自分を知る

自己理解、自己分析、履歴書作成を支援します。

● 業界・企業を知る

「人事担当による模擬面接」に「ビジネスマナー講座」「文献情報入手講座」「内定者に聞く“就活の基礎”」「卒業生との語らい」「業界研究セミナー」などの実施。

● いざ就活!

「グッドカンパニーフェア」「学内企業説明会」「専任職員による個別面談」の実施。

Hop

Jump

インターンシップ体験

2、3年次の夏休みに「インターンシップ体験(就業体験)」に参加するのが一般的。1年次にも参加できます。

「教育実習に行ってきました」

四釜 泰知

(経営学部経営学科 社会科・公民科4年)

私は母校の山形県長井市立長井南中学校で3週間実習を行ってきました。この3週間の実習に臨むあたり、自分が本当に生徒に教えられるのか、生徒たちに受け入れて貰えるのか多くの不安がありました。しかし亜細亜大学で培った教職課程の知識、そして何よりもテニス部で培った人間力を自信に持ち向かいました。

実習が始まり、生徒達とのファーストコンタクト、良い印象を与えなければならないというプレッシャーからすごく緊張していました。しかし担任の先生の合図と共に教室に入ると「予想外!!」という叫びと共に笑いの渦のなかでの登場になりました。この「予想外」の意味は未だにわかりませんが、その笑いのおかげ私の緊張も解け少し砕けた自己紹介になり、すぐにクラスに打ち解けることが出来ました。そして1週目は自分が担当している1年2組の授業は勿論のこと、全学年の社会科の授業を見学し、各先生方の授業の特徴やクラスの雰囲気学びました。

2週目に入り教壇実習が始まりました。私が担当した範囲は社会の地理分野に世界の気候や文化についてです。地理の入り分野ということもあり、どのようにして生徒の興味を引き出すことが重要でした。そして何よりも私は多くの先生方の授業を参考にしながら自分しか出来ない記憶に残る授業をしたいと考えていました。知識等ではまだまだ未熟なためそれを補うためにこの山形県長井市から関東に出て経験したこと踏まえての授業を行いました。各地域の紹介にしる、自分が東京に来て実際に見た事柄等をピックアップし、またこのテニス部で培った「視覚化」というわかりやすく説明するための手段を取り入れ授業を行いました。緊張から早口になったり、板書が汚くなったり、時間管理が甘かったり、多くの反省は残りました。しかし生徒が「一生懸命でわかりやすく、何より楽しかった」と言ってくれた時には嬉しかったです。またこの3週間の中で自



分では当然のように行っている礼儀や話を聞く姿勢、取り組む姿を評価して頂きました。これはテニス部の4年間で培ったものです。それを先生方から評価して頂いたときは嬉しかったです。この3週間の実習で教師という仕事に対するやりがいや当時知らなかった多くの努力を知りました。ここで得た多くの経験、自信をこれからの私の人生に糧としていきたいと思えます。

私たち亜細亜大学が”国際大会”を開催するには意味がある

2019年国際大会開催レポート

レポート◎志賀隼(経済学部経済学科4年)

亜細亜大学国際オープンテニス 2019

男子 ●予選：3月4日(月) ●本戦：3月5日(火)～3月10日(日)
●開催場所：亜細亜大学日の出校地テニスコート
●賞金総額：\$15000

女子 ●予選：3月11日(月) ●本戦：3月12日(火)～3月17日(日)
●開催場所：亜細亜大学日の出校地テニスコート
●賞金総額：\$25000



はじめに

本学主催の国際大会は今年で男子が13回目、女子が8回目を迎えることができました。今年の男子大会は今井慎太郎選手(イカイ所属)が、女子大会ではダリア・ロパテスカ選手(ウクライナ)が優勝しました。

今年も多くの方々からのご支援、ご協力を得て無事に大会を終了することができました。本当にありがとうございました。

本年からITFのルール改正があり、本当に色々な事が変化していく中での開催・運営となりました。トーナメントの名前もフューチャーズ・サーキット大会からITFワールドツアー大会に名称の変更があり、選手が獲得するポイントにも変化がありました。女子の大会の賞金総額は\$1,5000から\$2,5000にグレードアップするなど様々な挑戦・変革の年になりました。

その中でも堀内先生を筆頭に日本テニス界の現状を調べデータにし、日本テニス協会にプレゼンテーションを行うな

どしてITFワールドツアー大会が日本テニス界にとっていかに重要で世界のトップで戦う選手を国内から輩出する為に必要不可欠であるという事を発信していった12ヶ月だったと思います。本年はクラウドファンディングにも挑戦し、約300,000円ものご支援を頂く事ができました。ご支援して下さいの皆様、本当にありがとうございます。

これも日本テニス界の将来を見据え、ITFワールドツアー大会の重要性を理解して頂けたからだだと思います。学生からの発信で拙い部分も多数あるとは思いますが、日本テニス界の現状や明るい未来に向けて何を行うべきかが少しでもみなさまに伝えられていたら幸いです。

また亜細亜大学はこのアジアを通じて、国内国際大会の重要性とこの亜細亜国際オープンの開催意義について、いくつかのデータと共に考察し述べたいと思います。

亜細亜大学国際オープンテニスの3本柱

亜細亜大学では国際大会を主催するにあたって3つの柱を掲げています。

①人間力向上 ②社会貢献 ③競技力向上です。

この3本を軸に学生は大会を企画・運営します。

人間力向上では、大学で学んでいる経済学・マーケティング・ホスピタリティ・語学などを現場で実践・検証します。協賛願いや大会へのアドバイスを頂く際に、社会人の方々と交流を持つ事で視野が広がり、またクラウドファンディングなど新しい事に挑戦できる機会を得て普段の学生生活では経験できない事を体感する事ができました。

テニス選手として私達はジュニアの頃から数多くの大会に選手として出場してきました。ですが今回のように運営に回り裏側から大会に関われる機会はそう多くないと思います。今まで何気なく出場していた大会も多くの方々の尽力があって成り立っていることに気付かせてくれます。当たり前が当たり前ではないと気付かせてくれる瞬間がここにはあります。

また、地域のイベントの一つとして決勝戦の日には日の出町長の橋本聖二様をお招きしてスピーチを頂いております。今年からは日の出町観光協会とも連携を取って大会期間中に屋台を出してもらう事ができました。大会期間後の日の出町

桜祭りにアシスタントを派遣するなどして、相互に助け合う関係を築けています。

また、大会を開催するにあたりJr大会の主催・チャリティークリニックを開催してテニスの普及・スポーツの普及にも尽力しています。今後も今まで以上に社会に貢献していけるよう活動していきたいと考えています。

競技力向上では大会に出場する事がまず大きな成長の機会です。学生はポイントを所持していないので、国際大会に出場する事が難しいです。本当に一握りの選手のみしか試合に出場できないのが現状です。その中で主催者推薦枠を使ってでも学生が大会に出場できる事は本当に貴重な経験であり成長のチャンスに繋がります。世界を転戦するプロ選手と同じコートに立ち試合をする事で、選手として出場した学生は世界とのリアルな距離感が実感できます。試合に出ない学生も、普段練習を共にしている仲間がいつものコートでプロ選手と試合をしているものを観戦し、間接的にですが世界との距離感を計る事ができます。普段はテニス部という枠の中で練習・試合をしますが、その枠から飛び出し世界の広さを見る事は、今後のテニス選手としてのコンパスを明確にするいい機会です。

国際大会の現状

現在世界では年間に何大会が開催されているのでしょうか。まずはそこから見ていきたいと思います。

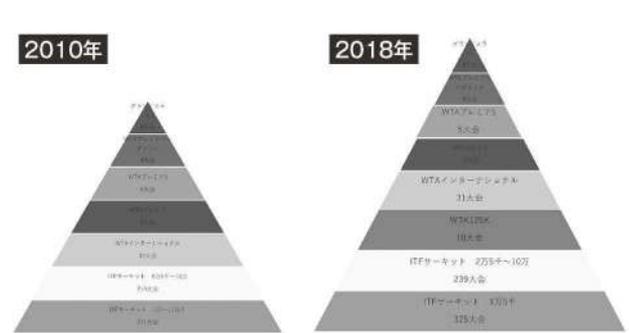
図1をご覧ください。ITFサイトによると2018年には全世界中でフューチャーズは605大会、サーキットが564大会開催されています。世界の国際大会は増加傾向にあり2010年の大会数に比べて男女共に約100大会の増加を見せています。

それに比べて日本の国際大会数はどうなっているのでしょうか。

図2をご覧ください。ITFによると2018年に日本はフューチャーズ8大会、サーキット16大会が国内で開催されています。2010年のフューチャーズ10大会、サーキット21大会と比べると男子が2大会、女子が5大会減少しているのが分かります。

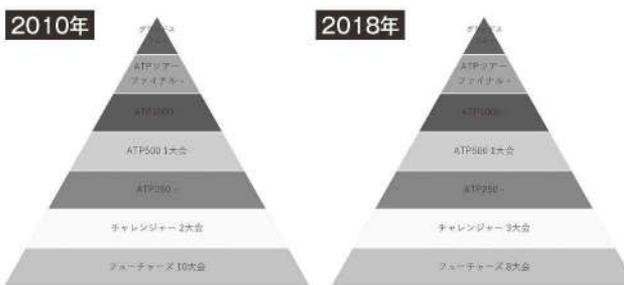


世界の男子国際大会数の推移



世界の女子国際大会数の推移

図1



日本の男子国際大会数の推移



日本の女子国際大会数の推移

図2

大会数が減少すると選手の獲得するポイントに大きな影響があります。これは大会のグレードにも大きく影響されますが、仮に男子が\$15,000の大会が二つ減少したと仮定すると合計で112ポイントを獲得する機会が失われた事になります。

(図3参照)

同様に女子は\$25,000の大会が5つ減少したと仮定すると、合計で1040ポイントを獲得する機会を失った事となります。

(図4参照)

もちろん出場した選手の勝ち進みによってポイントは変わりますが、この大きなポイントを獲得するチャンスすらも無くなってしまっているのが現状であり、ここを改善する事が日本テニス界の明るい希望に繋がっていくのではないかと考えています。

Circuit	Prize Money	総獲得ポイント数	優勝	準優勝	セミファイナル	ベスト8	R16	R32
ITF	\$25,000+H	99ポイント	35	20	10	4	1	0
ITF	\$25,000	78ポイント	27	15	8	3	1	0
ITF	\$15,000	56ポイント	18	10	6	2	1	0
ポイント獲得人数			1名	1名	2名	4名	8名	0名

大会名	開催地	部類	グレード	総獲得ポイント数
Nishi-Tama	JPN	Futures	\$15,000	56ポイント
Nishi-Tokyo	JPN	Futures	\$15,000	56ポイント
Kofu	JPN	Futures	\$15,000	56ポイント
Tsukuba	JPN	Futures	\$15,000	56ポイント
Kashiwa	JPN	Futures	\$15,000	56ポイント
Karuizawa	JPN	Futures	\$25,000	78ポイント
Tokyo	JPN	Futures	\$15,000	56ポイント
Akishima	JPN	Futures	\$15,000	56ポイント

計 400ポイント

男子フューチャーズ大会
ブレイクダウン表と
獲得ポイント総数

図3

Circuit	Prize Money	Winner	Finalist	Semifinal	Quarterfinal	R16	R32	Qualifier	Q3	Q2	Q1
ITF	\$100,000+H	150	90	55	28	14	1	6	4	1	0
ITF	\$100,000	140	85	50	25	13	1	6	4	1	0
ITF	\$80,000+H	130	80	48	24	12	1	5	3	1	0
ITF	\$80,000	115	70	42	21	10	1	5	3	1	0
ITF	\$60,000+H	100	60	36	18	9	1	5	3	1	0
ITF	\$60,000	80	48	29	15	8	1	5	3	1	0
ITF	\$25,000+H	80	36	22	11	6	1	2	0	0	0
ITF	\$25,000	50	30	18	9	5	1	1	0	0	0
ITF	\$15,000+H	25	15	9	5	1	0	0	0	0	0
ITF	\$15,000	12	7	4	2	1	0	0	0	0	0
ポイント獲得人数		1名	1名	2名	4名	8名	16名	大会による	大会による	大会による	大会による

女子ITFサーキット
ブレイクダウン表と
獲得ポイント総数

図4

国内国際大会の開催意義

次に国際大会を国内で開催する意義についていくつかのデータを参照しながら考察させていただきます。

図12のデータは外国人選手・日本人選手の、プロ転向後から現在に至るまでのランキング推移をまとめグラフにしたものです。この図から考察できることはトップ選手になる為にはプロ転向後2~4年以内に世界ランキング300位以内にいる事が条件になっているという事です。

もちろんその上にもトップ100やトップ30といった関門が待ち受けていますが、まずはプロ転向後2~3年以内に300位以内にランクインする事が、世界のトップで活躍する選手になる為の最初の課題と捉えています。そしてこの関門をなるべく若いうちに突破する事で、身体的にベストな状態で世界のトップに向けての良いスタートがされるのではないのでしょうか。

次に図13をご覧ください。似たようなデータですがこれはトップ選手のランキング推移を年齢毎にまとめデータにしたものです。

このデータからは、外国人選手に比べ日本人選手の方が国際大

主な男子トップ選手のランキング推移(キャリア毎)

選手名	国籍	プロ転向年	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
ニコラ・皮エアン	ITA	1988	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

※ITFサイトより

選手名	国籍	プロ転向年	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
ニコラ・皮エアン	ITA	1988	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

主な女子トップ選手のランキング推移(キャリア毎)

図12

日本と世界の比較

ここで日本と世界の大会数の現状をまとめたデータから考察して行きたいと思います。

上記にもあるように日本国内では年間8大会しか下部大会が開催されていません。その為に出場できる選手数は少なく登竜門であるべき下部大会にですら挑戦できないという選手が数多く存在します。また海外と比較した際に最も重要な観点は”ポイントの総数”です。プロ選手は複数の大会に出場しそこでポイントを積み上げランキングを上げていきます。ですが出場できる大会が少ないとその時点で沢山の試合に出場している選手に劣ってしまいます。もちろん協会がルールを定めているので人より多く大会に出場すれば良いというものではありません。ですがポイントは”相対地”ではなく”絶対値”です。

もし、100ポイントを所有している選手(Aさん・Bさん)がいたと仮定します。Aさんは1大会優勝での100ポイント。Bさんは8大会出場で100ポイントだとします。もちろん実力が上なのはAさんですが、ランキングは一緒です。Aさんのレベルで8大会に出場できればグランドスラムに出場できるかもしれません。ですが、国内に大会がなくAさんは実力があるにも関わらずグランドスラムに挑戦することはできません。代わりに実力は劣っていましたが大会を経験することで成長したBさんはグランドスラムに挑戦する事ができ、その経験を活かしトップシードになるまで成長しました。

この仮定の話は上手くいきすぎていますが、実際に日本のジュニア世代のレベルは他国に比べても劣っていません。その証拠に大阪で行われる、世界スーパージュニアテニス選手権大会では日本人選手が勝ち残り、優勝する事が多くあります。ジュニアのレベルは他国に引けを取らないのに、日本からトッププロが育ていかない理由の一つは国際大会の数の少なさにあると考えられます。

日本国内の下部大会で獲得される総ポイント数は400ポイントです。この400ポイントがそれぞれの選手の結果に応じて分配さ

会に出場する年齢が遅い事が分かります。これは重大な問題だと私たちは受け止めています。

グラフで見ると遅れているといっても2~3年の話で数値的に大きい数字かと言うと、そうではありません。ですが実際にその年代のテニス選手になった事を考えてみると、これは数字以上の意味のある課題に急変します。

15歳という若さでプロの世界に足を踏み入れ、厳しい環境で揉まれながら、大人のプロ選手との実力差を自ら体感し成長してきた選手と、同じ15歳にして同じテニスという競技をしているのに身近に国際大会がないが為に、狭いテニス観の中で成長していく選手がいます。どちらの選手が活躍できるかと言われれば、迷いなく前者です。

ですが、後者の周りに国際大会が数多くあり挑戦の機会が等しく与えられていた場合、どちらにもトップで活躍するチャンスはあるのではないかと思います。

この問題を解決する鍵が特に下部大会の増設にあると私たちは考えています。

主な男子トップ選手のランキング推移(年齢毎)

選手名	国籍	プロ転向年	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
ニコラ・皮エアン	ITA	1988	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

※ITFサイトより

選手名	国籍	プロ転向年	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
ニコラ・皮エアン	ITA	1988	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

主な女子トップ選手のランキング推移(年齢毎)

図13

れランキングに反映されていきます。(図14参照)

では海外ではどのような規模で大会が開催されているのでしょうか。今回はスペインの大会数とポイントの総数を確認し比較して行きたいと思います。

スペインでは33大会もの大会が開催されていて、獲得されるポイントの総数は2144ポイントです。日本のポイント数に比べ約5倍のポイント数が獲得されていることが分かります。この環境の違いがベースにある中で、日本人選手はグランドスラムに向けて世界中のライバル達とランキングを競い合っていかなければなりません。この状況がいかに選手にとって不利で、改善すべき問題であるかが分かって頂けたかと思います。(図15参照)

Circuit	Prize Money	総獲得ポイント数	優勝	準優勝	セーフティポイント	ポイント数	長所	短所
ITF	\$25,000~*	60ポイント	30	20	10	4	1	0
ITF	\$35,000	80ポイント	40	25	15	5	1	0
ITF	\$15,000	30ポイント	15	10	5	2	1	0
ポイント総数		156	156	104	46	16	16	16

大会名	開催地	開催	賞金	獲得ポイント数
Spain 1	Spain	Future	\$15,000	30ポイント
Spain 2	Spain	Future	\$15,000	30ポイント
Spain 3	Spain	Future	\$15,000	30ポイント
Spain 4	Spain	Future	\$15,000	30ポイント
Spain 5	Spain	Future	\$15,000	30ポイント
Spain 6	Spain	Future	\$15,000	30ポイント
Spain 7	Spain	Future	\$15,000	30ポイント
Spain 8	Spain	Future	\$15,000	30ポイント
Spain 9	Spain	Future	\$15,000	30ポイント
Spain 10	Spain	Future	\$15,000	30ポイント
Spain 11	Spain	Future	\$15,000	30ポイント
Spain 12	Spain	Future	\$15,000	30ポイント
Spain 13	Spain	Future	\$15,000	30ポイント
Spain 14	Spain	Future	\$15,000	30ポイント
Spain 15	Spain	Future	\$15,000	30ポイント
Spain 16	Spain	Future	\$15,000	30ポイント
Spain 17	Spain	Future	\$15,000	30ポイント
Spain 18	Spain	Future	\$15,000	30ポイント
Spain 19	Spain	Future	\$15,000	30ポイント
Spain 20	Spain	Future	\$15,000	30ポイント
Spain 21	Spain	Future	\$15,000	30ポイント
Spain 22	Spain	Future	\$15,000	30ポイント
Spain 23	Spain	Future	\$15,000	30ポイント
Spain 24	Spain	Future	\$15,000	30ポイント
Spain 25	Spain	Future	\$15,000	30ポイント
Spain 26	Spain	Future	\$15,000	30ポイント
Spain 27	Spain	Future	\$15,000	30ポイント
Spain 28	Spain	Future	\$15,000	30ポイント
Spain 29	Spain	Future	\$15,000	30ポイント
Spain 30	Spain	Future	\$15,000	30ポイント
Spain 31	Spain	Future	\$15,000	30ポイント
Spain 32	Spain	Future	\$15,000	30ポイント
Spain 33	Spain	Future	\$15,000	30ポイント

Men's circuit
ブレイクダウン表
図14

Circuit	Prize Money	優勝	準優勝	セーフティポイント	ポイント数	長所	短所
ITF	\$25,000	30	20	10	4	1	0
ITF	\$35,000	40	25	15	5	1	0
ITF	\$15,000	15	10	5	2	1	0
ポイント総数		156	104	46	16	16	16

大会名	開催地	開催	賞金	獲得ポイント数
Spain F1	Spain	Future	\$15,000	30ポイント
Spain F2	Spain	Future	\$15,000	30ポイント
Spain F3	Spain	Future	\$15,000	30ポイント
Spain F4	Spain	Future	\$15,000	30ポイント
Spain F5	Spain	Future	\$15,000	30ポイント
Spain F6	Spain	Future	\$15,000	30ポイント
Spain F7	Spain	Future	\$15,000	30ポイント
Spain F8	Spain	Future	\$15,000	30ポイント
Spain F9	Spain	Future	\$15,000	30ポイント
Spain F10	Spain	Future	\$15,000	30ポイント
Spain F11	Spain	Future	\$15,000	30ポイント
Spain F12	Spain	Future	\$15,000	30ポイント
Spain F13	Spain	Future	\$15,000	30ポイント
Spain F14	Spain	Future	\$15,000	30ポイント
Spain F15	Spain	Future	\$15,000	30ポイント
Spain F16	Spain	Future	\$15,000	30ポイント
Spain F17	Spain	Future	\$15,000	30ポイント
Spain F18	Spain	Future	\$15,000	30ポイント
Spain F19	Spain	Future	\$15,000	30ポイント
Spain F20	Spain	Future	\$15,000	30ポイント
Spain F21	Spain	Future	\$15,000	30ポイント
Spain F22	Spain	Future	\$15,000	30ポイント
Spain F23	Spain	Future	\$15,000	30ポイント
Spain F24	Spain	Future	\$15,000	30ポイント
Spain F25	Spain	Future	\$15,000	30ポイント
Spain F26	Spain	Future	\$15,000	30ポイント
Spain F27	Spain	Future	\$15,000	30ポイント
Spain F28	Spain	Future	\$15,000	30ポイント
Spain F29	Spain	Future	\$15,000	30ポイント
Spain F30	Spain	Future	\$15,000	30ポイント
Spain F31	Spain	Future	\$15,000	30ポイント
Spain F32	Spain	Future	\$15,000	30ポイント
Spain F33	Spain	Future	\$15,000	30ポイント

Men's circuit
ブレイクダウン表
図15

計 2144ポイント

学生の考える改善策

ここまで問題提起をしてきたので、ここではその問題に対する解決策を私の方から提案させて頂きたいと思います。

大会の総数を増やすには年に1大会ずつでも良いので少しずつ堅実に大会を増やしていく方法が良いと考えます。増設に際する問題として3つの大きな問題を上げさせて頂きます。

①資金面の問題 ②人手の問題 ③知識の問題

この3つの問題に対し一つずつ解決策を提案させて頂きます。

①資金面の問題：1大会を開催する為に約500万円のお金が必要になります。これは選手の賞金や人件費などに当てられます。500万円のお金を学生の力だけで集めるのは私たち学生のみの方では不可能です。様々な方々からのご支援ご協力があり私たちの大会も開催できています。大会を増設することは資金的に難しいと印象を受けるかとは思いますが、地域ごとに様々な企業があり自治体が存在します。地域との連携を密に取ることができれば、各々の大会で違った味が出る素晴らしいトーナメントが形成されていき、資金面の課題も解決されていくのではないのでしょうか。

②人手の問題：大会を開催するにあたり間違いなく人手が必要になっていきます。スーパーバイザーや審判員の方々など外部から来て仕事をしてくださる方々の他に、選手の送迎やボーラーなど試合進行や選手が大会に集中できる環境を作るのには本当に多くの人の力が必要となります。

この問題の簡単な解決策は私たちのように大学やテニスクラブで大会を開催するという事です。人とコートが揃っている環境でスタートができれば、大会を開催するのに最低限のものは揃っています。また大学開催をすることには大きなメリットがもう一つあります。それは学校で学んだ知識を活かす現場にできるという事、また研究の為の材料を集めるいい機会になるという事です。

今年度の大会では20カ国もの国々から選手がトーナメントに参加してくれました。20カ国の人が集まったらそれぞれの文化や感覚の違いを選手からダイレクトにリサーチすることができます。またスポーツ選手としての生活やモチベーションなど研究できる項目は多岐に渡ります。またホスピタリティを学ぶいい機会でもあります。選手は慣れない異国で大会に出場しなければいけませ



ん。食事・宿泊などの生活に最低限必要なものから、スポーツ選手としてもう1ランク上のサービスが求められます。選手が集中して試合に臨めるように、過ごしやすい環境の整備と対応が求められます。この現場での経験から学生はホスピタリティを学ぶことができます。

これらの要因から国際大会を主催するという事は選手に世界へ挑戦する機会を与えるだけでなく、自らが成長するという素晴らしい機会を与えてくれます。多くの大学やテニスクラブが国際大会の主催に少しでも興味を持ってもらえたら幸いです。

③知識の問題：私たちは国際大会をスタートしてから積み上げてきた知識と経験があります。この知識がないことには大会を開催したいという意思があってもどうしたら良いか分からず途方に暮れてしまうと思います。実際に私が初めて国際大会を経験した時は、どうやってこの大会が開催されているかなどは見当もつきませんでした。最初は分からないことが当然だと思います。

そこで私が提案することは”マニュアル”の作成です。テニス協会がオフィシャルのマニュアルを作成し、それに沿って準備を進めれば大会が開催できるようなマニュアルがあるだけで、国際大会をスタートするハードルは下がると思います。



まとめ

ここまで国際大会の開催レポートとして、データや文章でテニス界の現状を学生の目線から考察させて頂きました。本文中でも主張しましたが、日本テニス界の明るい将来の為には下部大会の増設が必要不可欠だと私は考えています。下部大会は将来日本を背負っていくジュニア選手達のいい刺激になり、いい挑戦の機会になってくれるのではないかと私は思います。これは堀内昌一先生と話し合っただけのアイデアですが、47都道府県に1つずつ大会があるのがいいのではないかと話になりました。各都道府県にあるだけで、現状の年間大会数の8より約6倍も大会が多くなります。また大会数が多くなれば運営に携わる人数も必然的に多くなります。私の個人的な意見ですが選手として活動しているうちに一度は運営として大会を裏側から支える経験をする事は、

選手としての格が上がる方法の一つだと考えています。選手が大会に出るだけでなく運営も行うような、お互いが理解し合い支え合うテニス界になっていけばいいと考えています。

最後となりますが、国際大会を開催するにあたって本当に多くの方々にお世話になりました。亜細亜大学のスタッフの方々、日の出町様、スポンサー様、関係者各位の方々にお礼を伝えたいと思います。至らない所も数多くあったと思いますが、暖かく見守って下さり、大会にご協力頂き本当にありがとうございました。今後とも亜細亜大学国際オープンテニスをよろしくお願い致します。

拙い文章もあったとは思いますが、長々とお付き合い頂きありがとうございました。

国際関係学部レポート

代表 吉満優希(3年)

日の出で学ぶ国際関係学

今年度で男子13回目、女子8回目を迎えた亜細亜国際オープンテニス大会では数多くの国から外国人選手が試合に出場してきました。日本テニス界では2月の後半から7週間に渡って国際大会が連続して開催されています。その中でも大学が国際大会を主催している割合は多く、大阪体育大・慶應大・早稲田大・山梨学院大・筑波大、そして私たち亜細亜大が国際大会を主催しています。

テニスという競技では世界中に大会があり選手は年中試合を回り、ポイント獲得・競技力向上を目的に活動します。選手は試合に出場するために海外まで移動し、いい成績を残す為に現地で練習をします。1大会に出場するだけでも移動費・宿泊費・食費など相当な費用がかかります。また資金面の問題だけでなく、慣れない異国の地での生活はストレスに繋がります。文化の違いや食の違いなど、スポーツ選手として集中して取り組みたいものを阻害してくる要因が多く存在します。このような状況の中で選手は、52週(1年間)の中で約30大会に出場できるようにスケジュールを組み、少しでも多くポイントを獲得しグラウンドスラムに出場する為に日々活動しています。

このテニス選手を取り囲む厳しい環境の中で、日本国内で7大会がシリーズとして確立されているのは、選手にとっては資金・移動・ストレスといったあらゆる面から捉えても魅力的なものである事が分かります。

私たちの亜細亜国際オープン大会では、女子大会の賞金総額が\$15,000から\$25,000に格上げされました。それに伴い出場選手のレベルも上がり近隣の国の選手だけではなくヨーロッパやアメリカを含む多くの国の選手が出場し、計20ヶ国もの外国人選手がトーナメントに参加してくれました。本戦32ドローの内22選手が外国人選手で、ベスト8が出揃った時点で日本人選手は残り1名で7名が外国人選手という状況になっていました。

男子大会では\$15,000大会を開催し、7ヶ国から選手が出場してくれました。外国人選手はアジア地域からの参加が多く、中国・タイ・台湾・香港・韓国から選手が出場してくれました。今大会で準優勝のナム・ジスン選手も韓国から参加してくれた選手です。

外国人選手が数多く出場した今大会では様々な文化が見受けられました。私たちは毎年キッチンカーを依頼して大会期間は会場で食事が取れるようにしますが、宗教上の理由で豚肉を食べられない方がいて、学生が外まで食事を買に行くこともあ

りました。

会場では数種類の言語が使用されます。基本は英語での会話でしたが、ロシア語・スペイン語・タイ語・ドイツ語・イタリア語・中国語・韓国語など数多くの言語を会場で聞く事ができました。女子シングルの表彰式では松本副学長先生が日の出キャンパスまで来て下さり、ロシア語で優勝者のダリア・ロバテスカ選手を労って下さいました。学生は大会を通じて現場での英語力を磨き、大会期間中に言語への興味を持ち英語力が飛躍的に伸びた学生もいました。スペイン語を専攻している学生は、選手やコーチとスペイン語で挨拶を交わし、そこから会話が始まり簡単な会話などを教えてもらうなど現場で語学を学ぶ事ができます。自分自身の経験では韓国人選手と仲良くなり単語や挨拶を教えてもらう事ができました。

学校で学んだ外国語を活用する機会であり、学内で言語を専攻している学生にとっては現場で自身の語学力を伸ばすいい機会であると考えられます。私たちは文武両道を掲げて活動していますが、勉学に100%専念できないのも実際の現状です。私たちよりも語学を学ぶことに対して、高いモチベーションを持って取り組んでいる学生は数多く在籍していると思います。そのような学生が現場にいる事によって、今よりも深みのある会話ができ学術的に有意義な話が更に聞き出せるのではないのでしょうか。亜細亜大学は特に国際色が豊かで世界に通用する学生を輩出してきている実績もあるので、語学強化のプロジェクトやゼミ活動の一部に取り組むのもいいのではないかと考えています。

また、今年大会では国の境界線を越えた人間としての偉大な行動を見ることができました。女子大会の本戦開始日3月11日に、8年前の東日本大震災を追悼するサイレンが鳴りました。その際に数名の外国人選手が敬服するように追悼してくれました。私達の忘れたくない過去を共有してくれて、共感してくれた選手に人間としての尊敬を覚えました。この年には亜細亜国際オープンも開催を断念し、2011年のドローはメモリアルドローとして監督室に掲示してあります。

亜細亜国際オープン大会では数多くの外国人選手が出場し、選手の数だけの文化を学ぶ事ができます。この貴重な経験をテニス部員だけでなく、大学のものとして共有できれば利益を得る事ができる人数も多くなり、大会の質の向上にも繋がっていくのではないかと考えます。

経営学部ホスピタリティマネジメント学科レポート

代表 堀匡毅(4年)

国際大会を通して学ぶおもてなし実践

接客には欠かせないホスピタリティ(おもてなし)を亜細亜国際オープンテニスを通して改めて学ぶことができ、身近に発揮できるとても貴重な機会だと感じています。

私が所属しているホスピタリティ・マネジメント学科では、ホスピタリティが必要とされる各業界の視点から学ぶことができ、その内の一つである「スポーツホスピタリティ」という分野を専門的に学んでいます。接客業と聞くと飲食店や旅館・ホテルなどでお客様の満足を得られるような対応をし、おもてなしをすることをイメージされると思います。ですが、スポーツの現場でも同様に「〇〇のお客様」が発生し、スポーツを通して接客業を行っています。

主に、亜細亜国際オープンテニスの開催費を集めることを目的としたチャリティークリニックやジュニア大会の運営では実際に一般のお客様の対応をさせていただき、学生ながらも責任

感やお客様のニーズを満たすための行動を心がけて行動することで、大学の授業だけでは学び得ることができない実践型の社会勉強の場となっています。ホスピタリティインターンシップで学んだ、「お客様1人1人の名前を覚えて積極的に話しかけること」(コミュニケーション能力)をチャリティークリニックや亜細亜国際オープンテニスの運営で意識して実践することで、以前よりもリピーターが増え参加者の皆さんも学生もお互いが心地良い環境を作り出すことができていると考えます。

ホスピタリティが発揮できれば、自然とお客様の笑顔や感謝の言葉をいただくことができ、それらがホスピタリティ・マネジメント学科に所属する学生だけに留まらず、人としてのやりがいだと感じています。また、ホスピタリティには言語の壁や年齢問わず「熱い気持ちで訴えかけるもの」であると、亜細亜国際オープンテニスを通して新たな学びを得ることができました。

歴代優勝者

男子シングルス

回数	年度	優勝者	スコア	準優勝者
第1回	2007年	オム・キューテ(中国)	6-4.6-7(6).6-2	茶園鉄也(ミキプルーン)
第2回	2008年	伊藤竜馬(ミキプルーン)	6-2.6-4	チェン・ティ(台湾)
第3回	2009年	イ・チュハン(台湾)	6-2.6-7(1).7-5	杉田祐一(三菱電機)
第4回	2010年	井藤祐一(空旅ドットコム)	7-5.1-6.6-4	守屋宏紀(北日本物産)
第5回	2011年	東日本大震災の為、中止		
第6回	2012年	内山靖崇(北日本物産)	6-2.7-6(5)	近藤大生(アイシン精機)
第7回	2013年	近藤大生(アイシン精機)	7-5.6-1	ハン・リャン・チー(台湾)
第8回	2014年	ディ・ウ(中国)	6-2.6-4	イ・ジン・ア(韓国)
第9回	2015年	仁木拓人(三菱電機)	6-3.RET	吉備雄也(ノア・インドアステージ)
第10回	2016年	ハン・リャン・チー(台湾)	7-5.7-5	菊池玄吾(team REC)
第11回	2017年	高橋悠介(フリー)	7-5.6-3	仁木拓人(三菱電機)
第12回	2018年	ヌーゲン・ダニエル(アメリカ)	5-7.7-6(4).6-4	ウイシャットロンチャロンエンチャイクル(タイ)
第13回	2019年	今井慎太郎(イカイ)	6-2.6-2	ナム・ジスン(韓国)

女子シングルス

回数	年度	優勝者	スコア	準優勝者
第1回	2012年	米村明子(島津製作所)	1-1.RET	飯島久美子(北日本物産)
第2回	2013年	ユ・ミ(韓国)	1-6.6-1.6-2	イ・ジン・ア(韓国)
第3回	2014年	井上雅(テニスラウンジ)	1-6.7-5.6-1	ヌニダ・ルアンサム(タイ)
第4回	2015年	スー・チー・ウェン(台湾)	6-3.3-6.6-4	岡村恭香(橋本総業)
第5回	2016年	フレッチ・マグダレナ(ポーランド)	7-5.6-4	美濃越舞(YCA)
第6回	2017年	セクリッチ・サラ・レベッカ(ドイツ)	6-4.7-5	秋田史帆(北島水産)
第7回	2018年	リー・ソ・ラ(韓国)	6-3.2-6.7-5	キム・ナ・リ(韓国)
第8回	2019年	ダリア・ロパテスカ(ウクライナ)	7-6(4).2-6.6-3	ガブリエラ・テイラー(イギリス)

男子ダブルス

回数	年度	優勝者	スコア	準優勝者
第1回	2007年	ユ・シンユアン/ザン・シャオユアン(中国)	6-2.7-6(3)	佐藤博康/リー・ミン(フリー/中国)
第2回	2008年	近藤大生/佐藤博康(アイシン精機/フリー)	3-6.7-6(3)[10-2]	ゴング・マオシン/リー・ジェン(中国)
第3回	2009年	佐藤博康/イ・チュハン(フリー/中国)	6-2.6-3	比嘉明人/篠川智大(テニスユニバース/亜細亜大学)
第4回	2010年	伊藤文平/イ・チュハン(橋本総業/台湾)	6-2.6-3	岩見亮/近藤大生(北日本物産/アイシン精機)
第5回	2011年	東日本大震災の為、中止		
第6回	2012年	近藤大生/イ・チュハン(アイシン精機/台湾)	7-6(4).7-5	ガオ・ベン/ガオ・ワン(中国)
第7回	2013年	関口周ー/エンドリアン・シコラ(三菱電機/スロバキア)	6-3.6-4	吉備雄也/奥大賢(イカイ)
第8回	2014年	松井俊英/小ノ澤新(ライフ・エヌ・ピー/北日本物産)	6-4.7-5	今井慎太郎/鈴木貴男(早稲田大学/イカイ)
第9回	2015年	吉備雄也/仁木拓人(ノア・インドアフィールド/三菱電機)	6-3.3-6[11-9]	井藤祐一/小ノ澤新(ライフ・エヌ・ピー/イカイ)
第10回	2016年	吉備雄也/松井俊英(ノア・インドアフィールド/APF)	6-3.6-1	ハン・リャンチー/ベン・マクラクラン(台湾/ニュージーランド)
第11回	2017年	長尾克己/奥大賢(エキスパートシズオカ)	6-0.7-6(2)	仁木拓人/上杉海斗(三菱電機/慶應大学)
第12回	2018年	仁木拓人/今井慎太郎(三菱電機/イカイ)	6-1.6-4	片山翔/守谷総一郎(伊予銀行/MTSテニスアリーナ)
第13回	2019年	今井慎太郎/仁木拓人(イカイ/三菱電機)	1-6.7-6(8).10-5	エリス・ブレイク/ウィジャヤトロンチャロンエンチャイクル(オーストラリア/タイ)

女子ダブルス

回数	年度	優勝者	スコア	準優勝者
第1回	2012年	穂積絵莉/手塚玲美(フリー/ミキハウス)	6-4.6-7(1)[10-7]	伊藤和沙/森友香(島津製作所)
第2回	2013年	ハン・ナレ/カン・ソン・ギョン(韓国)	6-4.6-7(4)[10-6]	穂積絵莉/二宮真琴(フリー/西宮甲英高等学校)
第3回	2014年	波形純理/米村明子(北日本物産/島津製作所)	6-2.6-4	チェ・ジヒ/井上明子(韓国/イラコテニスカレッジ)
第4回	2015年	岡村恭香/米村明子(橋本総業/島津製作所)	2-6.6-2[10-5]	久見香奈恵/高畑寿弥(フリー/橋本総業)
第5回	2016年	梶谷桜舞/宮原未穂希(早稲田大学/TEAM自由が丘)	4-6.6-2[10-6]	小堀桃子/村松千裕(U.T.PあたごTC/TTC)
第6回	2017年	小堀桃子/高畑寿弥(橋本総業)	6-1.6-2	秋田史帆/瀬間詠里花(水島水産/橋本総業)
第7回	2018年	リー・ソ・ラ/キム・ナ・リ(韓国)	6-4.7-5	細沼千紗/森崎可南子(早稲田大学/筑波大学)
第8回	2019年	米原実令/荒川晴菜(明治安田生命/プロ・フリー)	6-4.6-3	エミナ・ベクタス/モーリー・ターラー(アメリカ/イギリス)

Asia Univ. Int'l Men's Open Tennis 2019

ITF World Tennis Tour

MS-SINGLES MAIN DRAW



Week of	City, Country	Prize Money US\$	Tourn. Key	ITF Supervisor
2019/3/4	日本,東京-西多摩	15000	M-ITF-JPN-01A-2019	小林 あおい

St	Rank	Seed	Name	Nationality	2nd Round	Quarterfinals	Semifinals	Final
1	360	1	高橋悠介	三菱電機				
2	665		今井慎太郎	イカイ	今井慎太郎 6-1.5-7.6-3			
3	LL	*661	片山翔	伊予銀行	片山翔	今井慎太郎 6-2.6-3		
4	Q	*995	川橋勇太	筑波大学	6-3.6-1		今井慎太郎 6-3.6-2	
5	WC	*1887	熊坂拓哉	亜細亜大学	市川泰誠			
6	JR	*1274	市川泰誠	イカイ	6-1.7-5	正林知大 4-6.6-1.6-2		
7		*381	竹内研人	プロ・フリー				
8	Q	*1377	正林知大	HOS TENNIS	正林知大 6-3.1-6.6-0			今井慎太郎 6-4.6-3
9		493	4 トロンチャロンエンチャイクル・ウイシヤヤ	タイ				
10	Q	*639	ユウ・チャン・ユウ	台湾	6-4.7-6(3)	鳥袋将 7-6(5).6-3		
11	Q	*830	鳥袋将	早稲田大学	鳥袋将			
12	WC		加藤彰馬	亜細亜大学	6-2.6-3		鳥袋将 6-3.7-5	
13		657	福田創楽	イカイ				
14		665	ワン・ホン・キット	香港	福田創楽 7-6(4).6-3	田島尚輝 6-2.3-0RET		
15	JR	*650	田島尚輝	TEAM YONEZAWA	田島尚輝			
16		514	6 羽澤慎治	慶應義塾大学	7-5.6-3			今井慎太郎 6-2.6-2
17		537	7 ホン・ソン・チャン	韓国				
18	WC		高見澤岳飛	亜細亜大学	ホン・ソン・チャン 4-6.6-3.6-3			
19		*401	守谷総一郎	Team REC	ホン・ソン・チャン 6-3.6-0			
20	JR		齊藤恵佑	グローバルプロTA	齊藤恵佑 6-2.6-0			
21		*490	菊池玄吾	福井県スポーツ協会			山崎純平 3-6.7-6(6).6-2	
22	Q	*1329	小倉孝介	あきやま病院	菊池玄吾 7-5.7-5	山崎純平 7-6(5).4-6.6-3		
23		633	山崎純平	日清紡ホールディングス	山崎純平			
24		401	3 エリス・ブレイク	オーストラリア	7-5.6-4			ナム・ジスン 6-2.6-1
25		507	5 江原弘泰	プロ・フリー				
26	WC		清水奎吾	亜細亜大学	江原弘泰 6-1.6-0			
27		615	望月勇希	中央大学	望月勇希	江原弘泰 6-3.4-6.7-5		
28	Q	*908	住澤大輔	橋本総業ホールディングス	6-1.7-6(3)			
29		*286	上杉海斗	江崎グリコ			ナム・ジスン 6-4.6-2	
30		*404	西脇一樹	SYSテニスクラブ	西脇一樹 5-0RET			
31		*204	仁木拓人	三菱電機		ナム・ジスン W.O.		
32		366	2 ナム・ジスン	韓国	ナム・ジスン 6-4.6-2			

www.itftennis.com/mens

Acc. ranking	#	Seeded players	#	Lucky Losers	Replacing	Draw date/time:
Rkg Date	1	高橋悠介	1	片山翔	齊藤貴史	2019年3月4日11:09
Top Acc	2	ナム・ジスン				Last Direct Acceptance
Cut-off	3	エリス・ブレイク				Player representatives
Seed ranking	4	トロンチャロンエンチャイクル・ウイシヤヤ				加藤彰馬
Rkg Date	5	江原弘泰				山崎純平
Top seed	6	羽澤慎二				Signature
Last seed	7	ホン・ソン・チャン				小林あおい
			#	Protected Ranking: Name (Line)		

Asia Univ. Int'l Men's Open Tennis 2019

ITF World Tennis Tour

MD-DOUBLES MAIN DRAW



Week of 2019/3/4 City, Country 日本,東京-西多摩 Prize Money US\$ 15000 Tour. Key M-ITF-JPN-01A-2019 ITF Supervisor/Referee 小林 あおい

St.	Rank	Seed	Name	Nationality	2nd Round	Semifinals	Final	Winners
1	A-0915	1	今井慎太郎 仁木拓人	イカイ 三菱電機				
2	C-1769		市川泰誠 田島尚輝	イカイ TEAM YONEZAWAM	7-6(2),5-7,10-4			
3	WC		工藤颯人 清水奎吾	亜細亜大学 亜細亜大学		今井/仁木 W.O.		
4	B-0966		福田創楽 守谷総一郎	イカイ Team REC	6-4,4-6,10-1			
5	Alt B-1413	3	乾祐一郎 河内一真	トップラン プロ・フリー			今井/仁木 6-3,6-1	
6	B-0879		江原弘泰 片山翔	プロ・フリー 伊予銀行	6-1,6-1			
7	B-0836		高橋悠介 山崎純平	三菱電機 日清紡ホールディングス		江原/片山 6-3,6-4		
8			齋藤恵佑 住澤大輔	グローバルプロTA 橋本総業ホールディングス	6-3,6-4			
9	B-1128		ワン・ホン・キット ヤン・バク・ロン	香港 香港				今井/仁木 1-6,7-6(8),10-5
10	C-1140		菊池玄吾 竹島駿朗	福井県スポーツ協会 Team REC	7-5,6-7(3),10-6			
11	WC		加藤彰馬 高見澤岳飛	亜細亜大学 亜細亜大学		ワン/ヤン 6-2,6-7(13),10-3		
12	A-1665	4	ワン・アーロン ユー・チャン・ユー	中国 台湾	6-2,7-6(3)			
13	WC		能坂拓哉 目黒志和	亜細亜大学 亜細亜大学			エリス/ブレイク/エンチャイクル 6-2,7-6(3)	
14	C-1582		望月勇希 島袋将	中央大学 早稲田大学	6-0,6-1			
15	B-0926		ホン・ソン・チャン ナム・ジスン	韓国 韓国		エリス/ブレイク/エンチャイクル 7-6(8),7-6(1)		
16	A-0949	2	エリス・ブレイク トロンチャロンエンチャイクル・ウイシャヤ	オーストラリア タイ	6-3,6-4			

www.itftennis.com/mens

Acc. ranking	#	Seeded teams	#	Lucky Losers	Replacing	Draw date/time:
Rkg Date	1	今井慎太郎 仁木拓人	1			2019年 3月4日 14:15
Top DA	2	エリス・ブレイク トロンチャロンエンチャイクル・ウイシャヤ	2			Last Accepted team ワン・アーロン、ユー・チャン・ユー
Last DA	3	羽澤慎二 竹内研人	3			Player representatives 加藤彰馬
Seed ranking	4	ワン・アーロン ユー・チャン・ユー				Signature
Rkg Date			#	Protected Ranking: Name (Line)		
Top seed			1		2	小林 あおい
Last seed						

Asia Univ. Int'l Women's Open Tennis 2019

ITF World Tennis Tour WS-SINGLES MAIN DRAW



Week of	City, Country	Prize Money	Tourn. Key	ITF Supervisor
2019/3/11	日本,東京-西多摩	25000	W-ITF-JPN-01A-2019	小林 あおい

Sl.	Rank	Seed	Name	Nationality	2nd Round	Quarterfinals	Semifinals	Final
1	171	1	パレンティーニ・グラマティコポール	ギリシャ				
2	Q	472	キャサリン・ハリソン	アメリカ	7-5,2-6,7-6(4)			
3	IR	*64	アンナ・ウレーク	ロシア		ジョディ・アンナ・ブラッジ 6-2,6-4		
4	Q	345	ジョディ・アンナ・ブラッジ	イギリス	6-1,3-0RET			
5	WC	853	川村葉那	CSJ			ダリア・ロパテスカ 4-6,6-2,6-3	
6		304	ダリア・ロパテスカ	ウクライナ	6-1,6-0			
7		314	今西美晴	島津製作所		ダリア・ロパテスカ 6-1,7-5		
8		245	8 小堀桃子	橋本総業ホールディングス	7-5,6-2			
9		196	3 デジャナ・ラダノビッチ	セルビア				ダリア・ロパテスカ 6-2,6-2
10	WC	*390	松田美咲	亜細亜大学	6-0,7-5			
11	WC		中島美夢	相生学院高校		デジャナ・ラダノビッチ 6-2,6-1		
12	IR	710	スディニダ・ランナム	タイ	7-6(3),6-1			
13	Q	469	ステファニー・ワグナー	ドイツ			ジュリア・ガット・モンティコン 6-0,6-2	
14	Q	344	アビガイル・テレ・アピサー	パプアニューギニア	6-2,6-4			
15		287	尾崎里紗	江崎グリコ		ステファニー・ワグナー 6-3,5-7,6-3		
16		212	6 ジュリア・ガット・モンティコン	イタリア	6-2,6-2			
17		214	7 チャン・カイ・リン	中国				ダリア・ロパテスカ 7-6(4),2-6,6-3
18	Q	374	クイン・グレーソン	アメリカ	6-4,3-6,6-3			
19		269	美濃越舞	YCA		クイン・グレーソン 6-4,5-7,6-3		
20	Q	386	エミナ・ベクタス	アメリカ	6-2,6-0			
21		332	テディー・アンドリアンジャフィットリーモ	フランス			クイン・グレーソン 7-5,6-1	
22	IR	609	アンナ・モルギナ	ロシア	6-2,6-7(3),6-3			
23	WC	474	荒川晴菜	プロ・フリー		レベッカ・マリノ 6-2,6-2		
24		203	4 レベッカ・マリノ	カナダ	6-2,6-1			
25		205	5 清水綾乃	Club MASA				ガブリエラ・テイラー 6-3,6-7(3),6-3
26	IR	547	ファ・チェンリー	台湾	6-3,6-1			
27		264	日比万葉	グラムスリー		清水綾乃 6-2,6-3		
28	IR	455	フランシスカ・ジョーンズ	イギリス	6-4,6-0			
29		253	エレナ・ガブリエル・ルーセ	ルーマニア			ガブリエラ・テイラー 6-3,6-3	
30		296	ケイティ・ダンネ	イギリス	6-4,2-6,6-1			
31		251	ガブリエラ・テイラー	イギリス		ガブリエラ・テイラー 6-2,6-4		
32		183	2 レベッカ・スランコバ	スロバキア	6-3,6-0			

www.itftennis.com/mens

Acc. ranking	#	Seeded players	#	Lucky Losers	Replacing	Draw date/time:	2019年3月11日 14:40
Rkg Date	1	パレンティーニ・グラマティコポール				Last Direct Acceptance	
Top Acc	2	レベッカ・スランコバ				今西美晴	
Cut-off	3	デジャナ・ラダノビッチ				Player representatives	
Seed ranking	4	レベッカ・マリノ				松田美咲	
	5	清水綾乃				ジョディ・アンナ・ブラッジ	
Rkg Date	6	ジュリア・ガット・モンティコン				Signature	
Top seed	7	チャン・カイ・リン					
Last seed	8	小堀桃子					
			#	Protected Ranking:	Name (Line)	小林あおい	

Asia Univ. Int'l Women's Open Tennis 2019

ITF World Tennis Tour

WD-DOUBLES MAIN DRAW



Week of	City, Country	Prize Money US\$	Tourn. Key	ITF Supervisor/Referee				
2019/3/11	日本,東京-西多摩	25000	W-ITF-JPN-01A-2019	小林 あおい				
St.	Rank	Seed	Name	Nationality	2nd Round	Semifinals	Final	Winners
1	A-0476	1	西本 恵 清水 綾乃	島津製作所 Club MASA				
2	A		米原 実令 荒川 晴菜	明治安田生命 プロ・フリー	米原/荒川 5-7.6-4.10-4			
3	A-0649		森崎 可南子 奥野 彩加	筑波大学 プロ・フリー		米原/荒川 4-6.6-2.10-8		
4	A-0874		ティエー・アンドリアンジャフィットリーモ アビガイル・テレ・アビサー	フランス パプアニューギニア	森崎/奥野 7-6(6) 6-7(3) 12-10			
5	A-0573	4	チャン・カイ・チェン スー・イン・チン	台湾 台湾			米原/荒川 7-6(5) 3-6.10-4	
6	A-0953		ファマ・アル・ナブハニ サマンサ・マリ	オマーン イギリス	チャン/スー 0-6.6-2.10-1			
7	A-0716		ジュリア・ガット・モンティコン バレンティーニ・グラマティコボール	イタリア ギリシャ		大前/ガブリエラ 3-6.6-4.10-4		
8	A-0704		大前 綾希子 ガブリエラ・テイラー	島津製作所 イギリス	大前/ガブリエラ 6-4.4-6.10-5			
9	WC		伊藤 さつき 中島 美夢	相生学院高校 相生学院高校			米原/荒川 6-4.6-3	
10	A-0715		梶谷 桜舞 小関 みちか	島津製作所 プロ・フリー	梶谷/小関 6-1.6-2			
11	A-0693		クイン・グレーソン レベッカ・マリノ	アメリカ カナダ		エミナ/モーリー 4-6.6-0.10-1		
12	A-0568	3	エミナ・ベクタス モーリー・ターラー	アメリカ イギリス	エミナ/モーリー 6-3.6-4			
13	A		ステファニー・ワグナー キャロライン・ワーナー	ドイツ ドイツ			エミナ/モーリー 6-2.6-2	
14	WC		松田 美咲 清水 映里	亜細亜大学 早稲田大学	ステファニー/キャロライン 6-4.7-6(4)			
15	WC		朝倉 菜月 南 文乃	亜細亜大学 亜細亜大学		ステファニー/キャロライン 6-3.6-2		
16	A-0516	2	ユー・チェイ・シェイ リー・ソ・ラ	台湾 韓国	朝倉/南 2-6.6-4.10-6			

www.itftennis.com/mens

Acc. ranking	#	Seeded teams	#	Lucky Losers	Replacing	Draw date/time:
Rkq Date	1	西本 恵 清水 綾乃	1			2019年 3月11日 14:24
Top DA	2	ユー・チェイ・シェイ リー・ソ・ラ	2			Last Accepted team ラトゥージャ・ボウセイル/リー・フー・チェン
Last DA	3	エミナ・ベクタス テイラー・モーリー	3			Player representatives 伊藤 さつき
Seed ranking	4	チャン・カイ・チェン スー・イン・チン				Signature
Rkq Date			#	Protected Ranking: Name (Line)		
Top seed			1		2	小林 あおい
Last seed						

Asia Univ.Int'l Men's Open Tennis2019



ITF World Tennis tour

MS-SINGLES QUALIFYING DRAW

Week of 2019/3/4 City, Country 日本, 東京-西多摩 Prize Money/US\$ 15000 Tour/Key M-ITF-JPN-01A-2019 ITF Supervisor/Referee 小林あおい

St.	Rank	Seed	Family Name	First name	Nationality	Round 1	Finals	Qualifiers
1	633	1	ワン・アーロン		中国		ワン・アーロン 6-4,6-4	
2	1090		クンスワン・ナサシス		タイ			小倉孝介 6-3,6-2
3	1329		小倉孝介		あきやま病院		小倉孝介 6-3,7-5	
4	1067	12	竹島駿朗		Team REC			
5	639	2	ユー・チャン・ユー		台湾		ユー・チャン・ユー 6-3,6-4	
6	1309		クンソンキツティクル・ウオロビン		タイ			ユー・チャン・ユー 7-6(3),4-6,10-5
7	WC		平山浩大		慶應義塾大学		河内一真 6-3,6-1	
8	896	8	河内一真		プロ・フリー			
9	661	3	片山翔		伊予銀行		片山翔 6-4,6-4	
10	1240		小野誠佳		ロイヤルSCテニスクラブ			川橋勇太 6-4,7-5
11	WC		工藤颯人		亜細亜大学		川橋勇太 6-2,6-1	
12	995	10	川橋勇太		筑波大学			
13	761	4	フォリオット・クエンティン		フランス		今村昌倫 6-1,6-2	
14	1188		今村昌倫		慶應義塾大学			島袋将 7-5,7-5
15	1091		ヤン・バク・ロン		香港		島袋将 6-1,6-3	
16	830	7	島袋将		早稲田大学			
17	770	5	メン・チン・ヤン		台湾		目黒志和 6-1,7-5	
18	WC		目黒志和		亜細亜大学			住澤大輔 6-1,6-1
19	WC	1942	清水一輝		中央大学		住澤大輔 6-2,6-2	
20	908	9	住澤大輔		橋本総業ホールディングス			
21	818	6	タン・リ・ウエ		台湾		正林知大 6-3,6-1	
22	1377		正林知大		HOS TENNIS			正林知大 6-2,6-1
23	WC		塩谷大河		亜細亜大学		乾祐一郎 6-2,6-3	
24	1035	11	乾祐一郎		トップラン			

Asia Univ.Int'l Women's Open Tennis2019

ITF World Tennis tour

WS-SINGLES QUALIFYING



Week of	City, Country	Prize Money US\$	Tour Key	ITF Supervisor/Referee				
2019/3/11	日本,東京,西参展	25000	W-ITF-JPN-04A-2019	小林あおい				
Sl.	Rank	Seed	Family Name	First name	Nationality	Round 1	Finals	Qualifiers
1	344	1	アビガイル・テレ・アビサー		バブアニューギニア		アビガイル・テレ・アビサー 4-6,6-3,10-3	
2	475		モーリー・ターラー		イギリス			アビガイル・テレ・アビサー 1-6,7-5,11-9
3	WC		松原綾乃		ウイニングショット		大前綾希子 6-2,6-1	
4	431	12	大前綾希子		島津製作所			
5	345	2	ジョディ・アンナ・ブラッジ		イギリス		ジョディ・アンナ・ブラッジ 6-0,6-0	
6	WC		矢崎梓紗		Fテニス			ジョディ・アンナ・ブラッジ 7-5,6-2
7	494		リ・ソ・ラ		韓国		フェマ・アル・ナブハニ 1-6,6-3,10-8	
8	405	9	フェマ・アル・ナブハニ		オマーン			
9	356	3	ラトウージャ・ポウセイル		インド		ステファニー・ワグナー 7-5,1-6,10-8	
10	469		ステファニー・ワグナー		ドイツ			ステファニー・ワグナー 6-2,1-6,10-6
11	WC		李淑玲		亜細亜大学		チャン・カイ・チェン 6-0,6-1	
12	417	11	チャン・カイ・チェン		台湾			
13	362	4	内島萌夏		昭和の森ジュニアテニススクール		小林ほの香 7-6(5),6-2	
14	WC	975	小林ほの香		荏原湘南スポーツセンター			キャサリン・ハリソン 6-4,1-6,10-7
15	472		キャサリン・ハリソン		アメリカ		キャサリン・ハリソン 6-2,6-7(3),12-10	
16	404	8	レイラー・アニエ・フェルナンデス		カナダ			
17	374	5	クイン・グレーソン		アメリカ		クイン・グレーソン 1-6,6-1,10-4	
18	496		マリア・グティレス・カラスコ		スペイン			クイン・グレーソン 6-2,RET
19	478		バーネット・アリシア		イギリス		バーネット・アリシア 6-1,6-2	
20	414	10	キャロライン・ワーナー		ドイツ			
21	379	6	瀬間詠里花		橋本総業ホールディングス		瀬間詠里花 6-1,6-1	
22	484		小関みちか		プロ・フリー			エミナ・ベクタス 6-4,3-6,10-3
23	523		牛島里咲		筑波大学		エミナ・ベクタス 6-3,6-4	
24	386	7	エミナ・ベクタス		アメリカ			

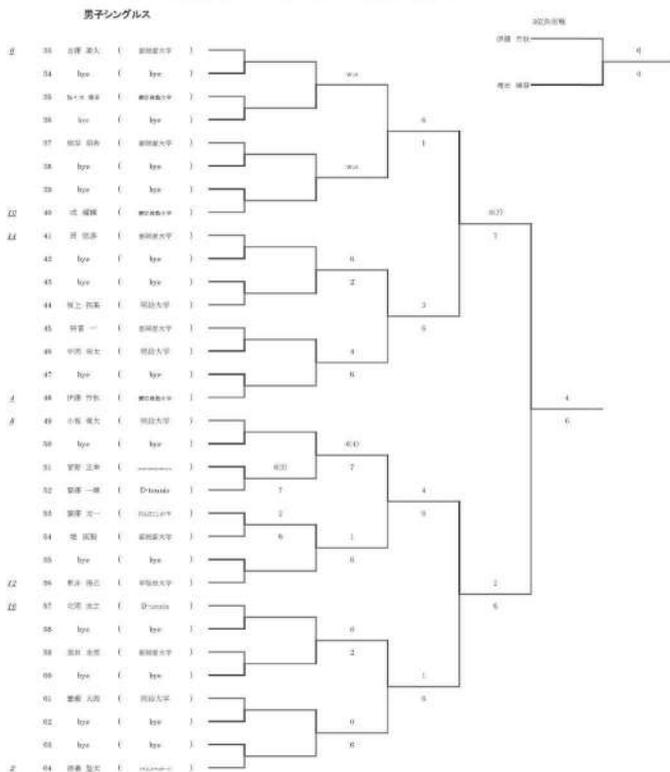
亜細亜国際オープンテニス2019 予選WC選考大会



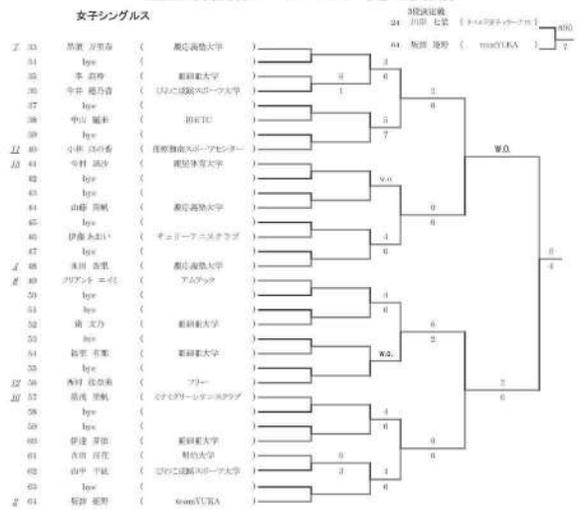
亜細亜国際オープンテニス2019 予選WC選考大会



亜細亜国際オープンテニス2019 予選WC選考大会



亜細亜国際オープンテニス2019 予選WC選考大会



2019ご協賛いただきました企業・団体・個人の皆様

【 企業・団体の皆様】

ブリヂストンスポーツ セールス ジャパン株式会社 〒105-6128 港区浜松町2-4-1 世界貿易センタービル	株式会社NIPPO 〒103-0028 中央区八重洲1-2-16 TGビルディング	株式会社テニスユニバース 〒183-0012 府中市押立町2-15-18	一般社団法人 トップアスリートグループ 〒470-0217 愛知県みよし市根浦町3-2-28 テアヒルズ203
東京急行電鉄株式会社 〒150-8511 渋谷区南平台町5-6	東急建設株式会社 〒150-8340 渋谷区渋谷1-16-14 渋谷地下鉄ビル	橋本総業ホールディングス 株式会社 〒103-0001 中央区日本橋小伝馬町9-9	一般財団法人GSチャレンジ 〒155-0032 世田谷区代沢3-6-15
ダイドードリンコ株式会社 〒233-0013 横浜市港南区丸山台3-40-1	合資会社アオヤマ 〒430-0932 静岡県浜松市中区有町316-2	日本テニス学会 〒731-4312 広島県安芸郡坂町 平成ヶ浜3-3-20 広島文化学園大学内	株式会社 ダンロップスポーツマーケティング 〒108-0075 港区港南1-6-41 品川クリスタルスクエア
有限会社藤野企画 〒190-0015 立川市泉町935-1 立川ルーデンステニスクラブ内	株式会社ロイヤル・アーツ 〒153-0042 目黒区青葉台2-16-11	株式会社 やまやコミュニケーションズ 〒813-0062 福岡県福岡市東区松島 5-27-5	株式会社レック興発 〒151-0053 渋谷区代々木2-29-15 キクスイ南新宿ビル1階
ネットヨタ多摩株式会社 〒197-0023 福生市志茂215	ノアインドアステージ株式会社 〒672-8014 兵庫県姫路市東山1524	グリーンテニス 〒334-0057 川口市安行原1646	エールインドアテニスクラブ 〒950-0983 新潟市中央神道寺2-1-16
角辻医院 〒569-1142 大阪府高槻市宮田町2-16-14	テニスステーション武蔵野 〒180-0022 武蔵野市境2-3-1 2階	ル クールテニスアカデミー	岐阜県テニス協会
埼玉平成高等学校 〒350-0434 埼玉県入間郡毛呂山町 大字市場333-1	東京学館新潟高等学校 〒950-1141 新潟市中央区鐘木185-1	学校法人菅生学園 東海大学菅生高等学校 〒197-0801 あきる野市菅生1468	特別非営利活動法人 アジアスポーツクラブ 〒190-0182 西多摩郡日の出町平井1449-1
全日本学生テニス連盟部長監督会 〒101-0052 千代田区神田小川町3-6-9 神田第2アレックスビル7階	関東学生テニス連盟部長監督会 〒101-0052 千代田区神田小川町3-6-9 神田第2アレックスビル7階	関東テニス協会 〒151-0072 渋谷区幡ヶ谷1-1-2 朝日生命幡ヶ谷ビル2階	一般社団法人日の出町観光協会 〒190-0192 西多摩郡日の出町 大久野17-2
亜細亜学園学友会 〒180-8629 武蔵野市境5-24-10	亜細亜学園体育会 〒180-8629 武蔵野市境5-24-10	日の出町 〒190-0192 西多摩郡日の出町 大字平井2780	公益財団法人 日本テニス協会 〒150-8050 渋谷区神南1-1-1 岸記念体育館4階

【個人・卒業生の皆様】

橋本大貴	山口悟	吉田由佳	宮 遼太
中村聡利	植野恵子	四釜泰知	豊田昭彦
柴 廣一	旗手	宮代	毛塚欣一

上記に掲載いたしました企業、団体、個人、卒業生の皆様から、国際大会運営にご協賛をいただきました。皆様からのご厚意に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。
大変失礼ながら、誌面の都合上、敬称を略させていただきました。ご容赦ください。



第1回「亜細亜大学国際オープンテニス2007」

国際大会開催までの全記録

2007年3月19-25日、私たち亜細亜大学テニス部は、日本初となる大学主催の男子フューチャーズ1万ドル大会『F1亜細亜大学国際オープンテニストーナメント』を開催しました。
準備から運営にいたるまで、すべて学生が行なった手づくりの大会の全記録がここにあります。

記事協力©テニスマガジン(2007年6月号掲載)

2006年9月

大会まであと6ヵ月

フューチャーズを開きたい!

堀内昌一監督が学生たちに「フューチャーズを開きたい」と言い始める。学生たちはまだ半信半疑で「無理ですよ」という雰囲気だった。

2006年10月

大会まであと5ヵ月

開催決定

堀内監督が学生に「フューチャーズを開催する」と正式に伝える。さらに「すべて学生でやってもらいたい。お金の集め方から運営の仕方まで、お前たちが全部考えてイチからやってみる」との指示が。学生たちは「え? 本当に?」という感じだったが、同時にこれはもう引き下がれないという状況になる。

川廷さんの視察

10月24日、ITF(国際テニス連盟)で世界的に活躍している川廷尚弘さんが視察に訪れる。亜細亜大の施設がフューチャーズに使用できるか、コートの幅、審判台の高さなど細かいところまでチェック。



準備や運営についての講義も受けた。徐々に大会のイメージが膨らんできて、「やるならちゃんとやろう」という空気が全体にできあがる。

後日、川廷さんが視察レポートを学生全員に配ってくれた

2006年11月

大会まであと4ヵ月

第1回学生ミーティング

1回目のフューチャーズ・ミーティング。議題となったのは「資金集め」。最初の構想としては、毎年つくっている庭球部パンフレットで協賛してもらっている方、日の出町(コート所在地)、地元住民のみなさんや一般企業などに、フューチャーズの主旨を理解してもらい、協力を仰ごうというもの。しかし、実際には厳しさを知り、資金集めは堀内監督、森コーチ、OB・OGが行なうことに。学生はクリニックのスタッフとして携わることとなった。

2007年1月

大会まであと2ヵ月

強化期間開始

年が明け、東レPPOテニスのボーラーなどで忙しく、あまり準備が進まず。30日から、フューチャーズを最終目標とするテニス強化期間に入る。

2006年12月

大会まであと3ヵ月



亜細亜大のセミナーハウス。フューチャーズの話合いや準備で使用したほか、大会中は大会関係者の宿舎としても1泊3000円で貸し出した

幹部ミーティングがさかんに

4年生の幹部が監督、コーチらとセミナーハウスに泊まり込んでミーティング。役割分担の項目を決めたり、協賛していたメーカーや企業を探したり、何度も打ち合わせを行なう。

資金集めの主な方法

- ・日頃お世話になっているテニスメーカー、一般企業、団体からの協賛金
- ・学校からの補助金
- ・OB・OG会からの寄付金
- ・父兄、テニス関係者など個人からの協賛金
- ・日の出町からの協賛金
- ・サポーターズクラブの発足(応援してくれる一般の方を募集。クリニック受講、記念Tシャツ、「つるつる温泉」入浴券、ドリンクサービスなどを付けて3000円で販売)
- ・チャリティークリニックの開催(一般クリニックは5000円、ジュニアクリニックは500円で開催。大会前、大会中合わせて10回ほど行なう)

※資金面だけでなく、地元商工会やたくさんさんのボランティアに支えられた

2007年2月

大会まであと1ヵ月

本格始動

フューチャーズ開催に向けて本格的に動き始める。まずは、資金集めとフューチャーズの宣伝のため、一般の方やジュニアを対象としたクリニックを開催。1日クリニックは10~12時、13~16時でひとり5000円。1日30~40人、多いときで50人くらい集まる。このクリニックを計10回ほど開催したことで、かなり資金が集まった。



部内WC選手権が突然の中止

2月9日からセミナーハウス(寮)にて合宿開始。ここで部内のワイルドカード(WC/主催者推薦枠)選手権を行なうはずが……「何も準備ができていないのに、予選会をやるなんてダメだ。そういうものは、全部決まってからやるべきだ」と堀内監督に言われ中止に。

国際大会について調査

森コーチと世界で行なわれている大会について話をしたとき、学生は何も答えられず、これでは国際大会の運営者として失格だと痛感。デ杯やグランドスラムなど国際大会をはじめ、選手の歴史についても勉強する。

2007年3月1日

大会まであと16日

「簡単に大会に出るな。大会をつくる苦勞を知った上で、大会に出ろ!」(堀内監督)

フューチャーズ開催の意義

部員全員で「フューチャーズの意義」について意見交換。運営するにも、選手として出場するにも、意義を知った上で臨んだほうが頑張れる、と思ったため。「学生はフューチャーズに出てもすぐに負けてしまう。大会を開くことの苦勞を知らなければ、試合にもっと執着心をもって臨めるんじゃないか」と堀内監督。なぜ監督が学生に運営を任せるのか、その理由を皆が理解した。

私たちが考える「フューチャーズの意義」

- 1年生の意見
 - ・外国選手との交流
 - ・ATPポイントの獲得
 - ・プロ選手を見て勉強する
 - ・多文化の理解と受け入れ
 - ・選手のルーティンを学ぶ
 - ・運営することでマネジメントを学ぶ
- 2年生の意見
 - ・社会勉強(運営、資金集め、マネジメント)
 - ・国際交流(コミュニケーション)
 - ・教養を身につける
 - ・国際大会を主観的に見られる
 - ・地域振興
 - ・大学での国際交流やスポーツ、地域振興への意欲の高さを示す
 - ・国内の他のスポーツに良い影響を与える
- 3年生の意見
 - ・大会ができあがるまでの過程を知る
 - ・大会に対する思いを知る
 - ・日本選手の強化
 - ・運営に携わることで自分自身とテニスの関わりを見出すことができる
 - ・亜細亜大学の活性化
- 4年生の意見
 - ・日本選手の強化
 - ・学生テニスのレベルアップ
 - ・学生の学習の場の提供
 - ・国際大会数が世界ランカー数と相関関係にあるため、日本の国際大会数を増やさなければならない
 - ・企業、団体、地域、マスコミなどのあらたな関わり
 - ・各企業、メーカーの宣伝
 - ・亜細亜大学テニス部と世界のつながりをつくる
 - ・大会運営の過程を学ぶ

3月2日

大会まであと15日

役割分担

誰がどんな仕事に就くのか、係を決定(項目は下記)。それぞれが部の役割や得意分野が生かせる係に就けるように話し合う。部のブログ担当はメディア係に、財務担当は賞金係に、機械関係に強い人はビデオ係に、英語が話せる人は通訳係に、など全員が能力を発揮できるように振り分け、各係でチームを決めた。細かいところまで、考えられるすべて、全力でやろうということで意見が一致。この役割分担が、大会成功のカギだった。

係と主な仕事内容～運営の軸となる大会進行係

- 幹部
 - ディレクター◎堀内昌一監督
 - アシスタントディレクター◎森稔詞コーチ、小野塚弓乃
 - スーパーバイザー◎川廷尚弘(国際テニス連盟)
 - 事務局◎宇田川裕(テニス部副部長)、金子国彦(亜細亜大職員)

3月4日

大会まであと13日

パンフレット作成開始

もともとつくる予定はなかったが、協賛してくれた方々へのお礼、記者発表への対応を考え、急遽作成することに。「パンフレットって何だ?」というところから始まったので、マスコミ関係者につくり方を聞きにいったり、これまでの大会パンフレットを集めたり、一気に慌ただしくなる。監督、コーチ、大学事務局と話し合いながら、掲載内容やレイアウトを決定。同時にプレスリリースやポスターもつくり始める。

- 運営係
 - 全体への指示
- 賞金係
 - 選手、スタッフへのギャランティの計算と管理、大会サポーターからの寄付金受け取り
- 会場・施設係
 - プレーヤーズルーム、コンピュータールーム、メディアールームの設置、学校の備品の持ち出し、管理、ドローボードの作成



- トレーナー係
 - トレーナールームの管理
- メディア・広告係
 - マスコミへの対応、ブログの更新、デیلیーパンフレットの作成
- イベント係
 - クリニック、試打会の運営、観客席の準備、式典の運営
- 練習コート、ボール係
 - ブルクティスコート予約の対応、ボールの管理
- ホテル、トランスポート係
 - オフィシャルホテル、セミナーハウスの予約代行、トランスポートの案内



- 通訳係
 - 外国人選手への対応、表彰式でのスピーチ通訳
- 写真係
 - ブログ用、記録用写真の撮影
- 電話番号係
 - 選手、関係者からの電話対応

3月7日

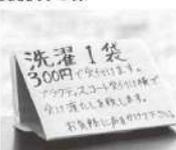
大会まであと10日

部内WC選手権開催

2月上旬に行なはずだった部内ワイルドカード選手権をようやく開催する。「皆に機会を与える」というのが目的だったので、学生全員が参加。実力によって、上からABCDブロックに分け、8ゲームマッチの総当たり戦を行なう。下部で勝ち上がった2名が上のブロックへ移動、というのを繰り返して、最終的に本戦ワイルドカード4名(大塚、富田、篠川、井上)、予選ワイルドカード3名(古城、牛田、風早)を決定。また、この頃からストーブ、テント、パイプ椅子など学校から備品を運び出し、施設の設置準備が進む。

選手に戦いやすい環境を提供する係

- 洗濯係
 - ランドリーサービス(セミナーハウスの洗濯機を使用、乾燥室用の部屋を借りて乾かす)
- インフォメーション係
 - 会場の地図や案内板の作成と設置、自転車の貸し出し



今後の検証材料として、選手のデータを集める係

- アンケート係
 - 選手へのアンケート調査(アンケート用紙を複製し、選手の実態を調査)
- ビデオ係
 - 本戦の全試合をビデオ撮影(販売も行なう)
- スコアシート係
 - 全試合のスコア記入(ウインブルドンの集計用紙と同じものを使用。確率やミスの種類まで細かくチェックし、試合後に渡す)
- 体力測定係
 - プロの体力測定(握力、垂直跳びなど、プロの体力や筋力を測定)



- マニュアルづくり係
 - 来年以降の資料として役立てるため、各役職の仕事内容などを記録

- Tシャツ係～記念Tシャツの作成、販売
 - 「亜細亜大学硬式庭球部」「日の出」「未来」「一球入魂」「一期一会」と描かれた5種類の大会記念Tシャツを販売。文字は監督のお母さん(習字の先生)に描いてもらい、テニスショップ「テニスファクトリー」の八田修孝さんに協力してもらって作成。一般の方たちが着ることも考えて、落ち着いたカラーにした。



3月12日 | 大会まであと5日

泊まり込みのホチキス止め

パンフレットの中身がやっと完成。しかし、装丁に予想以上の時間がかかる。コピー、ホチキス止めを泊まり込みで行ない、200部を作製(パンフレットは大会期間中に何度か足りなくなって、そのたび追加し、結局300部くらいつくった)。このあたりが焦りのピークだった。

3月13日 | 大会まであと4日

学生ワイルドカード選手権

関東リーグ1部校からの各4名と学生連盟からの推薦8名で、大学生だけのワイルドカード選手権が始まる。ワイルドカード予選3大会は川廷さんが不在なので、レフェリー係を中心に大会を運営する。

3月14日 | 大会まであと3日

記者発表資料が完成

できあがった大会パンフレットとプレスリリースを、庭球部パンフレットと大学パンフレットといっしょにファイルにセットし、記者発表用の資料が完成。また、学生ワイルドカードが早稲田大学の佐藤文平、吉備雄也に決定。



3月15日 | 大会まであと2日

初めての記者発表

堀内監督、小野塚AD、メディア担当・蒲谷の3名で岸記念体育館へ。集まった新聞記者、雑誌記者、スポーツライターなどにパンフレットの入ったファイルを手渡す。堀内監督が大会開催の主旨について発表する。



初めての記者発表に緊張気味の監督

一般WC予選サインアップ

一般ワイルドカード予選のラインアップが開始。海外選手も含め、107名がサインをしにきてくれた。部員も全員がサイン。そのうち出場できるのは64名。

3月18日 | 予選2日目

ドローボード準備!

本戦ドロー抽選会の結果を受けて、ドローボードを作成。本戦1日目用のデイリーパンフレットもできあがる。



3月17日 | 予選1日目

予選開始!

役割分担でやるべきことは決めてあったが、実際に試合が始まるとわからないことだらけで慌てる。OPやドローに掲載している韓国入選手や中国人選手のアルファベット表記が見にくいということで、漢字表記に直すことになり、選手個人に直接聞きにくい。スコアシート係は本戦から行なうということだったが、予選も準備期間として始めることに。

[1]	SUN, Peng	孙鹏
	OKI, Ryo	大木 亮
	FURUTA, Takeshi	海老野 隆志 古田 剛
	CHANG, Kai-Lung	張 凱龍
	DOERNER, Scott	ドナー スコット
	TOYOTA, Selya	豊田 聖也
	KOGA, Kunio	古賀 久生
[13]	SIMPSON, Matthew	シンプソン マシュー
[2]	GONG, Mao-Xin	孔 毛新
	LIN, Tzu-Yang	林子揚
	KOJIMA, Tatsuji	小島 辰夫
	ASAKURA, Makoto	朝倉 誠

3月16日 | 大会まであと1日

宿泊開始

一般ワイルドカードの予選が始まる。本戦選手がコートにやってきて、サイン&プラクティス。この日からセミナーハウスに宿泊開始。



セミナーハウスは8人部屋。大会終了まで全員が宿泊

3月19日 | 本戦1日目

本戦スタート!

いよいよ本戦開始。専門誌をはじめ、マスコミの方が多く集まり、プレスバスやパンフレットを渡して対応する。今日からラインズマンが入るので、朝から気合いを入れて練習。試合後、初の洗濯注文を受ける。夜中にプラクティスコート予約の電話がかかってきたり、デイリーパンフレットやブログの更新に追われたりと、忙しい雰囲気に。試合は篠川が1回戦を突破してATP1ポイントを獲得、学生として2人目のATPランカーに。



ラインズマンは毎朝、大声で練習

3月20日 | 本戦2日目

杉田選手が登場!!

シングルス1R、ダブルス1Rが行なわれる。デ杯の活躍もあって注目された杉田祐一選手が勝利し、盛り上がる。



ランドリーサービスは外国人選手がよく利用してくれた。最初500円だったがちよっと高いのではという話になり、300円にしたところ急に注文が増えた

デイリーパンフレットは夜原稿を書き、翌朝にコピー。学校も印刷所も開いていないので、近くの病院の売場でコピー機を使わせてもらう



ドローボードに本戦選手の顔写真を貼ろうというアイデアが出る。多くの選手が快く協力してくれた

1日のスケジュール

- 06:30 起床
- 07:00 朝食
(食べ終わったら各自コートへ)
- 07:30 コート集合
掃除、準備
- 08:30 選手が来始める、サインアップ
- 09:00 プラクティス
- 10:00 試合開始
(各係が就く。時間があったら試合観戦。運営に慣れてきた大会後半は夕方から練習練習練習...)
- 18:30 試合終了後、片付け
- 19:00 夕食→入浴
- 21:00 ミーティング
(係ごとに今日の報告、反省点、意見などをチーフが発表。こうしたいんじゃないかと思うことを毎日話し合う)。ミーティング後は自由時間(自分の仕事が終わったら就寝)

3月21日
本戦3日目

祝日で大盛況

シングルス2R、ダブルス1Rが行なわれる。祝日だったので、地元の方やOBの方もたくさんきてくれた。小学生対象のクリニックも開催。また、鈴木貴男選手がきてくれたので、体力測定に参加してもらった。次週の早稲田大フューチャーズに参戦する韓国と中国のデ杯選手が練習しに来たので、どんなメニューを行なっているか調査する。



茶園鉄也選手(左)、寺地貴弘選手(右)がアンケートに答えてくれた

3月22日
本戦4日目



選手のサインを集めたサインボードはすばらしい記念

折り返し地点

大会も折り返し地点。みんな気持ちに少し余裕が出てきて、細かいことにも気づくようになる。シングルスは2R、ダブルスは準決勝が行なわれる。注目の杉田選手はフルセットで惜敗。

3月23日
本戦5日目

強風が吹き荒れる

シングルスは準々決勝、ダブルスは準決勝に突入。風が強く、本部の資料が飛んでいってしまったり、スコアボードが倒れそうになったり……。夜のミーティングでは、明日のダブルス表彰式に向けて会議を行なう。

杉田選手にサインをもらう



近藤大生選手(左)がTシャツをお買い上げ。漢字が受けて、外国人選手も購入してくれた

OGでもある岡本聖子さんが会場を訪れ、体力測定に参加してくれた



杉田選手にサインをもらう

3月24日
本戦6日目

ダブルス表彰式で感激

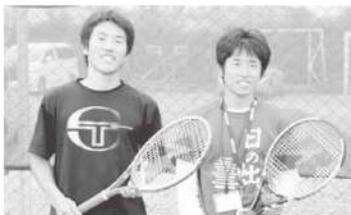
ダブルス決勝戦でOBの佐藤博康選手が登場。選手入場では、学生が花道をつくり、会場を盛り上げる。惜しくも準優勝だったが、「母校のフューチャーズに出られるとは思っていませんでした。学生が本当にがんばってくれて、よい週間を過ごせました。今後も継続して頑張ってください」と激励の言葉をもらった。最後に選手、スタッフ、そして観客の方もいっしょに写真撮影を行なう。



ダブルス表彰式



初めてボーラーが入る



クリニックおよびブリヂストン試打会を開催

最終ミーティング

決勝戦に向けての最終ミーティング。学生の疲れはピークに達するが、監督からは「明日、達成感を感じたとしても、それで終わりじゃない。この経験をどう生かすか、すぐに考える。『やりっぱなし』で終わるな!」と喝を入れられる。川廷さんからは表彰式の改善点、雨天時の対処法など、細かいチェックが入る。



サプライズパーティー

ミーティング後、4年生から再び招集がかかる。何が始まるのかと思いきや…「これまでついでにありがとう」と特大ケーキのプレゼント! 体はきつかったが、「最終日、これまでの総決算として絶対に成功させよう!」という元気が湧いてくる。



3月25日
本戦最終日

初代チャンピオンに林(イム)選手

最終日の早朝は土砂降りの雨。午前中に止んで、素早くコート整備を行なうも、またすぐに降り出すというアンラッキーな事態に。しかし、雨天時の対処法は前日に確認できていたので、みんな慌てず臨機応変に対応。こうして14時に決勝が開始し、韓国のイム選手がベテラン茶園選手をフルセットで下して優勝した。表彰式は昨日の反省を生かしてスムーズに進む。



新聞紙やタオルも使い、大急ぎで乾かす



記念すべき初代チャンピオンは韓国のイム選手(左)、右は準優勝の茶園選手
決勝前、選手の名前やプロフィールをアナウンス



雨だったにもかかわらず、多くの観客が集まった

感動のフィナーレ

表彰式後、花道をつかって選手を送り出す。すると、学生から「監督も通ってください!」との声が。コートの隅でひとり号泣していた監督を、学生が引っ張り出し、拍手喝采の花道を通す。「学生たちが日に日に成長していくんだよ。みんなエキサイトして一生懸命やっている姿がうれしくて。こいつら、すごいな。本当にやってくれたんだなと思ったら…感動しちゃったよ」(監督)。



学生たちに囲まれ、監督は大粒の涙



最後に皆で写真撮影

「世界の壁は厚い。でもそれを破っていくことが大事だ。そのエネルギーを感じたんだから、やるしかないだろう」(堀内監督)

interview

「日の出で世界を体感して」

亜細亜国際オープンテニス大会2019で活躍した
3年生コンビ・高見澤岳飛(法学部)と朝倉菜月(経営学部)に
今大会を振り返って貰いました。

伊達(インタビュアー、国際関係学部4年):

高見澤選手は今大会、韓国の選手に惜敗となりました…朝倉選手はダブルスで外国人シード選手との接戦をものにされましたね!振り返ってみていかがですか?

高見澤:ファーストセットを取ることができリードする展開が多くあったのですが、終盤にかけて自分のミスや相手のエースが増えてきてしまいました。ショットの選択のミスや最後の決めきる部分での自分の甘さや、海外の選手のタフさをとても感じた試合でした。

朝倉:海外選手に比べ私達はサーブ力やストローク力が劣っていましたが、ボレーやヘアとのコンビネーションは私達の方が高かったかと思います。(ペア:南文乃)ストロークだけで勝負せずお互いが得意とするネットプレーで勝負出来たことが勝因ではないかと思います。

伊:海外選手と対戦して、日本人プレーヤーと何か違いは感じましたか?

高:フィジカルやパワーが違うと感じました。1試合中落ちることなく走り続ける体力やボールの回転量、スピードなどが日本人選手より上回っていると感じました。

朝:サーブのスピードやストロークの威力の違いですかね。身長が高い選手が多い為上から打たれる分体感スピードはかなり速かったです。ストロークは常に深いボールで、攻める隙を与えてもらえませんでした。ですが、精神的な面では日本人選手の方が落ち着いていて相手をよく分析しているなと思いました。

伊:学生としてフューチャーズ運営に関わって、何か学んだ事はありますか。

高:自分達はいつも試合を行う側なのですがフューチャーズの運営を行うことで、運営の大変さを学ぶことができました。特に雨の日の対応などがとても難しく、忙しい中で選手の対応もしなければならぬので…いつもなにも思っていなかった運営の方々々に感謝をして試合をしようと思えるようになりました。

朝:メディアとしてデイリーを書く、日本語版のドローを作成するなど、各メディアに情報が行く大事な作業をする事で、責任感や仕事の重要性について学ぶ事が出来ました。

伊:ツアーの仕組み編成など、変革の1年となりました。選手として・運営側として大きく変わったと思う事は何でしょう。

高・朝:選手としてはATPのポイントが取りにくくなりドロー数も減ったので大学生が出場するのはとても厳しくなったと思います。

高:運営としては、ドロー数が固定されたりして今までとは違う形で開催されているので開催中というよりは開催前がとても大変だと思いました。

伊:他大学の運営する学生フューチャーズシリーズにも出場されて、雰囲気の違いや各大会の特色などはありますか?

高:どの大学も学生が主体となって開催していて、選手を第1に考えているのでとても良い雰囲気で開催されていると思いました。亜細亜では学生から主審を出していてそこは他の大学とは違うと思いました。

伊:最後に、学生がフューチャーズを運営する意義はなんだと思いますか。

朝:競技力向上、人間力向上、社会貢献であると思います。海外選手や日本のトップ選手と対戦したり、試合を観戦する事ができる事だと思います。

高:「学ぶこと」だと思います。運営の大変さを学ぶこと、社会に出た時の厳しさを学ぶこと、自分達がどれだけ支えられているかを学ぶこと、様々なことを学ぶことができます。日頃何も思っていないことに対しても感謝することを学ぶこともでき、その感謝によって人間力や競技力が向上すると思います。なので自分は学ぶことだと思いました。

両選手、貴重な時間をありがとうございました。

大会を通じて大きく成長した学生達から、今後も目が離せません!!



思

い出せば、けっこう不思議な光景だった——。

東京の西の最果、武蔵野の面影残る日の出町は土砂降りの日曜。上がった雨が、また泣き出しそうな黄昏どきだ。ジャージ姿の学生たちがコートサイドに集まり、そこから女子大生の肩を抱いた中尾彬が転がるように現れた。女子大生は泣きじゃくり、中尾も大粒の涙。学生たちは胴上げとか笑いながら、いや、泣いている者もいた……。

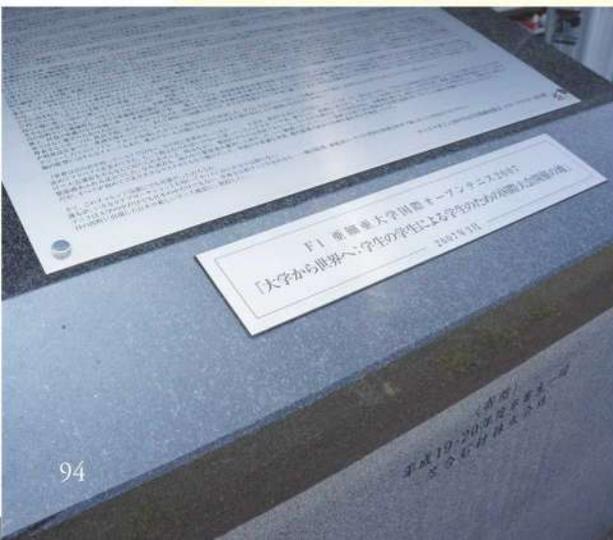
よく見ると、中尾彬ではなく“ホッチ”こと亜細亜大学硬式テニス部の堀内昌一監督、よく見れば、英文の横断幕がネットに揺れている。〈F1亜細亜大学国際オープンテニス2007〉——3月から展開された男子テニスのフューチャーズ5大会、その幕開け、F1亜細亜が終わったところ。監督と女子学生が涙する昭和の卒業式のような光景は、彼らにしかわからない物語だった。しかし、彼らだけの物語ではなかった。

フューチャーズは、ATPツアーのもっとも下位の大会である。本戦で1勝して1ポイント、優勝すれば12ポイント獲得できる。F1亜細亜は本戦32ドローに予選は64ドロー、さらに予選のワイルドカード8本のうち4本を公開して予備予選(32ドロー)を行なっている。8勝してやっと1ポイントを手にする勘定になる。

1ポイントで念願の世界ランク1518位タイ、ざっと500人の名前が並んでいる。四大大会の予選カットは250位前後で、最低150ポイントは必要だ。ロジャー・フェデラーの7715ポイントは、なんと遥かなるアラモだろう。

「学生たちにランキングを持つチャンスを与え、学生テニスも世界と結びついていることを再確認したい」というのがフューチャーズ主催に名乗を上げた理由だが、堀内監督の思惑はそこだけに止まら

平成19・20年卒業生がこの石碑を部室の前に立ててくれた。F1亜細亜大学国際オープンテニス2007開催を記念して、ここに紹介したテニスマガジン掲載記事と「大学から世界へ～学生の学生による学生のための国際大会開催の地」という文字が彫られている



ない。

日本には、以前からこうした大会は存在した。堀内監督も日本体育大学で活躍していた80年代前半、メーカーなどが主催して春季サーキットが開かれ、ジャパンオープン(現・楽天オープン)もそうした流れから誕生している。90年代にもサテライトが開かれたものの、辛うじて鈴木貴男をグランドスラムに送り出したくらいの成果しかなかった。

フューチャーズの登場でポイントが取りやすくなるとはいえ、世界と結びつければ近隣の強敵たちも来日する。終わってみればF1亜細亜では、ベテラン茶園鉄也の8ポイントを筆頭に近藤大生が2、ほかに6選手が1ポイント獲得し、学生は杉田祐一(早稲田大・三菱電機)と亜大の新1年生・篠川智大がゲット。

杉田は〈学生〉の対象外だから、日本選手、まして学生のポイント獲得が難しいことには変わりがないのだ。ただ、これは想定内だった。テニスはやって楽しく、見て楽しい。読んで楽しい人は少なく、運営の楽しさを知った人も多くない。F1亜細亜は日本初、川廷尚弘スーパーバイザーによればアジア初の学生の自主運営による大会だった。

学生運営の大会は、堀内監督の20年来の夢だったという。早稲田大学との絡みでその機が巡ってきた。この秋、早稲田大は創立125周年を迎え、大々的に記念行事が行なわれる。杉田や卓球の福原愛の部外入学、ハンカチ王子こと斉藤祐樹投手の話題づくりとともに、早稲田大庭球部のフューチャーズ開催も記念行事活動と連動している。この動きを見て、単独では名乗りを上げられなかった亜細亜大が、千載一遇のチャンスとばかりアプローチショットを放って、ネットに出たのである。

「僕もアメリカに留学してサテライトを回りました。大会は手づくりの素朴なものでした。これまでの日本のフューチャーズも、みなさんが一生懸命手伝って温かい大会になりましたが、それを学生にやらせたかった。人と接することでたくさんのお話を学び、テニスを別の角度から見ることで、テニスをもっと面白く、好きになれるはず」



2007年亜細亜大学国際オープンテニス・総括

日の出に 世界がやってきました。

文◎武田薫 記事提供◎テニスマガジン(2007年6月号)

自分たちのポイント獲得だけが目的ではないから、ワイルドカードの特権を他校の学生にもジュニアにも分けている。

予選には、内外から107人のプレーヤーが日の出町までサインアップにきた。55人の部員は選手全員の練習コートを手配、準備しなければならない。セミナーハウスを一泊二食付3000円で宿舎に開放し、近郊の昭島や八王子に滞在した選手の送迎の世話、洗濯の案内、自転車のレンタル、ツアープロの命綱・インターネット利用のため、大学から10台のコンピューターを借りた。画期的なデイリープログラムの作成にブログの逐次更新。国際大会だから英語表記あり……。予算は限られていたから、試合進行とこうした周辺作業すべてを、学生自らの手でこなさなければならない。

運営が学生だろうが、選手からは手厳しい注文が飛び込んでくる。

「使わなかったボールは練習で使うから、返さないよ。練習ボールと質が違う」と言い張ったのは、ニュージーランドから予選参加したアダム・トンプソン、テ杯代表でもある。

「一応プロだ。いまは親が援助してくれる。もう24歳だから精神的にきつくてね。ホテルは一泊80ドルだぜ。ニュージーランドならヒルトンホテルに泊まれる。どうしてもランキングを上げたいんだ」

健闘空しく予選落ちすれば、日本選手は恵まれているとヤケにもなる。シングルス本戦のWCをもらった大塚真之助は、1回戦敗退と同時に賞金・会計担当補佐に回っている。

「ボールの手配や水の準備、これまで当たり前前に思ってきたことがけっこうたいへんで、貴重な経験でした」

あとから「何度計算しても5000円少なくて」と電話が入り、慌てたこともあっ

た。デスクの向こう側に座って初めて聞くツアープロのナマの声——間違いなく、学生たちがテニスを見る目は変わっただろう。

ダブルスで準優勝した亜細亜大OBの佐藤博康がこんな感想を話した。

「日の出町でフューチャーズをやるとは思わなかった。OBとしてうれしいし、決勝を戦えてよかった」

日の出町という地域性も、このF1亜細亜の特徴だ。

日の出町は、1983年、中曽根康弘元首相の別荘での米国ロナルド・レーガン大統領とのロンヤス会談で話題になったことがある。新宿から中央線の立川で乗り換え、拝島で単線の五日市線に移って武蔵引田駅下車——駅からの道端に野菜の無人販売所があり、テニスのプロ大会の開催地でこれほどの遠隔地はかつてのハヶ岳くらいなものだろう。だが、フューチャーズは観客ではなく選手のための大会というところがミソなのだ。雨の中を訪れた青木國太郎町長はご祝儀を手にもうれしそうである。

「26年前にゴミ焼却場を誘致してから、自然とスポーツがこの町のテーマでした。モラルを尊重するスポーツは、町民平和に結びつく。まして初めての国際大会です。ますます発展することを切に願っています」

学生は近隣住民にテニスクリニックを行い、地元の人たちはうどんコーナーを切り盛りし、商工会が特産品を並べて一体感を味わっていた。

かつて、デビューしたてのアンドレ・アガシが会場したボストン郊外の大会を取材した。夕方になるとパーベキューの煙がコートに流れ、近所の人たちがビール片手にワイワイと賑やかだった。堀内監督にはそんなイメージもあり、地元ア

ピールの場になればそれはまた別のおもしろい展開になるかもしれない。

『世界は日の出を待っている』ではなく、日の出に世界がやってきた……。

大会中、寝泊りをともにした川廷スーパーバイザーは二重丸をつけた。

「学生たちは毎晩反省会を開き、いつボール交換するかなど自分たちで決めてアドバイスを求めてきた。もっと教えなければいけないと思っていたんですが、いやあ、楽でした」

茶圓も「若いから、テキパキして気持ちよかったね」と拍手を送り、優勝した韓国の林奎泰はこうだ。

「学生だけで大会運営をやるなんて信じられませんよ。残念ながら、韓国の学生には真似できないな」

そんな声を聞けば、小川春男学長も、決勝戦の寒の中、朝から夕方まで付き合った甲斐があった。

「国際大会に相応しい緊張感あふれる試合でした。学生諸君も、雨の中で緊張感を維持し立派だった。いい勉強になったでしょう」

最終日は雨で試合開始が5時間も延期され、そのことも運営の経験になったと言はたやすい。だが、すべてが初めてであり大きなリスクをとまなう賭けだった。冒頭の不思議な光景、堀内監督の涙がその舞台裏を思わず物語っていた。

さて、このチャレンジは誰にでも可能だったのだろうか。誰もが、いきなりアプローチショットを叩いてネットに出られるとは限らない。

テニスは大学の中だけでも日本の中だけでもない、世界を目指すことを忘れるな——堀内監督、森稔詞コーチの日常的な指導方針が下地にあることを忘れてはいけない。日の出町に出現した日本の新しいテニス風景に、期待したい。

〔2007亜細亜大学国際オープンテニス〕ダブルス決勝のあと、大会スタッフとして働いたテニス部員も加わり、入賞選手を囲んで記念撮影。中央にいる2ペアが優勝、準優勝ペア。右の2人が、惜しくも準優勝だった亜細亜大学OBの佐藤博康とそのパートナーの李明



あなたも
サポーター

亜細亜大学国際オープンテニス チャリティーテニスクリニックに ご参加ください!

このクリニックの収益はすべて国際大会運営費に充てられます。

よってクリニック参加のみなさまは
大会サポーターであるとともに亜細亜大学テニス部のサポーターでもあります!

“テクニカルシリーズ”開講中!

2007年にスタートした『亜細亜大学国際テニス大会～チャリティーテニスクリニック“テクニカルシリーズ”』は、これまでに年間およそ20回、2018年現在までを数えるとおよそ200回ほど開催してきました。

クリニック開催の目的は大きく分けて2つあります。ひとつはテニス部員と一

般プレーヤーのみなさまとの交流機会を増やしたいということ。そしてもうひとつは、このクリニックでいただく参加費を『亜細亜大学国際テニス大会』の大会運営費用に充て、みなさま方ひとりひとりに大会サポーターとなっただき、さらには、亜細亜大学テニス部のサポーターになって、応援していただきたいという思いがあります。

クリニックの講師は、テニス部の堀内

昌一監督、森稔詞コーチ、宮崎靖雄コーチのいずれかが務め、現役部員がサポートして、各回テーマに沿ったいい指導を心掛けています。もう一段階向上したいとお考えのテニスプレーヤーのみなさまに対して、期待に応える内容をご提供したいと思います。みなさまのご参加を心よりお待ちしております。

亜細亜大学テニス部一同

テーマは“テクニカルシリーズ”として細かく設定

例 サービス編 | レシーブ編 | ストローク編 | ボレー編 | プライベート編 など



情報およびお申し込み方法は、随時ブログに更新中!

亜細亜大学テニス部ブログーEVER UPWARD!(意味は「限りなく向上せよ」)

<http://autennis.livedoor.biz/>

亜細亜大学国際テニス大会チャリティークリニック 参加者を代表して

下田 敏雅さん



亜細亜大学テニス部との出会いで、テニスの面白さを実感出来、また改めて継続していきたいと感じました。

亜細亜大学庭球部関係者各位殿

この度は、テニスクリニックの感想の御依頼、御指名頂きまして誠に有難うございます。

私は、文才は御座いませんが少しでもクリニックの体験の良さをお伝え出来ればと思っております。

まず、参加の切っ掛けは、他所で堀内監督・森コーチにテニスの御指導を受ける機会が有り、亜細亜大学でもクリニックをされる事を知り、幾度も参加させて頂くようになりました。

次にクリニックの感想です。

私にとって最初の収穫は、テニスエルボーになりかけた時、クリニックに参加したことで、体の機能的な使い方を教わり、大きな故障を未然に回避しテニスが出来た事です。テニス仲間は、現在テニス肘で痛みと戦っております。おかげさまで私は痛みとは現在無縁です。

次の収穫は、今更ですが再度基本を教わったことにより、少しずつ試合でのラリーが安定してきました。各上の対戦相手に対して以前は不安を抱えておりましたが、勝敗は別にしてミスが少なくなりゲームが少し楽しめるようになりました。現在下部ですが、実業団の対抗試合に出場させて頂き、団体戦なので特に勝ちを意識しますが、ベースになる球が安定的に打てるようになってから、戦術戦略を考えられるようになりました。勝ち進めるのは大変嬉しいです。

次の収穫ですが、クリニック参加で御指導頂く学生さんやテニスを上達したいと志が同じ他のクリニック生の方々と多くお知り合いにな

れた事です。知り合いになった学生さんが学生の大会で御活躍されている試合を観に行きますと、試合のテクニックや応援が自分にとってとても参考になり、実業団の試合にも生かせます。また、他のクリニック生様とは、志が同じいか意外と悩みが共通なので、第三者的立場から悩みを理解でき、自分の弱点の改善に役立ちました。

最後の収穫ですが、クリニックの参加費用が、フューチャーズ大会に充てられ開催されますので、プロ選手の試合やテクニックが大学のコートで間近で観戦出来ます。また、プロ選手と知り合える切っ掛けが有り、その選手が他の大会でも御活躍されますと、何か訳もなく大変嬉しいです。有明コロシアムでお会い出来ますと、声を掛けずにいられません。

このような素晴らしい機会をお与え下さいまして大変感謝しております。

堀内監督・森コーチ・宮崎プロ

今後とも末永く、このクリニックを継続されることを切に願っております。



小原 崇さん



熱心に取り組んでくれるテニス部の皆さんとテニスをするのが楽しくて楽しくてしょうがないのです。

チャリティークリニックのことを知ったのは2012年にテニスマガジン主催で行われた秩父での「大練習会」に参加した際でした。堀内監督や森コーチのクリニックが行われたこともあり亜細亜大学のテニス部の皆さんが手伝いで参加されていたのですが、接するテニス部の皆さんが非常に丁寧かつ熱心で感心したのを覚えています。以降、チャリティークリニックには都合が合う限り参加させていただくという形です。

自宅は横浜で日の出のコートまでは片道2時間ほどかかるためクリニックへの参加はほぼ半日作業となります。夫婦でテニスをしているため二人で3時間のクリニックを受けるために4時間かけて通っていることになり、周囲にその話をすると首を傾げられることが多いのですが私たち夫婦はその価値が十分にあると考えています。そこで、ここでは一参加者として私たちが感じているクリニックの価値を述べさせていただきます。

ます。

1. 指導者(監督、コーチ)の説明が

分かりやすく、実行しやすい

夫婦そろって30過ぎてからテニスを始めこともありある程度理論的に説明してもらえないとなかなか実行できないことが多いのですが、説明が非常にわかりやすく納得して取り組むことが出来ます。また、個別へのアドバイスが非常に適切ですぐに成果が出る事が多いです。この辺りは多種多様な部員を一人前の選手になるように指導してきた経験が大きくものを言っているように感じます。

2. テニス部の皆さんが熱心で

接していて心地よい

クリニックでは生徒2~3人に一人といった割合でテニス部の皆さんが指導についてしっかりこちらのプレーを見てサポートしてくれる体制になっています。テニス愛好家という立場でこのレベルのプレーヤーがマンツーマンに近い形で見てくれるという環境はなかなか無いと思います。

また、教える事の上手い下手といった個人差は当然ありますが皆さん非常に熱心でなんとか上手くなって欲しいという熱意が伝わってきますので自ずとこちらもその思いに答えたいという気持ちが出てきてモチベーションが高まります。

3. 日本テニスの発展に

多少なりとも貢献できる

チャリティークリニックの収益は毎年3月に亜

細亜大学で行われるフューチャーズ大会の開催資金に充てられます。錦織圭選手らの活躍でグランドスラムなどでの大会の注目度が高まっていますが、ほとんどのプロテニス選手はまずフューチャーズ大会でポイントを稼ぐことによってさらに上のレベルにチャレンジしていきます。この登竜門であるフューチャーズ大会はアメリカやヨーロッパではほぼ毎週のようにどこかで開催されていますが日本では数が少なくプロとして活躍する最初の時点で日本の選手はハンデを抱えていると言えます。そういう意味でも亜細亜大学などで春先に開催されるフューチャーズのシリーズは日本人選手にとって非常に重要な位置づけとなっています。チャリティークリニックに参加することでフューチャーズ大会の開催に協力できるという事は日本テニスの発展に多少なりとも貢献できるということにつながると言えると思います。テニスを教えてもらう上に日本のテニスにも貢献できるなんてなんて素晴らしいことでしょう!

これから出てくる若いプレーヤーのためにもフューチャーズ大会は続けて欲しいですし、そのための協力は続けたいと思っています。ただ、そういうのを抜きにしても素晴らしい指導者の教えを請いながら熱心に取り組んでくれるテニス部の皆さんとテニスをするのが楽しくて楽しくてしょうがないのです。夫婦してこれからも片道2時間の道のりを通い続けるつもりですので今後ともよろしくお願いいたします。

2020亜細亜大学国際オープンテニス

F1 Asia University International Open Tennis

大会要項 (予定)

日程

予選	2020年3月上旬	シングルス	24名
本戦	2020年3月上旬	シングルス	32名
		ダブルス	16組

賞金ブレイクダウン
US\$15,000

ITF WOMEN'S CIRCUIT

2020亜細亜大学国際女子オープンテニス

Asia University International Women's Open Tennis

大会要項 (予定)

日程

予選	2020年3月中旬	シングルス	24名
本戦	2020年3月下旬	シングルス	32名
		ダブルス	16組

賞金ブレイクダウン
US\$15,000

試合方法 ●トーナメント方式(ベストオブ3セットマッチ6ゲームオール後タイブレイク採用)
会場 ●亜細亜大学日の出キャンパス テニスコート(ハードコート8面)
〒190-0182 東京都西多摩郡日の出町平井1449-1 TEL042-588-5817 FAX042-588-5817

詳細は…

国際テニス連盟 (ITF) <http://www.itftennis.com/procircuit/>
日本テニス協会 (JTA) <http://www.jta-tennis.or.jp/>
亜細亜大学テニス部公式サイト <http://www.asia-tennis.com>

※2019年6月現在の予定。大会開催時期は申請済みです。